国語科における教科の目標、見方・考え方（案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
柱書	国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。		
小学校	• 日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に触れながら親しむことができるようにする。	• 国語で筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	• ①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程に気を付けながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 • ②言語感覚を育み、我が国の言語文化に触れ、国語を尊重する態度を養う。
中学校	• 社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に親しみながら理解できるようにする。	• 国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	• ①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を確かめながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 • ②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。
高等学校	• 生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を理解できるようにする。	• 国語で論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	• ①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 • ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

見方・考え方

様々な事象を表す自他の言葉を、その意味や働き、使い方に着目して吟味し、多様な立場や考えを理解して、よりよく伝え合おうとすること

高等学校国語科・各科目の目標（案）

※具体の文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

国語科の目標（※小中高共通）		
柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに，我が国の言語文化を理解できるようにする。	国語で論理的に考える力，深く共感したり豊かに想像したりする力，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。

現代の国語Ⅰ （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
現代の国語Ⅱ （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め，発揮する。	同上
論説と批評 （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	学術的な学びの基礎に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力を高め，他者や自己の思考の妥当性を吟味する力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
対話と表現 （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	多様な他者との多角的な関わりに必要な国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を発揮し，様々な媒体を通して言葉で他者と協働する力を養う。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，自分の考えや表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅰ （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け適切に使うとともに，我が国の言語文化を広く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や解釈、考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅱ （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け効果的に使うとともに，我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力や，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高める。	同上
文学と創作 （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	創作に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め，創造的に考える力を養う。	同上
古典と文化 （仮称）	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	古典の文章の理解や表現に関する国語の知識や技能を身に付け使うとともに，我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高め，現代における価値を創出する力を養う。	①様々な文章に触れて自ら進んで考え，理解や解釈、考えを伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能」ごとに位置付けた思考・判断・表現の力を総合的に発揮し、自分の考えや思いをよりよく伝えることができる姿を示している。これにより、文章の型や手順をなぞって終わる授業ではなく、文章の機能を踏まえつつ生徒が相手や状況、目的を意識し、相手によりよく伝わる表現を工夫する授業へと改善することを促す。

② 言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを生徒が理解している姿を示している。これにより、語句や文法などの個別の知識を機械的に覚える授業ではなく、それらを実際の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの中で結び付けて使い、文章の理解が深まり、考えが整理され、表現がよりよくなることを実感できる授業へと改善することを促す。

③ 言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を生徒が理解している姿を示している。これにより、言葉や文字の仕組みを知ること、古典や読書に親しむこと、文字を整えて書くことなどを、それぞれの知識や技能を機械的に習得する授業ではなく、それらが自分の考え方や感じ方、他者との関わり、社会や文化の在り方にどうつながるのかを実感できる授業へと改善することを促す。

※例は「書くこと」の領域であるが、知識及び技能①の側面は、「読むこと」など他の領域の学習の過程でも生かし深めることを前提としている。

		書くこと		
思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などの文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・根拠に基づいて主張する文章などを書く
			思いや経験の表出と想像	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く
知識及び技能	（1）運用しながら深める事項	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例
		社会生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて**使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解**している。	話や文章の構造	・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴、・段落の構造、・場面の設定など
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択、・表現の技法の種類とその特徴、・引用の仕方や効果など
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係、・情報の整理の仕方など
			情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方など
知識及び技能	（2）教養として深める事項	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例
		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、**自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解**している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き、・書き言葉と話し言葉、・漢字の読み方・書き方、漢字の構成、・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き　など
			伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ、・古典に表れたものの見方や考え方
			書写	・楷書や行書の書き方、・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

統合的な理解・総合的な発揮

				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
小学校	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項	日常生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	日常生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 （同左）	日常生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

統合的な理解・総合的な発揮

				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
中学校	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能	統合的な理解	（１）運用しながら深める事項	社会生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	社会生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（同左）	社会生活に必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			（２）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

統合的な理解・総合的な発揮

				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
高等学校	現代の国語Ⅰ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
		知識及び技能	統合的な理解 （1）運用しながら深める事項	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（同左）	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		
	言語文化Ⅰ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、思いを感性豊かに伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
		知識及び技能	統合的な理解 （1）運用しながら深める事項		我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			（2）教養として深める事項		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	

統合的な理解・総合的な発揮

					話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
高等学校	現代の国語Ⅱ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的かつ効果的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解したことを踏まえて自分の考えを吟味し再考することができる。
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（再掲）	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
				（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		
	論説と批評	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮			相手や状況、目的に応じて、考えや意見を効果的に論述することができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、他者の思考の妥当性を吟味し、自分の考えを省察することができる。
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項		学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
				（2）教養として深める事項		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	
	対話と表現	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、効果的に対話し他者と協働することができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に表現することができる。	
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項	多様な他者との多角的な関わりに必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	多様な他者との多角的な関わりに必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（再掲）	
				（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

統合的な理解・総合的な発揮

					書くこと	読むこと
高等学校	言語文化Ⅱ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、思いを感性豊かかつ効果的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて批評し、自分の考えを広げ深めることができる。
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
				（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	
	文学と創作	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、思いをもとに言葉で豊かに創作することができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて批評し、自分の考えを吟味し再考することができる。
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項	創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
				（2）教養として深める事項	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	
	古典と文化	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて古典の価値を見出し、自分の考えを広げ深めることができる。
		知識及び技能	統合的な理解	（1）運用しながら深める事項		我が国の伝統的な言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
				（2）教養として深める事項		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。

単元構想に向けた「統合的な理解」「総合的な発揮」の活用イメージ
【高等学校　国語】



自分の意見や考えを論述する文章については、今まで何度も書いてきたはずだけど、まだまだ苦手な生徒が多いな。そもそも「意見や考えを論述する文章」を書くには、どのような資質・能力を育てることが必要なのかな？



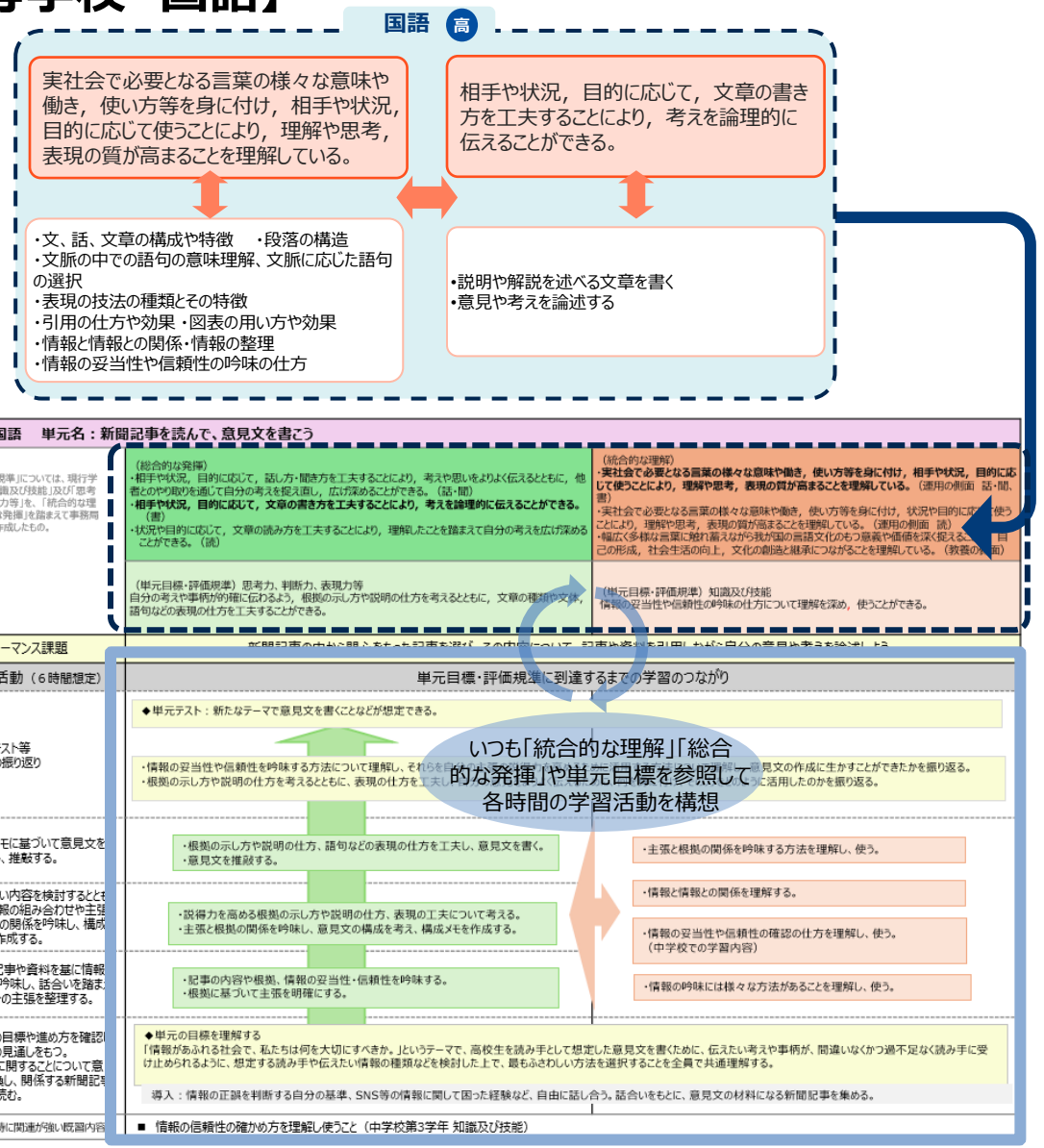
まずは、学習指導要領で育成するべき資質・能力を確認しよう。
「統合的な理解」「総合的な発揮」と単元目標を見比べると、「書くこと」の学習が、将来、どんなことを理解し、どんな思考ができるようになるためにあるのかわかるな。



各時間の学習活動が、単元目標を達成するために適切な活動になっているか、単元で育成する資質・能力が領域ごとの「統合的な理解」「総合的な発揮」に繋がっていくのか、少し心配だな。



右のような単元構想図を使って、単元での資質・能力の「深まり」や「一体的育成」のイメージを把握した上で 、各時間の学習活動を構想することが重要なんだな。



※この後は、単元の評価計画を検討したり、各時間の授業計画を行う。

※「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に参考イメージに示した資料を作成することを求める趣旨ではないことに留意。教科書会社が編集に当たってこうした整理を行いながら教科書を編集し、指導書等でその構造を示していくことで、経験の浅い教師でも資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境を整えていくことが重要。

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

高等学校 国語　単元名：新聞記事を読んで、意見文を書こう

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解」及び「総合的な発揮」を踏まえて事務局にてイメージとして作成したもの。

（総合的な発揮）
・相手や状況，目的に応じて，話し方・聞き方を工夫することにより，考えや思いをよりよく伝えるとともに，他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し，広げ深めることができる。（話・聞）
・相手や状況，目的に応じて，文章の書き方を工夫することにより，考えを論理的に伝えることができる。（書）
・状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。（読）

（統合的な理解）
・実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。（運用の側面　話・聞、書）
・実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。（運用の側面　読）
・幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。（教養の側面）

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や文体，語句などの表現の仕方を工夫することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め，使うことができる。

パフォーマンス課題：新聞記事の中から関心をもった記事を選び、その内容について、記事や資料を引用しながら自分の意見や考えを論述しよう。

次	学習活動（6時間想定）	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
3	●単元テスト等 ●単元の振り返り	◆単元テスト：新たなテーマで意見文を書くことなどが想定できる。 ・情報の妥当性や信頼性を吟味する方法について理解し、それらを自分の主張の説得力を高めるために活用する方法について理解し、意見文の作成に生かすことができたかを振り返る。 ・根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫し、自分の意見をよりよく伝えるために、何を身に付け、その力をどのように活用したのかを振り返る。
2	●構成メモに基づいて意見文を作成し、推敲する。	・根拠の示し方や説明の仕方、語句などの表現の仕方を工夫し、意見文を書く。 ・意見文を推敲する。
	●伝えたい内容を検討するとともに、情報の組み合わせや主張と根拠の関係を吟味し、構成メモを作成する。	・説得力を高める根拠の示し方や説明の仕方、表現の工夫について考える。 ・主張と根拠の関係を吟味し、意見文の構成を考え、構成メモを作成する。
	●新聞記事や資料を基に情報を収集・吟味し、話合いを踏まえて自分の主張を整理する。	・記事の内容や根拠、情報の妥当性・信頼性を吟味する。 ・根拠に基づいて主張を明確にする。
1	●単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ●テーマに関することについて意見交換し、関係する新聞記事を広く読む。	◆単元の目標を理解する 「情報があふれる社会で、私たちは何を大切にすべきか。」というテーマで、高校生を読み手として想定した意見文を書くために、伝えたい考えや事柄が、間違いなくかつ過不足なく読み手に受け止められるように、想定する読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で、最もふさわしい方法を選択することを全員で共通理解する。 導入：情報の正誤を判断する自分の基準、SNS等の情報に関して困った経験など、自由に話し合う。話合いをもとに、意見文の材料になる新聞記事を集める。

・主張と根拠の関係を吟味する方法を理解し、使う。
・情報と情報との関係を理解する。
・情報の妥当性や信頼性の確認の仕方を理解し、使う。（中学校での学習内容）
・情報の吟味には様々な方法があることを理解し、使う。

本単元の学習に特に関連が強い既習内容：■　情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと（中学校第3学年 知識及び技能）

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

国語科における目標や内容の全体構造（改訂後のイメージ）

目標

①

国語科で育成したい資質・能力の趣旨を学校種共通で端的に示す

②

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
資質・能力の柱ごとの目標（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）は、発達段階に応じて学校種ごとに系統的に示す		

（見方・考え方）

③

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

①目標の柱書（国①-1、①-2参照）

②資質・能力の柱ごとの目標（国①-1、①-2参照）

③見方・考え方（国①-1参照）

④統合的な理解・総合的な発揮（国③-1～③-5参照）

⑤個別の資質・能力

※「B書くこと」、「C読むこと」の領域も同様に、「思考力、判断力、表現力等」と「知識及び技能⑴」の内容をひとまとまりとして示し、その下に「知識及び技能⑵」の内容を示す。
※話や文章の機能、事項のまとまりのぞれぞれの名称は仮称。

内容

④

思考力、判断力、表現力等

A話すこと・聞くこと
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能」ごとに位置付けた思考・判断・表現の力を総合的に発揮している状態を示す

知識及び技能

⑴運用しながら深める事項
知識及び技能に関する統合的な理解

言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを生徒が理解している状態を示す

知識及び技能

⑵教養として深める事項
知識及び技能に関する統合的な理解

言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を生徒が理解している状態を示す

⑤

	第１学年相当	第２学年相当	第３学年相当
話や文章の機能（国⑥参照）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	
	・xxxxxxx	・xxxxxxx	
	・xxxxxxx	・xxxxxxx	
事項のまとまり（国⑩-1、⑩-2参照）	・xxxxxxx		
	・xxxxxxx		
	・xxxxxxx		
⋮			
事項のまとまり（国⑩-1、⑩-2参照）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	
	・xxxxxxx		
	・xxxxxxx		

※目標（①②）、見方・考え方（③）、内容（④⑤）については、告示までに文部科学省において引き続き一層分かりやすいものになるよう検討する。

「話や文章の機能」による整理イメージ

- 「統合的な理解・総合的な発揮」である「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の育成に当たっては、児童生徒が複数の単元で出合う様々な話や文章を、社会的な文脈の中で果たす主な機能という観点から捉えられるようにすることが重要。
- 話や文章の種類の整理を、社会的な文脈の中で果たす主な機能という観点から捉え直し、「話や文章の機能」として整理する。

話や文章の機能	社会的な文脈の中で果たす主な機能	話や文章の種類（例）	話や文章の機能を踏まえた思考・判断・表現の要素（イメージ）
事実や知識の整理と理解（仮称）	**事物や事象の構造・しくみ・意味・特徴・因果関係など**を整理し、筋道立てて分かりやすく示すことを通して、**理解を促す機能**	・説明や解説をする話（紹介、報告、説明、解説など） ・説明や解説をする文章（報告文、記録文、説明文、解説文など）	・相手や目的に応じて重要な情報を見極めて関係を整理し、構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・内容を理解し、既有の知識や経験と関係付けながら意味付けたり考えたりする。
考えや主張の理由付けと吟味（仮称）	**考えや主張**を、理由や根拠と結び付けて筋道立てて示すことを通して、**判断や納得を促し**、必要に応じて**考えや行動に働きかける機能**	・主張や提案を述べる話（主張、提案など） ・意見、主張や提案を述べる文章（論説、批評など）	・考えや主張を支える理由や根拠を組み立て、相手や目的に応じて構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・考えや主張と理由・根拠との関係を捉え、その妥当性を判断し、納得したり批判的に検討したりする。
思いや経験の表出と想像（仮称）	**経験や想像した出来事・情景、思いや心情など**を多様な表現の工夫によって描き出すことを通して、**想像し、感じたり考えたりすることを促す機能**	・経験や想像したこと、感じたことを表す文章（詩、短歌、俳句、随筆、物語、小説など）	・経験や思い、想像した世界を、目的に応じて、構成、語り方、描写、技法などを工夫して描き出す。 ・目的に応じて、表現された内容を想像し、意味付けたり考えたりするとともに、解釈や評価を深める。
協働による考えの深化や合意（仮称）	**他者と協働して**互いの考えや情報を出し合い、吟味・調整することを通して**考えを深め**、必要に応じて**合意形成や意思決定に向かうことを促す機能**	・質疑応答、議論や討論などの話合い	・自分の考えや情報を伝え合うとともに、他者とやり取りしながら考えを修正・補強して深める。 ・互いの考えの共通点や相違点を捉えて整理し、折り合いを付けたり方向付けたりする。
伝統的な言語文化の継承と創造（仮称）	時代を越えて**先人の知や洗練された言語感覚**を伝えることを通して、その**重要性を理解し、意義や価値を現代に生かすことを促す機能**	・近世までに書かれた文章（古文・漢文など）	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分の考えを深め、伝統的な言語文化について自分の考えをもつ。 ・古典の意義や価値を理解し、現代における新たな価値の創出について考える。

※「話や文章の種類（例）」は、現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の⑵で示している言語活動例を基に概略のみを示している。
※実際の話や文章は、それぞれが上記の機能を複合的に果たしている場合も考えられる。一方、ここでの「話や文章の機能」は、児童生徒が学習で扱う話や文章について、その主な機能を示すものであり、これらの「話や文章の機能」と関連付けながら学習指導要領の内容項目を整理・構造化することをねらいとしている。

各領域の学習過程の再整理

- 各領域の学習過程を相互に関連付けて再整理し、共通する要素や異なる要素を意識しやすいよう構造的に示すことにより、各領域で学ぶ内容が複数の領域で活用されていくことを促し、思考・判断・表現を深める指導につなげる。

理解 → 表現

現行

領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
学習過程	構造と内容の把握	話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定
	精査・解釈	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集
	考えの形成	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	内容の検討
	共有	精査・解釈	話合いの進め方の検討	構成の検討	構成の検討
		考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成
		共有	共有	表現	記述
				共有	推敲
					共有

再整理

領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
学習過程	構造と内容の理解・解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	構造と内容の理解・解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	考えの形成 ・情報を収集する ・情報を整理する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する
	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する		表現・推敲 ・発話する ・発話を調整する	表現・推敲 ・記述する ・文章を推敲する

「話や文章の機能」と事項のイメージの関係について

- 「話や文章の機能」ごとに、「①話や文章の種類」、「②学習過程で働かせる資質・能力」の要素に基づき、事項を作成することを想定している（※中学校２年相当を例示）。

話すこと・聞くこと

〈話すこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		考えの形成	表現・推敲
事実や知識の整理と理解（仮称）	説明や解説をする	• 社会生活の中から話題を決め、伝えたい事実や事柄を整理する • 整理した事実や事柄の意味や関係が明確になるように論理的な構成や展開を考える	• 聞き手が理解できるように表現を工夫する • 聞き手の反応に応じて表現を調整する
考えや主張の理由付けと吟味（仮称）	主張や提案を述べる	• 社会生活の中から題材を決め、自分の主張や提案を明確にする • 自分の主張や提案と根拠、異なる立場との違いが明確になるように論理的な構成や展開を考える	• 目的や状況に応じて聞き手が納得できるように表現を工夫する • 聞き手の反応に応じて表現を調整する

〈聞くこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		構造と内容の理解・解釈	考えの形成
事実や知識の整理と理解（仮称）	説明や解説をする	• 情報同士の関連、論理の展開などに注意して記録したり質問したりしながら話の内容を理解する	• 話の内容に対する自分の考えを広げたり深めたりする • 論理の展開や表現の仕方を評価する
考えや主張の理由付けと吟味（仮称）	主張や提案を述べる		

〈話し合うこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素 ※「話し合うこと」は、「話すこと」と「聞くこと」の学習過程がほぼ同時に往還していると考えられるため、詳細な学習過程は示していない。
協働による考えの深化や合意（仮称）	合意形成に向けた話合い	• 社会生活の中から話題を決める。 • 異なる立場や意見の背景を理解しながら合意形成に向けて話合いを進める。 • 考えをまとめたり広げたり深めたりする。

※表中の「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」は現時点でのイメージであり、告示文を整理する中で検討。
※学校種・学年ごとに示す「話や文章の種類」は、対象とする話題や題材等の内容が発達段階に適したものとなるように事項の文言で示すことや「指導計画の作成と内容の取扱い」等で例示することが考えられる。

書くこと

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		考えの形成	表現・推敲
事実や知識の整理と理解（仮称）	説明や解説をする文章	• 社会生活の中から題材を決め、伝えたい事実や事柄を整理する • 整理した事実や事柄の意味や関係が明確になるように論理的な構成や展開を工夫する	• 読み手が理解できるように表現を工夫して記述する • 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える
考えや主張の理由付けと吟味（仮称）	意見を述べる文章	• 社会生活の中から題材を決め、自分の意見を明確にする • 自分の意見と根拠、異なる立場との違いが明確になるように論理的な構成や展開を工夫する	• 読み手が納得できるように表現を工夫して記述する • 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える
思いや経験の表出と想像（仮称）	経験や想像したこと、感じたことを表す文章	• 自分が伝えたい思いや経験、想像したことを明確にする • 内容を効果的に伝えるために場面の展開や構成などを工夫する	• 読み手が実感をもって想像できるように表現を工夫して記述する • 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える

読むこと

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		構造と内容の理解・解釈	考えの形成
事実や知識の整理と理解（仮称）	説明や解説が述べられている複数の文章	• 文章の構成を踏まえ、それぞれの要旨を捉える	• それぞれの文章の内容を関連付けながら自分の考えを広げたり深めたりする • 論理の展開や表現の仕方を評価する
考えや主張の理由付けと吟味（仮称）	主張や提案が述べられている文章	• 論理の展開や表現の仕方を捉える	• 主張や提案の信頼性や妥当性について考える • 論理の展開や表現の仕方を評価する
思いや経験の表出と想像（仮称）	経験や想像したこと、感じたことを表す文章	• 場面の展開と関連付けて登場人物の相互関係、心情の変化などを捉える	• 人物や書き手のものの見方や考え方について考える • 話の展開や表現の仕方を評価する

※表中の「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」は現時点でのイメージであり、告示文を整理する中で検討。
※学校種・学年ごとに示す「話や文章の種類」は、対象とする話題や題材等の内容が発達段階に適したものとなるように事項の文言で示すことや「指導計画の作成と内容の取扱い」等で例示することが考えられる。

「話や文章の機能」と「統合的な理解・総合的な発揮」との関係のイメージ（中学校第2学年の例）

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の学習指導を「話や文章の機能」に応じて相互に関連付けて配列することで、複数の単元の学習で出合う様々な話や文章の特徴について、社会的な文脈の中でどのような機能を果たしているかという観点から捉え、それぞれの機能に応じた思考・判断・表現の力を総合的に高めていくことが期待される。

※下図で「話や文章の機能」ごとに単元を並べ矢印でつないでいるのは、各単元の関連を表すためであり、指導の順序性を表すためではない。

話や文章の機能	事実や知識の整理と理解	考えや主張の理由付けと吟味	思いや経験の表出と想像
各領域の単元の学習	【単元１】読むこと 電子決済の仕組みについて理解を深めるために、電子決済の種類や特徴を説明した文章、支払いの仕組みを解説した文章、利用の注意点を紹介した文章などを読み、それぞれの要旨を捉え、それらを結び付けながら、電子決済の便利さと課題について理解する。	【単元１】話すこと・聞くこと 地域の公共空間の利用状況に課題が見られる場所を取り上げ、誰もが気持ちよく使えるようにするために、様々な利用者の立場を踏まえ、よりよいルールを考えて提案する。	【単元１】読むこと 短歌の世界を味わうために、短歌に描かれた一瞬の情景から、その前後にどのような場面があったのかを想像し、語の選択や描写の仕方を手掛かりに、書き手のものの見方について自分の考えを述べる。
	【単元２】書くこと 社会生活で広く使われている仕組みから自分の興味・関心のあるものを選び、その構造や働きを友達に理解してもらうための解説リーフレットを書く。	【単元２】読むこと 中学生のSNS利用の是非について考えを深めるために、SNSの使い方や規制に関する論説を読み、論理の展開と表現の仕方を捉え、その主張の信頼性や妥当性について自分の考えをまとめる。	【単元２】書くこと 地域にある思い出の場所の情景や、そこで経験して心に残った出来事や感じた思いについて、言葉を吟味して短歌で表し、クラスの友達と読み合ってその情景や思いを想像しながら味わう。
	【単元３】話すこと・聞くこと 社会生活で広く使われている仕組みから自分の興味・関心のあるものを選び、その構造や働き、長所や短所を下級生に分かりやすく紹介するためのプレゼンテーションをする。	【単元３】書くこと 地域の生活をよりよくするために、自分が課題だと思うことを取り上げて、その解決方法を提案する文章を書き、地域の新聞社の投書欄に投稿する。	【単元３】読むこと 自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりするために、各登場人物の価値観に着目し、心情や人物相互の関係の変化を場面の展開と関連付けて読み取り、登場人物の価値観やその変化について自分が考えたことを語り合う。
	学習した話や文章の特徴を、「事実や知識の整理と理解」という機能から捉える	学習した話や文章の特徴を、「考えや主張の理由付けと吟味」という機能から捉える	学習した話や文章の特徴を、「思いや経験の表出と想像」という機能から捉える

それぞれの「話や文章の機能」に対する認識の深まり

総合的な発揮

相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能」を踏まえて思考・判断・表現することができる。

・相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。
・相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。
・状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。

〔知識及び技能〕を「事項のまとまり」で整理したイメージ①

- 「事項のまとまり」は、いずれの側面においても、「知識及び技能の統合的な理解」につながる主な性質に応じ、それぞれの内容を構造化して示すために設ける。その際、各側面の「事項のまとまり」は側面①では、各領域の思考・判断・表現の過程で、その知識・技能を、何のために働かせるのかを見えやすくする役割、側面②では、各領域の学習を支える言葉や言語文化に関する基盤的な知識・技能を、どのような意義や価値と結び付けて身に付け、深めていくのかを見えやすくする役割を果たせるように設定することが重要。その際、「事項のまとまり」は、次のような知識・技能の主な性質を示すものとして整理する。※事項のまとまりについては、告示文を整理する中で検討。

⑴運用しながら深める事項

事項のまとまり	知識・技能の主な性質（概略）
文字や単語の同定（音読）（小）	「読むこと」：文字や語句を正確に捉え、声に出して流暢に読むことを通して、文や文章の内容を確かに理解するための基盤として働かせる知識・技能
話や文章の構造	「読むこと」「聞くこと」：段落や場面、構成や展開を手掛かりに内容を理解・解釈するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：考えや内容を筋道立てて組み立てるために働かせる知識・技能
表現の仕方	「読むこと」「聞くこと」：文の組立て、語句の選択、描写、表現の技法、引用、図表などの効果を捉えるために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：意味や意図が伝わるようにそれらの表現を工夫するために働かせる知識・技能
情報と情報との関係	「読むこと」「聞くこと」：話や文章に含まれる情報同士の関係を整理して内容を理解するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：根拠と主張、原因と結果、具体と抽象などの関係を明確にして考えを形成するために働かせる知識・技能
情報の信頼性	「読むこと」「聞くこと」：情報の根拠や出典、発信元などを確かめて内容を吟味するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：信頼できる情報を根拠として用い、妥当な考えや内容を伝えるために働かせる知識・技能
古典を読むための言葉のきまり（高）	「読むこと」：古典作品の解釈や内容理解のために働かせる知識・技能

⑵教養として深める事項

事項のまとまり	知識・技能の主な性質（概略）
言葉のきまりや使い方	言葉の働き、書き言葉と話し言葉、漢字、語彙、単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、言葉遣い、時代・地域・世代による言葉の違いなどについて理解し、我が国の言葉がもつ体系性や変化、多様性への理解を深めるとともに、適切で豊かな言語使用の基盤を形成するための知識・技能
伝統的な言語文化	音読するなどして我が国の伝統的な言語文化の世界に親しむとともに、そこに表れたものの見方や考え方について歴史的・文化的背景を踏まえながら理解することを通して、我が国の言語文化の特質や価値を捉えるための知識・技能
読書	自らの興味・関心や目的に応じて本や資料を選び、様々な文章や作品に継続的に親しむとともに、読書経験を通して考えたこと、感じたことなどを伝え合い、読書の意義や効用を実感することを通して、自立的な読書習慣を形成するための知識・技能
書写（小・中）	姿勢、筆記具の扱い、点画、筆順、字形、文字の配列、楷書・行書などの書き表し方を理解し、読みやすく整った文字を、相手や目的に応じて効果的に書くとともに、文字文化への理解を深めるための知識・技能

（注）・「文字の同定」や「単語同定」を進めるための方略として、「音読」は重要であり、読むことの思考・判断・表現の過程で繰り返し働かせる知識・技能として小学校段階に設ける。なお、単に声に出して読むことを指導するのではなく、音読をするねらいを明確にした上で学習活動を展開することが必要である。
・「書写」は、文字の正しい認識や正確な書字の能力の習得に加え、我が国の文字文化に対する実感を伴った理解を発達段階に応じて深めていくという観点からも、引き続き手書きによる知識・技能として小・中学校段階に設けている。
・「話し合うこと」は「話すこと」「聞くこと」の双方の往還であるため、上表では「話すこと」「聞くこと」の双方に含まれるものとする。
※「内容の取扱い」において、⑴の内容については、「必要に応じて、特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導するなど、指導の効果を高める工夫に留意すること」、⑵の内容については、「必要に応じて思考・判断・表現の過程で活用できるよう指導するなど、指導の効果を高めること」に留意すべきであることを示す。

〔知識及び技能〕を「事項のまとまり」で整理したイメージ②

● 前頁における整理をもとに、具体的な事項を「事項のまとまり」ごとに分類して構造化したイメージは以下のとおり。

※事項のまとまりについては、告示文を整理する中で検討。

【小・中学校段階】

(1) 運用しながら深める事項

事項のまとまり	知識・技能の内容（概略）
文字や単語の同定(音読)(小学校のみ)	・音読や朗読（小学校のみ）
話や文章の構造	・話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
表現の仕方	・分かりやすく明瞭な話し方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・文の成分の順序や照応など文の構成 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果、古典の一節などの引用 ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表などの用い方や効果（※）
情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方

(2) 教養として深める事項

事項のまとまり	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・文字と音声との対応や語の認識、書き言葉のきまり ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにすること（ことわざや慣用句、故事成語などを含む） ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむこと ・古典に表れたものの見方や考え方
書写	・姿勢，筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順、文字の集まりの書き方、楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書くこと
読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

【高等学校（必履修）段階】

(1) 運用しながら深める事項

事項のまとまり	知識・技能の内容（概略）
話や文章の構造	・話、文章の構成や特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
表現の仕方	・文の効果的な組立て方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表などの用い方や効果（※）
情報と情報との関係	・情報と情報との様々な関係 ・情報の整理
情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
古典を読むための言葉のきまり	・文語のきまりや訓読、古典特有の表現

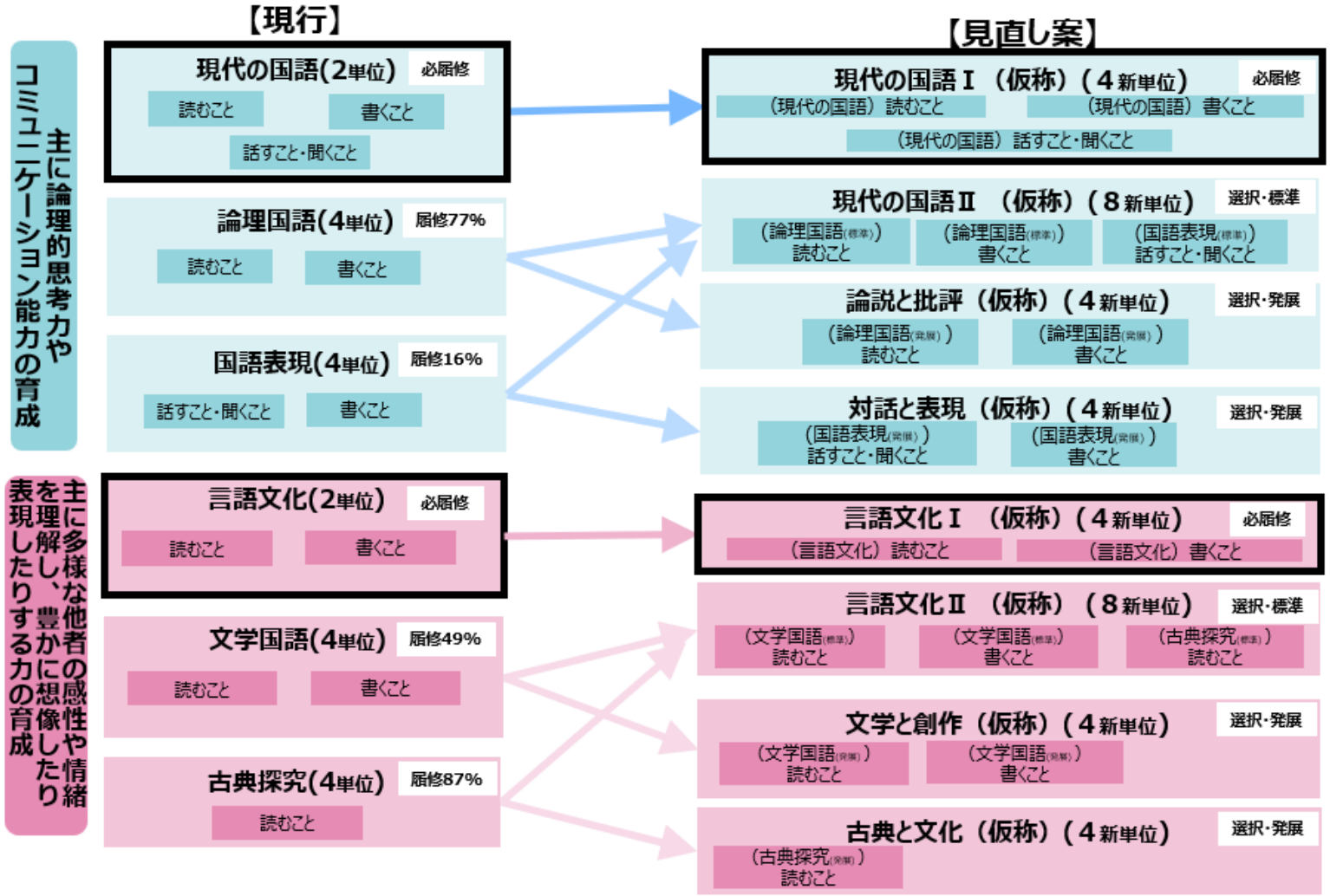
(2) 教養として深める事項

事項のまとまり	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにすること ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化 ・歴史的な文体の変化
伝統的な言語文化	・我が国の文化と外国の文化との関係 ・我が国の文化・言語文化の特質 ・作品の歴史的・文化的背景 ・伝統的な言語文化に親しむこと
読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

※「図表などの用い方や効果」については、現代の多様なメディア活用の状況に応じて、「写真」「映像」などの要素を含めることも検討することが重要。一方で、他教科等におけるメディア活用に関する内容との関連を踏まえつつ、国語科として必要な内容を精選できるよう慎重な配慮が必要であることにも留意。

科目構成の見直しイメージ（全体像）

- 現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、情緒・感性の両面について、バランスよく統合的かつ効果的に育成する方向で見直し、必履修科目（現代の国語、言語文化）は科目構成を維持しつつ、選択科目の構成や単位数を見直す。
  - 選択科目の中から、標準的な内容項目を抽出し、大多数の生徒の履修を想定した選択科目（現代の国語Ⅱ（仮称）、言語文化Ⅱ（仮称））を設定。
  - その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より発展的な内容を学ぶ選択科目群（論説と批評（仮称）、対話と表現（仮称）、文学と創作（仮称）、古典と文化（仮称））を設定。



※ 現行の「%」は教科書の需要数を基に推計した履修率

高等学校国語科における具体的な科目案

（１）必履修科目

現代の国語Ⅰ（仮称）（４新単位）

実社会に必要な国語の知識・技能を身に付けて適切に使えるようにするとともに論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を育成する。
※現行の必履修科目「現代の国語」の枠組みを維持。

言語文化Ⅰ（仮称）（４新単位）

古典や近現代の文章を通して我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を身に付け、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。
※現行の必履修科目「言語文化」の枠組みを維持。

（２）選択科目

現代の国語Ⅱ（仮称）（８新単位） 標準

- 現行の「論理国語」「国語表現」の標準的な内容を組み合わせ、「現代の国語」の内容を深化させて学ぶ科目。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の資質・能力を「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」の「話や文章の機能」に応じて働かせ、論理的に思考することや他者との対話を通して、主として、実社会で必要とされる国語による諸活動に必要な力を育成する。

論説と批評（仮称）（４新単位） 発展

- 現行の「論理国語」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」（仮称）の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、批判的に読んだり自らの考えを論述したりすることを通して、主として、論理的に思考し表現する力を育成する。

対話と表現（仮称）（４新単位） 発展

- 現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」（仮称）の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 多様な他者との関わりの中で文章・口頭の双方において論理的・説得的に対話や表現をしたり、様々な媒体を通して他者との対話を重ね新たな価値を創出したりすることで、主として、多様な他者との多角的なコミュニケーションを図る力を高める。

言語文化Ⅱ（仮称）（８新単位） 標準

- 現行の「文学国語」「古典探究」の標準的な内容を組み合わせ、「言語文化」の内容を深化させて学ぶ科目。
- 「書くこと」「読むこと」の2領域の資質・能力を「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」の「話や文章の機能」に応じて働かせ、作品を多様な考えや価値観を踏まえて解釈したり、時代を超えた連続性の中で我が国の言語文化への理解を深めたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

文学と創作（仮称）（４新単位） 発展

- 現行の「文学国語」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」（仮称）の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 文学作品などを読んでその解釈の多様性について考察したり批評したりすること、独創的な表現を工夫して想像したことや思いを伝えたりすることを通して、様々な事柄を多面的に捉え、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

古典と文化（仮称）（４新単位） 発展

- 現行の「古典探究」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」（仮称）の「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 古典を主体的に読み進めたり、我が国の伝統と文化の基盤として古典を学び、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の価値や意義について考えたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像する力を育成する。

※「話や文章の機能」については、現時点でのイメージであり告示文を整理する中で検討。

教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

- AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視する。

理解

内容を正確に理解するとともに、相手の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

構造と内容の理解・解釈 ⇄ 考えの形成

➢ 言語情報の正確な把握

理解のための方略を工夫しながら、受け取った言語情報の構造や内容を正確に把握

➢ 自分なりの意味の理解・解釈

正確な把握と同時に、既有の知識と結びつけたり多様な視点から検討したりしながら、自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

➢ 相手の経験・感情等を踏まえた考えの形成

相手の経験・感情・思考・意図を推察したり、それらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、自他の経験や感情、意思と結びつける

表現・推敲 ⇄ 考えの形成

➢ 表現の過程での柔軟な調整

表現した後や表現の過程においても、他者の受け取りを推察しながら、表現の内容や方法を柔軟に調整し、必要に応じて修正する

➢ 表現の前の省察や吟味

表現しようとする内容や構成・表現形式が、真に表現の目的を達成するか、意図しない結果を招かないか等の視点から省察し、表現を吟味する

➢ 目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討

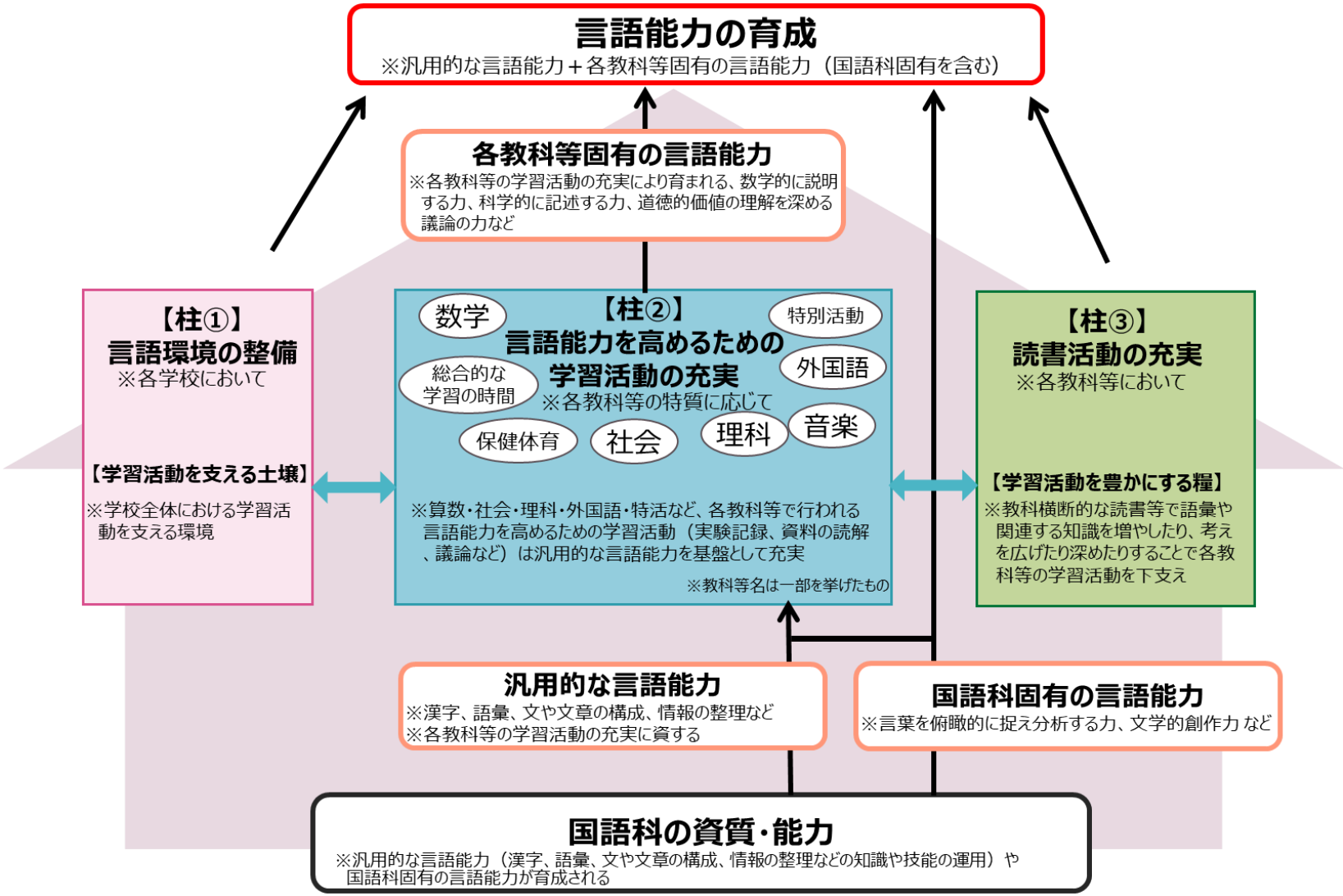
自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成した自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現形式を検討

表現

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

「言語能力」の育成イメージ

- 三つの柱の関係を分かりやすく示すことで、言語能力育成の実効性を高め、言語能力の育成を一層推進。
- 各教科における「教科書等を読み解く力」の確実な育成に向けては、育まれる各教科固有の言語能力に加え、各教科固有の用語や概念の理解などとの相乗効果を図ることが重要。
- 国語科の学びと各教科等の学習活動の充実との関係を整理することにより、各教科等における言語能力を高めるための学習活動の充実を一層推進するとともに、言語能力を確実に育成。



効果的かつ過度な負担が生じにくい国語科の評価の見直し

- 資質・能力の育成に当たって、効果的かつ過度な負担が生じにくい国語科の評価への見直しを図るため、形成的評価（学習改善等に生かす評価）と総括的評価の意義を踏まえ、実質的な評価場面を精選。

※下記は、基本的な考え方のイメージであり、総括的な評価の実施の仕方については、児童生徒の発達段階や学校の実態に応じて様々な実践上の工夫が考えられる。

⑴現行の学習評価のイメージ（中学校第２学年を想定）

※国語科は、思考力、判断力、表現力等の系統性が明確で、知識及び技能の内容のまとまりに対応した固有の思考力、判断力、表現力等が想定しにくく、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助ける構造をもつことから、下の表では「思・判・表」を「知・技」の上に示している。

	１学期								１学期		学年末	
	単元１（書くこと）					単元２	単元３	単元４	観点別	評定	観点別	評定
学習過程	題材の設定，情報の収集，内容の検討	構成の検討	考えの形成，記述	推敲	共有							
事項	⑴ア	⑴イ	⑴ウ	⑴エ	⑴オ							
思・判・表		B	B				総括		B		B	
知・技	⑵イ A								B	総括 3	B	3
主態	B								B		B	

⑵改訂後の学習評価のイメージ（中学校第２学年を想定）

※評定への総括は課程の修了認定を行う学年末にのみ行うことが可能であることから、学期ごとの評定への総括は学校の実態に応じて工夫して実施すべきものである。そのため、下の表では、学期・学年末の区別を示していない。

	単元１（書くこと）		単元２	単元３	知技①の評価場面	単元４	観点別	評定
学習過程	考えの形成	表現・推敲						
単元の学習活動のイメージ	社会生活で広く使われている仕組みから自分の興味・関心のあるものを選び、その構造や働きを友達に理解してもらうための解説リーフレットを書く。							
思・判・表	① B		A	B	－	－	B	3
知・技	② －	－	－	－	③ ①の事項 A,B,B…	④ ②の事項 B	B	
学びに向かう力・人間性	当該評価期間における「思・判・表」の学習過程全体を通じて、「見取る姿」に示す行動の「継続的な発揮」を見取ることができたことをもって「○」をつけ、「思・判・表」の観点別評価を介して、評定に影響を与えるものと整理する方向で整理							

① 学習の過程で形成的評価を行いつつ、単元の学習の成果として思考・判断・表現しているパフォーマンス（書き上げた文章など）についての**総括的評価**を実施

② 関連する〔知識及び技能〕①の事項について形成的評価を行うことに重点を置き、**総括的評価**は実施しない

③ 単元１～３の各学習過程で指導した関連する〔知識及び技能〕①の事項についての**総括的評価**を実施

④ 〔知識及び技能〕②の事項について、学習活動の過程で形成的評価を行いつつ、単元末に**総括的評価**を実施

【小学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

下線：現行からの変更点

	柱書		
	よりよい社会の形成に向けて，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
小学校	・ 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。 ・ 様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・ 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力を養う。 ・ 社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。 ・ 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 ・ 自らの考えを問い返し，捉え直す力を養う。	・ 社会的事象について，よりよい社会を考え見通しを立てたり，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。 ・ 多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々とともに生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

※学年別目標の在り方について
- 小学校の学年別目標については、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しない。

見方・考え方

- 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【中学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標		柱書
		青字：教科目標との相違点　下線：現行からの変更点
中学校	社会科	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	地理的分野	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	歴史的分野	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，歴史に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	公民的分野	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，現代社会に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	・我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 ・調査や諸資料から確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を，資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を養う。 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	・我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解する。 ・調査や諸資料から地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域の空間的な広がり，地域の環境，地域間の関係などに着目して，多面的・多角的に考察する力を養う。 ・地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断する力を養う。 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・日本や世界の地域に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	・我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解する。 ・諸資料から歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時系列，推移，類似や差異，因果関係や現在とのつながりなどに着目して，多面的・多角的に考察する力を養う。 ・歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力を養う。 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情，国民としての自覚，国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め，国際協調の精神を養う。
	公民的分野	・個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深める。 ・諸資料から現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察する力を養う。 ・現代社会に見られる課題について公正に判断する力を養う。 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わろうとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

【地理的分野】・社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【歴史的分野】・社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【公民的分野】・社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・地理歴史科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

柱書

青字：教科目標との相違点　下線：現行からの変更点

高等学校	地理歴史科	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	地理総合、地理探究	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	歴史総合、日本史探究、世界史探究	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，歴史に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	地理歴史科	・現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 ・調査や諸資料から収集した情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・社会に見られる課題の解決に向けて構想する力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理総合	・地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取組などを理解する。 ・地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から収集した地理に関する情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域の空間的な広がり、地域の環境，地域間の関係などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
	地理探究	・地理に関わる諸事象に関して，世界の空間的な諸事象の規則性，傾向性や，世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 ・地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から収集した地理に関する情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域の空間的な広がり、地域の環境，地域間の関係などに着目して，系統地理的，地誌的に，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
	歴史総合	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から収集した歴史に関する情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時系列，推移，類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	日本史探究	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。 ・諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時系列、推移，類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	世界史探究	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 ・諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義，特色などを，時系列，推移，類似や差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。 ・考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

【地理総合、地理探究】
・社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【歴史総合、日本史探究、世界史探究】
・社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・公民科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標 柱書　青字：教科目標との相違点　下線：現行からの変更点

高等学校	公民科	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	公共	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	倫理	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。
	政治・経済	よりよい社会の形成に向けて，広い視野に立ち，主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，現実社会に見られる複雑な諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 公民科	・選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理，政治，経済などに関わる現代の諸課題について理解する。 ・諸資料から収集した情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・現代の諸課題について，事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，解決に向けて公正に判断したりする力を養う。 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚や，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
高等学校 公共	・現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・諸資料から収集した，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
高等学校 倫理	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して，現代の諸課題を捉え，より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・諸資料から収集した，人間としての在り方生き方に関わる情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して，論理的に思考し，思索を深め，説明したり対話したりする力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり，他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
高等学校 政治・経済	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。 ・諸資料から収集した，社会の在り方に関わる情報について，その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を把握し，考察するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。 ・構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を養う。 ・自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見いだし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

見方・考え方

・社会的事象やその言説を，倫理，政治，法，経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え，人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直し（案）

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会（地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え，地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史（地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を，位置や空間的な広がりに着目して捉え，地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付けること	
中学校社会（歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を，時期，推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史（歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を，時期，推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会（公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民（公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を，倫理，政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること （見方・考え方） ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。
高等学校公民（倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を，倫理，哲学，宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民（政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を，政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

社会科等の新たな「見方・考え方」の整理の考え方

	地理	歴史	公民
新たな「見方・考え方」	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること ※公民は中学校公民的分野
「統合的な理解・総合的な発揮」	＜視点＞ 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容など ※ 地理教育国際憲章1992.8月において示されている、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域に関わる視点を地理学習の実態に合わせて修正 ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響など ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換など ※ 上記のほか、個人の尊重と法の支配、民主主義など内容によって異なる ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載

（見方・考え方）
●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ

現行の記載

・ 側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

見直し案

・ **新たな「見方・考え方」**については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化。**
・ **「統合的な理解・総合的な発揮」**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**。

＜地理＞

【現行の見方・考え方】

見方・考え方
・位置や空間的な広がり
・地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付ける

※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
〇位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
〇場所に関わる視点（自然的、社会的など）
〇人間と自然の相互依存関係に関わる視点
（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
〇空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性　など）
〇地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性　など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」
・地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【統合的な理解・総合的な発揮での記載事

＜視点＞
〇位置や分布（地域の空間的な広がりに関わる視点）
〇人間生活と自然環境との関係（地域の環境に関わる視点）
〇地域間の結び付き（地域の空間的な広がり、地域間の関係に関わる視点）
〇スケール（地域の空間的な広がり、地域間の関係に関わる視点）
〇変容（地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係に関わる視点）
＜方法＞
※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

＜歴史＞

【現行の見方・考え方】

見方・考え方
・時期，推移など
・類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
〇時系列に関わる視点（時期、年代など）
〇諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
〇諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
〇事象相互のつながりに関わる視点
（背景、原因、結果、影響など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」
・時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなど
・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【統合的な理解・総合的な発揮での記載事項】

＜視点＞
〇時期や年代（時系列に関わる視点）
〇展開や変化（諸事象の推移に関わる視点）
〇共通点や相違点（過去の歴史との類似や差異に関わる視点）
〇背景や原因、結果や影響（因果関係に関わる視点）
＜方法＞
※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 社会的事象に関する個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる概念として習得された姿を示している。これにより、個別の用語の暗記にとどまらず、それらの意味が結びつけられて統合的に理解できるような授業への改善を促す。

② 抽象度が高くなりすぎず、授業構想に活かしやすくするため、概ね現在評価参考資料で示している「内容のまとまり」を基本にして「統合的な理解・総合的な発揮」を設定。

③ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の社会的な視点や方法等を示している。これにより、これまで社会科において「見方・考え方」と捉えられてきたものの具体化を図るとともに、知識・技能が統合的に理解されるために重要となる、学習過程を通じて追究する「本質的な問い」を教師が構想しやすくする。

④ 当事者意識を持って、自分の意見を 形成し、対話と合意ができる社会の創り手を育成することを重視。そのため、社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察することや、社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめることを示している。

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
			冷戦やグローバル化する世界の動向を背景に、**第二次世界大戦の惨禍と国際協調の意義や、民主化と再建、国民生活の向上の過程に生じた成果や課題**について理解するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現在の社会とのつながりについて理解する。	時期や年代，展開や変化，共通点や相違点，背景や原因，結果や影響，現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの**視点に着目**して，現代社会へ向かう日本について**多面的・多角的に考察し**，それ以前との比較などから時代の特色を大観して**現在と未来の日本や世界の在り方について構想し，表現する**ことができる。
				内容項目例
中学校	社会（歴史的分野）	B 近現代の日本と世界	(3)現代社会へ向かう日本と世界【仮称】	(ｱ) **第二次世界大戦と人類への惨禍** ・次の①から④などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過や世論の動向と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ①経済の混乱と社会問題の発生 ②政党政治の終焉と我が国の政治・外交の動き ③中国などアジア諸国との関係 ④第二次世界大戦と戦時下の国民生活 (ｲ) **日本の民主化と冷戦下の国際社会** ・次の①から③などを題材に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ①冷戦 ②我が国の民主化や再建の過程と日本国憲法の制定 ③国際社会への復帰 (ｳ) **日本の経済の発展とグローバル化する世界** ・次の①から③などを題材に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 ①高度経済成長と多極化する国際政治 ②冷戦の終結とグローバル化する世界 ③世界の課題と日本の役割	(ｱ) 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ｲ) 諸改革の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ｳ) 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ｴ) 上の(ｱ)から(ｳ)を踏まえて、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、現代社会へ向かう日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（小学校社会科）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と市区町村	市区町村の様子	• 身近な地域や市区町村は、自然条件や社会条件に伴い場所による違いがあることを理解する。 • 身近な地域や市区町村は、時間の経過に伴い、地理的環境とともに人々の生活も移り変わってきたことを理解する。	• 位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村内の場所同士を比較するなどして、市区町村の地理的環境について考え、表現することができる。 • 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地理的環境の変化と人々の生活を関連付けるなどして、市区町村の移り変わりについて考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
		地域に見られる生産や販売の仕事	地域に見られる生産・販売の仕事は、地域の人々の多様な願いを踏まえて様々な工夫をして取り組まれており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地域の生産・販売の仕事と人々の生活とを関連付けるなどして、生産・販売の仕事の特色について多角的に考え、表現することができる。
		地域の安全を守る働き	警察署や消防署などの関係機関や地域の人々は、事故や火災に連携して対処したり協力してその防止に努めたりしており、地域の人々の安全を守るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、関係機関や地域の人々の活動と人々の生活とを関連付けるなどして、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	私たちの生活と都道府県	都道府県の様子	都道府県には、自然条件や社会条件など地理的環境に特色があり、県内ではその特色を生かしたまちづくりや産業の発展に人々が協力して努めていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件や社会条件同士を比較したり、人々の生活とを関連付けたりするなどして、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
		人々の健康や生活環境を支える事業	飲料水の供給や廃棄物の処理など人々の健康や生活環境を支える事業は、安全で衛生的な仕組みで安定的に供給や処理を実現するため様々な工夫・改善が行われており、人々の快適な生活を支えていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、事業と人々の生活との関連付けるなどして、人々の健康や生活環境を支える事業の役割について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		自然災害から人々を守る活動	県庁など地域の関係機関や地域の人々は、協力して対処したり備えたりして防災・減災につとめており、自然災害から人々を守るために大切な働きをしていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、関係機関や地域の人々の活動と人々の生活とを関連付けるなどして、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		県内の伝統や文化、先人の働き	県内の伝統や文化は、地域の人々の努力により保存や継承されてきたことや、先人の働きが、地域の生活の向上や地域の発展に貢献したことなどを基に、今日の自分たちの生活はこれまでの人々の願いや努力の上に成り立っていることを理解する。	時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、地域の人々の取組や先人の働きを総合するなどして、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（小学校社会科）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と国土	我が国の国土の様子	我が国の国土は、地形や気候などの地理的環境に特色があり、人々の生活が自然条件に適応して営まれていることや、行政機関や地域の人々は、地域の自然条件に応じて、災害・公害の防止や森林保護など、国民の健康や生活環境を守る取組に努めていることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活とを関連付けるなどして、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		我が国の産業と情報の関わり（食料生産・工業生産・情報を活用して発展する産業）	我が国の産業は、自然条件や社会条件、社会の変化に対応しながら、産業に関わる人々の様々な工夫や努力により営まれており、国民の食料確保や国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、産業と国民生活とを関連付けるなどして、産業が果たす役割を考えたり、これからの産業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
	私たちの生活と国や国際社会	我が国の政治の働き	我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われており、国民主権の考え方の下、社会の変化に伴う様々な課題への取組を通じて国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、日本国憲法や政治の働きと国民生活とを関連付けるなどして、我が国の政治の働きについて様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。
		我が国の歴史上の主な事象	我が国の歴史において、先人の業績が国家や社会の変化に大きな影響を及ぼしてきたことや、優れた文化遺産が長い歴史をもち今日まで保存・保護されてきたことを基に、今日の自分たちの生活は、これまでの歴史を通じた先人たちの働きの上に成り立っていることを理解する。	時期や時間の経過などの視点に着目して、歴史上の主な事象を総合するなどして、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
		国際社会における日本の役割	我が国は、地球規模の課題の解決に向けて今後も国際社会の平和と発展のために責任と義務を果たす必要があることや、我々国民は、世界の人々との交流を通して異なる文化や習慣を尊重し合いながら、相互に理解を深めることが大切であることを理解する。	位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係、時期や時間の経過などの視点に着目して、国際社会と我が国の国際協力や国際交流を関連付けるなどして、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（中学校社会科（分野横断））

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（分野横断）	A 社会へのまなざし	中学校社会科は三つの分野で学習が進められ、それぞれに特徴的な視点や方法が存在し、それらを活用することで、社会的事象を多様な側面や立場から捉えることができることを理解する。	社会的な視点や方法等を用いて、地域の特色やその歴史、現代社会の仕組みや働きについて、具体的な事例を取り上げ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		B 私たちと社会	よりよい社会を形成することに向けて、地域や社会における課題解決のためには、地理的及び歴史的な視点や方法に加えて、現代社会を捉える視点や考え方を組み合わせて用いることが必要であることを理解する。	社会的な視点や方法等を用いて，地域で見られる諸課題について，持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域や過去の課題と比較・関連付けたりしながら、地域さらには社会の現在や未来の在り方について、多面的・多角的に考察，構想し，表現することができる。
		C よりよい社会を目指して		社会的な視点や方法等を用いて，現代の社会的事象から課題を見いだし，社会参画を視野に入れながら，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，多面的・多角的に考察，構想し，自分の考えを説明，論述することを通して，私たちが主体的によりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（中学校社会科（地理的分野））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（地理的分野）	A 世界の様々な地域	(1)世界の地域構成	大陸や大洋の形状や位置、地球上の位置の表し方、主な国々の位置関係など、世界を空間的な広がりから捉え、地球的規模で地理的な諸事象や現代世界の動向等を理解する基盤として、世界の地域構成の概略を理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、地球的規模の水陸分布や国家の位置関係などの地域構成を世界の空間的な広がりから大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)世界各地の人々の生活と環境	世界の多様な地域について、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けて変容したり環境に影響を与えたりすることを捉えることで、世界の人々の生活に多様性が生じていることを理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を，自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し，表現することができる。
			(3)世界の諸地域	世界の諸地域における自然及び人々の生活等の地域的特色を理解するとともに、地域的課題と地域的特色を関連付けて捉えることで、地球的課題は、地域的特色に応じて現れ方が異なったり変容したりすることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響と、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することができる。
		B 日本の様々地域	(1)日本の地域構成	国土の位置や領域の範囲など、我が国を空間的な広がりから捉え、日本の地理的な諸事象や現代世界の動向等を理解する基盤として、日本の地域構成の概略を理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、日本の位置や領域などの地域構成を日本の空間的な広がりから大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)日本の地域区分と諸地域	様々な主題から区分した日本の諸地域について、自然環境や産業などの地理的事象を有機的に関連付けて捉えることで、諸地域の特色や課題を明らかにすることができることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、適切な事象を取り上げ、日本の諸地域における自然的及び社会的地域的特色を、他の事象や課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することができる。
			(3)日本の地域的特色と世界とのつながり	日本の地域的特色や課題を世界とのつながりを踏まえて理解するとともに、よりよい社会の実現に向けて、日本の地域的課題を世界的な視野から捉え、その解決に向けて考えることの重要性を理解する。	人間と自然環境との関係、地域間の結び付きやスケールなどに関わる視点に着目して、世界とのつながりを踏まえた日本の地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し，表現することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（中学校社会科（歴史的分野））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（歴史的分野）	A 近世までの日本とアジア	(1)古代までの日本	列島周辺地域との関係を背景に、日本列島において律令国家が形成されたことや、国際的な要素を吸収したり、国風化が進んだりするなどしながら固有の文化が形成されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。
			(2)中世の日本	列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力との関係の中で展開されるとともに、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(3)近世の日本	ヨーロッパ勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、幕府と藩による支配体制が確立され、様々な秩序が身分制の下で形成されるとともに、生産力の向上や国内外の情勢変化などによって幕府の政治や社会が変化し続けたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
		B 近現代の日本と世界	(1)近代(成立期)の日本と世界【仮称】	欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、日本において中央集権的な諸政策を通じて近代国家のしくみが形成されるとともに、近代的な文化や生活が取り入れられたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代(成立期)の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(2)近代(展開期)の日本と世界【仮称】	国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、日本で立憲制を基盤とした政治体制が成立するとともに、工業化などの近代産業や近代文化の発展、第一次世界大戦後の国際協調に向けた動向や国民の政治的自覚の高まりについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代(展開期)の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
			(3)現代社会へ向かう日本と世界【仮称】	冷戦やグローバル化する世界の動向を背景に、第二次世界大戦の惨禍と国際協調の意義や、民主化と再建、国民生活の向上の過程に生じた成果や課題について理解するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現在の社会とのつながりについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、現代社会へ向かう日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（中学校社会科（公民的分野））

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会（公民的分野）	A 私たちと現代社会	(1)私たちが生きる現代社会と文化の特色	現代日本の社会を特色付ける情報化、グローバル化、少子高齢化の課題の理解に基づき、法、政治、経済などの仕組みを通じて、私たちが社会に関わることがよりよい社会の実現につながることを理解する。	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目し、私たちの社会への関わりによって、将来の法、政治、経済、文化、国際関係の在り方がどのように変化し得るかについて、現代日本の社会を特色付ける課題に関わる具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)現代社会を捉える枠組み	多様な人々が個人として尊重され、共に社会生活を送るためには、対立を調整し合意を形成して実現する必要があり、そのような合意の適切さを判断する基準として効率と公正が重要であることを理解する。	対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		B 私たちと経済	(1)市場の働きと経済	経済に関する仕組みやその働き、経済活動の意義の理解に基づいて、個人や企業による生産・消費などの経済活動に関わる選択が、市場の働きによって、有限な資源の効率的な交換、配分に繋がっていることを理解する。	分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)国民の生活と政府の役割	国や地方公共団体の財政及び租税の仕組みや意義の理解に基づいて、個人や企業、国や地方公共団体といったすべての経済主体が連携・協働を図ることで、現代社会に見られる経済的な課題を効果的に解決できることを理解する。	分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
		C 私たちと政治	(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義の理解に基づいて、日本国憲法の基本原理について理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)民主政治と政治参加	主権者である国民や自治の主体である住民の意思が反映され、国や地方公共団体が民主的に運営されるためには、国民や住民一人一人が政治に参加することが重要であることの理解に基づいて、国や地方公共団体の政治の基本的な仕組みについて理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
		D 私たちと国際社会の諸課題	(1)世界平和と人類の福祉の増大	国家主権、国際機構や国際法といった国際社会に関する基本的な事項や国際社会の現状などの理解に基づいて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けた地球規模の諸課題の解決には、国際協調や協力が重要な役割を果たすこと及び私たちが国際社会に主体的に関わることが大切であることを理解する。	持続可能性などの概念的な枠組みに着目して、主体的に国際社会に関わることに向けて、世界平和と人類の福祉の増大のために私たちにできることについて、多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、それらをもとに議論したりする。

※ 現行学習指導要領のD（２）については、分野横断Cで扱う

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（地理歴史科「地理総合」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理総合	A 地理と私たち	(1)地図や地理情報システムと現代世界	日本や世界の地域構成や国内・国家間の人やモノの移動等に関わる結び付きについて、地図や地理情報システム（GIS）を活用して可視化して捉えることで、それらが果たす役割や社会の様々な場面で役に立っていることを理解する。	位置や分布、スケールなどに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		B 国際理解と国際協力	(1)生活文化の多様性と国際理解	世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境と相互に影響し合うことで多様性が生じたり、情報化やグローバル化により変容したりすることを理解するとともに、自他の文化の尊重と国際理解の重要性について理解する。	人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を，多面的・多角的に考察し，表現することができる。
			(2)地球的課題と国際協力	世界各地でみられる様々な地球的課題について、それらの現状や要因、課題が相互に関連していることを捉え、課題を解決し、持続可能な社会を実現させるためには、各国の取組とともに国際的な協力が必要であることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
		C 持続可能な地域づくりと私たち	(1)自然環境と防災	自然災害発生の程度や頻度は、自然環境や社会条件と関わっているため、過去の土地利用やハザードマップなどの地理情報を効果的に活用して地域の災害リスクを把握し、地域に応じた防災・減災や備えを考えることが大切であることを理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)生活圏の調査と地域の展望	持続可能な地域づくりに向けた生活圏の調査を通して、地理的な課題を他地域との結び付きや、地域の成り立ち、変容などから捉え、様々な立場から解決に向けた取組を構想することの重要性について理解する。	持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に向けた取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（地理歴史科「地理探究」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理探究	A 現代世界の系統地理的考察	(1)自然地理的な事象の考察	世界の自然地理的な諸事象について、空間的な広がりから追究する系統地理的な視点や考察方法を用いて捉えることで、空間的な規則性や傾向性と関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを考えることができることを理解する。	人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して，自然地理的な諸事象について、空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
			(2)人文地理的な事象の考察	世界の人文地理的な諸事象について、空間的な広がりから追究する系統地理的な視点や考察方法を用いて捉えることで、空間的な規則性や傾向性と関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを考えることができることを理解する。	地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して，人文地理的な諸事象について、空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
		B 現代世界の地誌的考察	(1)現代世界の地誌的考察と課題の研究	世界の諸地域について、多様な事象を有機的に関連付けて追究する地誌的な視点や考察方法を用いることで、地域的特色や地域的課題の現状や要因、解決に向けた取組を総合的に考えることができることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察し、構想し、表現することができる。
		C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1)持続可能な国土像の探究	日本の地理的な諸課題について、系統地理的及び地誌的に考察した課題の現状や要因、解決に向けた取組などを関連付けて捉えることで、将来の日本の国土像の在り方を構想できることを理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（地理歴史科「歴史総合」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	A歴史の扉	(1)歴史と私たち	現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。	諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。
			(2)歴史の特質と資料		
		B近代化と私たち	(1)近代化への問い	資料等の情報を基に、立憲体制を基礎とした国民国家の形成や産業革命を通じた工業化などの近代化に伴う生活や社会の変化が、現代的な諸課題と関係していることについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)結び付く世界と日本の開国		
			(3)国民国家と明治維新		
			(4)近代化と現代的な諸課題		
		C国際秩序の変化や大衆化と私たち	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い	資料等の情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大による大衆社会の形成などの国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変化が、現代的な諸課題と関係していることについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			(2)第一次世界大戦と大衆社会		
			(3)経済危機と第二次世界大戦		
			(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		
		Dグローバル化と私たち	(1)グローバル化への問い	資料等の情報を基に、科学技術の革新を背景とした人・商品・資本・情報等の国境を越えた流動化など、グローバル化に伴う生活と社会の変化について理解するとともに、近現代の歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題が形成されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			(2)冷戦と世界経済		
			(3)世界秩序の変容と日本		
			(4)現代的な諸課題の形成と展望		

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（地理歴史科「日本史探究」））

				知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	日本史探究	A 原始・古代の日本と東アジア	(1)黎明期の日本列島と歴史的環境	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と原始・古代の展望		
			(3)古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		B 中世の日本と世界	(1)中世への転換と歴史的環境	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、多元的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と中世の展望		
			(3)中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		C 近世の日本と世界	(1)近世への転換と歴史的	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			(2)歴史資料と近世の展望		
			(3)近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述)		
		D 近現代の地域・日本と世界	(1)近代への転換と歴史的環境	• 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 • 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	• 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見いだし、根拠を示して表現することができる。 • 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
			(2)歴史資料と近代の展望		
			(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造		
			(4)現代の日本の課題の探究		

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（地理歴史科「世界史探究」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	A 世界史へのまなざし	(1)地球環境から見る人類の歴史	歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。	時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察、表現することができる。
			(2)日常生活から見る世界の歴史		
		B 諸地域の歴史的特質の形成	(1)諸地域の歴史的特質への問い	資料等の情報を基に、諸地域の歴史的特質への問いに照らして、生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などにおいて共通性と多様性をもつ諸地域が世界各地に形成されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。
			(2)古代文明の歴史的特質		
			(3)諸地域の歴史的特質		
		C 諸地域の交流・再編	(1)諸地域の交流・再編への問い	資料等の情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などによって、諸地域の交流が広がるとともに、新たな地域のまとまりが形成されたり諸地域の関係が変化したりしたことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
			(2)結び付くユーラシアと諸地域		
			(3)アジア諸地域とヨーロッパの再編		
		D 諸地域の結合・変容	(1)諸地域の結合・変容への問い	資料等の情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、科学・技術の発達、自由貿易の広がり、二度の世界大戦と国際協調の動きなどによって世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化について多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。
			(2)世界市場の形成と諸地域の結合		
			(3)帝国主義とナショナリズムの高揚		
			(4)第二次世界大戦と諸地域の変容		
		E 地球世界の課題	(1)国際機構の形成と平和への模索	資料等の情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間と空間のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			(2)経済のグローバル化と格差の是正		
			(3)科学技術の高度化と知識基盤社会		
			(4)地球世界の課題の探究		

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（公民科「公共」））

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	公共	A 公共の扉 (1)公共的な空間を作る私たち	人間がよりよく生きるため、個人として尊重されるとともに、自らの資質・能力を高め、人間として成長し、自立的な主体として社会に参画することの意義について理解する。	個人の尊厳や人間と社会の多様性と共通性などの概念的な枠組みに着目し、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて多面的・多角的に考察し、表現する。
		A 公共の扉 (2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	人間がよりよく生きることと公共的な空間の在り方の関係に着目して、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や公正などの義務を重視する考え方など，よりよい公共的な空間を築くための選択・判断の手掛かりとなる考え方の理解に基づき、現代の諸課題を考察することが重要であることを理解する。	現代の倫理的課題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで、課題の本質を的確に捉え、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて多面的・多角的に考察し、表現する。
		A 公共の扉 (3)公共的な空間における基本的原理	個人を尊重し、協働の利益を確保することなどが、公共的な空間を作る目的であることの理解に基づいて、民主主義、法の支配などの公共的な空間における基本的原理を理解する。	幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、人間が協働する理由、協働関係を妨げる要因について考察した上で、公共的な空間における基本的原理が、協働のための条件や協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として、どのような役割を果たすかということについて、具体的な事例を挙げて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴を踏まえて、自立した主体としてそれらの仕組みを通じて社会に参画することにより、現代の諸課題を公平・公正あるいは効率的に解決することができることを理解する。	現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して、関係する者の利害を適切に考慮した上で、多面的・多角的に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
		C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、事実に基いて考察した上で、その課題を解決する方法について、関係する者の利害を適切に考慮し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、協働して多面的・多角的に考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（公民科「倫理」））

				知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	倫理	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	(1)人間としての在り方生き方の自覚	人間としての在り方生き方に関わる概念や理論についての理解のもとで、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)国際社会に生きる日本人としての自覚	日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいての理解のもとで、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
		B 現代の諸課題と倫理	(1)自然や科学技術に関わる諸課題と倫理		他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
			(2)社会と文化に関わる諸課題と倫理		様々な他者との協働、共生に向けて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校（公民科「政治・経済」））

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	A 現代日本における政治・経済の諸課題	(1)現代日本の政治・経済	• 個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念や理論などを用いることで、現実社会の諸事象や諸課題を、政治と法の意義と機能、経済活動と市場などといった、現代日本の政治・経済の仕組みや制度と関連付けて，より多面的・多角的に捉えられることについて理解を深める。 • 自立し、主体的に生きる国民主権を担う公民として他者と協働して、利害を調整しながら、よりよい社会を形成していくことが大切であることを理解する。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 • 現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 • 政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見いだし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
			(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見いだし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
		B 国際社会の諸課題	(1)現代の国際政治・経済	• 国際社会の変遷、貿易の現状と意義などといった、現代の国際政治・経済の仕組みや制度と関連付けて、現実社会の諸事象を通して概念や理論について理解を深め、自立し、主体的に生きる国民主権を担う公民として他者と協働して、異なる価値を調整しながら、国際平和と人類の福祉に寄与していくことが大切であることを理解する。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 • 国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 • 政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見いだし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
			(2)国際社会の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見いだし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）



次は「中世の日本」の学習か。教科書の見開き２ページの学習をそのまま積み重ねるだけでは、時代の特色を大観することは難しいだろうな。そもそも、この学習内容はどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標

見方・考え方

統合的な理解・総合的な発揮

列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。

時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。

知・技

思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



生徒が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。そのためには、課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特色を大観して表現できるようにしたいな。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認できるから、それらを基に単元計画をつくれそうだ。



知識に偏りすぎた指導にならないようにするために、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成したいな。育成したい「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。



本単元は、(ｱ)武家政治の成立とユーラシアの交流、(ｲ)武家政治の展開と社会や文化の変化の２つの項目からなるんだ。課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特色を大観して表現するために、評価課題を「中世の日本は、どのような特色がみられた時代だったのかを説明しよう！」と設定し、それに向けて学習計画をつくってみよう。
(ｱ)では、「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」という問いを設定してみよう。まず課題把握として導入の１時間を設定しよう。次に①鎌倉幕府の成立、②元寇(モンゴル帝国の襲来)、③農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習するから、「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」、「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」、「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」という問いを立てて、４時間設定しよう。その後、それらを題材に、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察する時間を２時間設定しよう。最後に、考察したことを表現する時間を１時間設定すると、合計で８時間になるな。
(ｲ)も同様に８時間設定したら、最後に単元のまとめを表現しよう。評価課題に取り組むことで、これまでの学習を生かして、中世の日本について時代の特色を大観して表現できるようにしよう。この活動を１時間設定すると、本単元に充てる授業時数は合計で17時間になるな。



評価課題や学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。資質・能力が身に付いているか、きちんと見取れる評価にしたいな。



知識・技能は、評価課題「中世の日本は、どのような特色がみられた時代だったのかを説明しよう！」の取組状況から見取ろう。
思考・判断・表現は、多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができているかをワークシートから見取ろう。
デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

※「統合的な理解・総合的な発揮」及び各学習内容については現時点の内容を記載したものであり、今後内容を見直す。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）

単元構想のイメージ

1．単元名：中世の日本

2．分野の見方・考え方

学習指導要領の記述

社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

3．「統合的な理解・総合的な発揮」

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。

4．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要領通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、追究、解決に向けて見通しをもとうとしているか
・主体的な課題の追究、解決に向けて、自らの学びを振り返ったり、新たな課題を見いだしたりしているか
・よりよい社会の実現を視野に、他者と協働して、課題を追究、解決しようとしたり、課題の解決を視野に社会に関わろうとしたりしているか

5．単元の評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【評価規準の設定】

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現
	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりしたことを理解している。	・時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現している。

6．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのかを説明しよう！

7．指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	**(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流** ・課題を把握する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」 ・課題に対する見通しを立てる。	思		
2 3 4 5	・鎌倉幕府の成立について学習する。 「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」 ・元寇(モンゴル帝国の襲来)について学習する。 「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」 ・農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習する。 「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」	知		
6 7	・武士の政治への進出、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。 「鎌倉幕府の支配の特色を多面的・多角的に考察しよう」	思 知	○	
8	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」	知 思	○	小項目のまとめを表現する。
9-16	**(イ) 武家政治の展開と社会や文化の変化**			
17	**時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現する。** 「中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのか」	知 思	○ ○	単元のまとめを表現する。



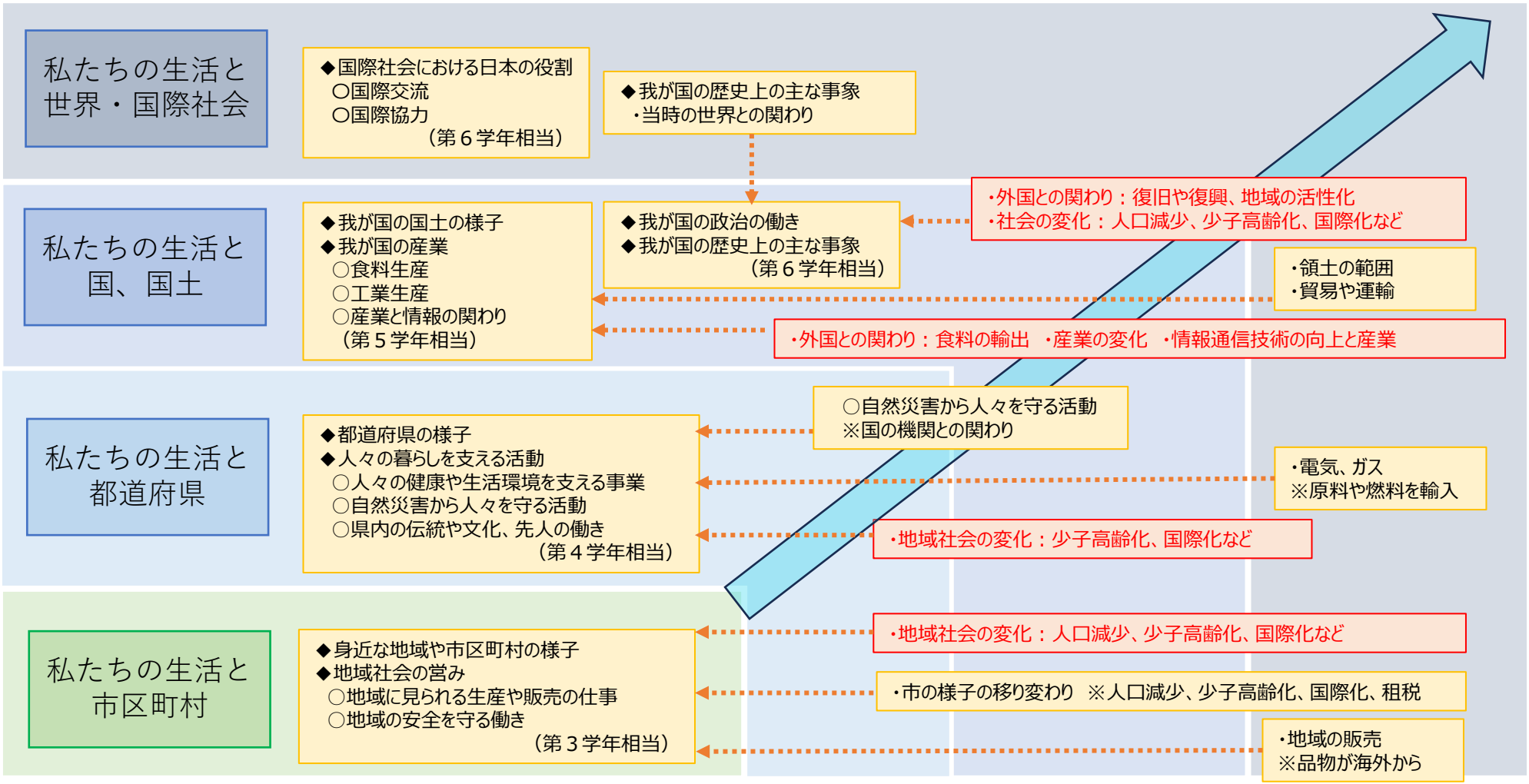
このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

※「統合的な理解・総合的な発揮」及び各学習内容については現時点の内容を記載したものであり、今後内容を見直す。

小学校社会科における系統性・体系性の再整理

グローバル化する国際社会に伴い、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっていることを踏まえ、**グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直す**。例えば、市町村や都道府県の様子などを扱う際に、**自分たちの身近な地域においてもグローバルな環境との接点が増えてきていることについての理由や背景**などについて学習する。

その際、発達段階にも考慮し、**身近な地域から始め、国際社会へと拡げていくという考え方は継続**する。



中学校社会科における改善イメージ（案）

小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、**よりよい社会の実現を視野に、課題を見いだし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る**観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ**中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断の単元（A・B・C）に統合・整理や位置付けを見直す。**

その際、**地理的分野、歴史的分野、公民的分野における必要な学習が適切に実施**されるとともに、地理的分野及び歴史的分野の学習の基礎のもとに公民的分野へ円滑に移行されるよう、**実施時期も念頭に検討**を行う。あわせて、既存の学習事項の移行や統合、精選など学習内容の整理を行うことで、**全体として学習内容の増加とならないよう整理**する。

小学校社会科

↓

中学校社会科

【分野横断】A 社会へのまなざし（仮称）

小学校社会科の学習を踏まえた中学校社会科への**導入単元**

地理的分野【第1学年～第３学年】　歴史的分野【第1学年～第３学年】

【分野横断】B 私たちと社会（仮称）

地理的分野と歴史的分野の学習を踏まえた公民的分野（現代社会）への**接続単元**

公民的分野【第３学年】

【分野横断】C よりよい社会を目指して

生徒が課題を探究する活動を通して、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題の解決に向けて考察・構想する**中学校社会科のまとめ単元**

↓

高等学校 地理歴史科・公民科

分野横断A「社会へのまなざし」の学習イメージ

＜単元の問いの例＞
私たちの暮らす社会を理解し、社会と自分との関わりを考えるためには、どのように学び方を工夫できるだろうか。

＜導入単元に期待されること＞
・社会科の３年間の学習の流れや分野ごとの学習の見通しをもつ
・地理的分野（世界や日本の学習）への動機付け
・歴史的分野（各時代の特色の学習）への動機付け

＜単元の題材・学習例＞ 小学校社会科における市区町村から世界・国際社会の学習を総合的に活用

分野横断B「私たちと社会」の学習イメージ

＜単元の問いの例＞
多様な地域や環境、様々な歴史の中で、私たちは社会の一員としてどのように関わることができるだろうか。

＜接続単元に期待されること＞
・公民的分野（現代社会を捉える視点や方法（考え方）やそれらを用いて課題の解決を図る学習）への動機付け

＜単元の題材・学習例＞ 身近な地域から社会の課題を見いだし、他の地域や歴史と関連付けて考察し、課題の解決に向けて選択・判断

分野横断C「よりよい社会を目指して」の学習イメージ（現行の公民的分野のD(2)）

＜単元の問いの例＞
社会に参画する主体として私たちがよりよい社会を築いていくためにはどのようにすればよいだろうか。

＜まとめ単元に期待されること＞
・社会参画意識の醸成（期待される視点例：現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきことはなにか。私たちがよりよい社会を築いていくために，どのようなことを考え続けていくか。）

＜単元の題材・学習例＞ 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考察・構想し、構想したことを妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現

現実社会から課題を捉える手法としての地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の学習を行う際の主な方法（※）として位置付ける。

（※）分野横断の各単元のねらいに対して、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）が直接体験を生み出すことで、よりよい学びを促す方法となることを例示したり、具体的な手法を例示したりすることにより、教員が取り組みやすくすることを検討。

小・中学校社会科における内容の枠組みと対象

		地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
		地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
小学校	私たちの生活と市区町村	身近な地域や市の様子 仕事の種類や産地			地域に見られる生産や販売の仕事	市役所などの公共施設の場所と働き 地域の安全を守る働き	国際化 外国との関わり	市の様子の移り変わり		
	私たちの生活と都道府県	県の様子 県内の特色ある地域の様子	47都道府県の名称と位置		人々の健康や生活環境を支える事業 開発、産業などの事例（選択）	自然災害から人々を守る活動 国際交流に取り組む地域	産業、伝統的な文化	公衆衛生の向上 過去に発生した地域の自然災害 県内の伝統や文化、先人の働き		
	私たちの生活と国、国土		我が国の国土の様子と国民生活 生産物の種類や分布 工業の盛んな地域の分布 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々	自然環境に適応して生活していること 我が国の農業や水産業における食料生産 我が国の工業生産 我が国の産業と情報との関わり 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		輸入など外国との関わり 貿易や運輸		・生産量の変化 ・技術の向上 工業製品の改良 情報を生かし発展する産業	
	私たちの生活と世界・国際社会			外国の人々の生活の様子		我が国の政治の働き 我が国の国際協力	グローバル化する世界と日本の役割		我が国の歴史上の主な事象	・国際社会での重要な役割 ・当時の世界との関わり
中学校	分野横断A 社会へのまなざし	中学校社会科への導入単元＊学習への動機付け等								
	地理的分野		日本の地域構成 日本の地域区分と諸地域 日本の地域的特色と世界とのつながり 地域区分	世界の地域構成 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	産業を中核とした考察の仕方 資源・エネルギーと産業		州という地域の広がりや地域内の結び付き 交通・通信		地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点	
	歴史的分野					ギリシャ・ローマの文明 ・市民革命 ・立憲国家の成立と議会政治 ・国民の政治的自覚の高まり ・我が国の民主化と再建の過程			近世の日本とアジア 近現代の日本と世界	・世界の古代文明や宗教の起こり ・武家政治の成立とユーラシアの交流 ・世界の動きと統一事業 ・欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き ・日本の民主化と冷戦下の国際社会
	分野横断B 私たちと社会	地理・歴史的分野を踏まえた公民的分野への接続単元＊身近な地域の社会課題について考察等								
	公民的分野		少子高齢化	情報化、グローバル化	私たちが生きる現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 私たちと経済	私たちと政治	世界平和と人類の福祉の増大	文化の継承と創造の意義		
	分野横断C よりよい社会を目指して	中学校社会科のまとめ単元＊よりよい社会に向けて解決すべき課題を考察・構想等								

※太字は内容の大項目

高等学校地理歴史科（地理領域科目）における改善イメージ（案）

地理を学ぶ意味や意義、地理総合の学習の見通しをもつための導入単元へ見直す方向で検討。（水色マーカー部分）

地理総合

A 地理と私たち（仮称）	B 国際理解と国際協力	C 持続可能な地域づくりと私たち	
(1) 地図や地理情報システムと現代世界（仮称）	(1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力	(1) 自然環境と防災	(2) 生活圏の調査と地域の展望
ねらい： ・中学校の学習を踏まえた、地理領域科目の入り口 ・地理を学ぶ意味や意義 ・地理総合全体を俯瞰し、科目における学習の見通しをもつ ・地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性の理解と、それらを用いた技能の習得	課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな問いにつなげる。 ※A→B→C(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける		生徒が自ら主題を設定して考察・構想

B(1)で地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望することを促す場面を設定し、C(1)でより探究を深められるように充実を図る。（紫色マーカー部分）

地理探究

※大項目Aについては構造化を図っているため、中項目修正

A 現代世界の系統地理的考察		B 現代世界の地誌的考察	C 現代世界におけるこれからの日本の国土像
(1) 自然地理的な事象の考察	(2) 人文地理的な事象の考察	(1) 現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）	(1) 持続可能な国土像の探究
課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな課題につなげる。 ※A→Bと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける		生徒が自ら地域や主題を設定して地誌的に考察、構想 **※課題解決・新たな課題**：地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望し、新たな課題に向かう場面を創設	生徒が自ら主題を設定して考察・構想 B(1)課題解決・新たな課題を踏まえる

高等学校地理歴史科（歴史領域科目）における改善イメージ（案）

「統合的な理解・総合的な発揮」につながりを明確にしながら、単元のまとめで探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記する。（黄色マーカー部分）

歴史総合

※示されている項目名は現行のもの。

A 歴史の扉	B 近代化と私たち	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	D グローバル化と私たち	
(1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	(1)近代化への問い (2)結び付く世界と日本の開国 (3)国民国家と明治維新 (4)近代化と現代的な諸課題	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い (2)第一次世界大戦と大衆社会 (3)経済危機と第二次世界大戦 (4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(1)グローバル化への問い (2)冷戦と世界経済 (3)世界秩序の変容と日本	(4)現代的な諸課題の形成と展望
ねらい：科目への導入、歴史を学ぶ意義、学習基盤となる資料の取扱い	(1)＝**課題把握**：生徒が近現代の変化について問いを表現する (2)(3)＝**課題追究（情報収集、考察）**：近現代の歴史の変化に関する主題を設定し、資料を活用して考察する (4)＝**課題解決・新たな課題**　：近現代の歴史の変化と現代とのつながりを考察する **※B→C→Dと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける**			生徒が自ら主題を設定して考察・構想

日本史探究

A 原始・古代の日本と東アジア	B 中世の日本と世界	C 近世の日本と世界	D 近現代の地域・日本と世界	
(1)黎明期の日本列島と歴史的環境 (2)歴史資料と原始・古代の展望 (3)古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）	(1)中世への転換と歴史的環境 (2)歴史資料と中世の展望 (3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）	(1)近世への転換と歴史的環境 (2)歴史資料と近世の展望 (3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）	(1)近代への転換と歴史的環境 (2)歴史資料と近代の展望 (3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造	(4)現代の日本の課題の探究
(1)(2)＝**課題把握**：時代の転換の考察を踏まえて、生徒が時代を通観する問いを表現し、資料を活用して仮説を表現する (3)＝**課題追究（情報収集、考察）**：資料を活用して、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現する。 **※課題解決・新たな課題**：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 **○A→B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける**				生徒が自ら主題を設定して考察・構想

世界史探究

A 世界史へのまなざし	B 諸地域の歴史的特質の形成	C 諸地域の交流・再編	D 諸地域の結合・変容	E 地球世界の課題	
(1)地球環境から見る人類の歴史 (2)日常生活から見る世界の歴史	(1)諸地域の歴史的特質への問い (2)古代文明の歴史的特質 (3)諸地域の歴史的特質	(1)諸地域の交流・再編への問い (2)結び付くユーラシアと諸地域 (3)アジア諸地域とヨーロッパの再編	(1)諸地域の結合・変容への問い (2)世界市場の形成と諸地域の結合 (3)帝国主義とナショナリズムの高揚 (4)第二次世界大戦と諸地域の変容	(1)国際機構の形成と平和への模索 (2)経済のグローバル化と格差の是正 (3)科学技術の高度化と知識基盤社会	(4)地球世界の課題の探究
科目への導入（世界史を本格的に対象とするのは初めてのため）	(1)＝**課題把握**：諸地域を読み解く観点について考察し、問いを表現する (2)(3)(4)＝**課題追究（情報収集、考察）**：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸地域を軸に構造的に把握するための主題を設定し、資料を活用して考察する。 **※課題解決・新たな課題**：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 **○B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける**			地球世界の課題を主題に設定した学習	生徒が自ら主題を設定して考察・構想

高等学校公民科（公共）における事柄や課題の在り方について（案）

➢現行学習指導要領の13の事柄や課題

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

①法や規範の意義及び役割
②多様な契約及び消費者の権利と責任
③司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

④政治参加と公正な世論の形成、地方自治
⑤国家主権、領土（領海、領空を含む。）
⑥我が国の安全保障と防衛
⑦国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

⑧職業選択
⑨雇用と労働問題
⑩財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
⑪市場経済の機能と限界
⑫金融の働き
⑬経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

➢改善イメージ（10の事柄や課題）

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

①法や規範の意義及び役割、多様な契約（消費者の権利と責任を含む。）
②司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

③政治参加と公正な世論の形成、地方自治
④国家主権、領土（領海、領空を含む。）
⑤我が国の安全保障と防衛
⑥国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

⑦雇用と労働問題（職業選択を含む）
⑧財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化
⑨市場経済の機能と限界、経済活動を支える金融の働き
⑩経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

高等学校公民科（倫理）における事柄や課題の在り方について

➢現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目Ｂ(1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ｳ)）

- ●「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- ●「自然」…人間の生命が自然の生態系の中で、植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、調和的な共存関係が大切であることについても思索できるようにすること。
- ●「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

・大項目Ｂ(2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ｴ)）

- ●「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、共生といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。
- ●「文化と宗教」…文化や宗教が過去を継承する人類の知的遺産であることを踏まえ、それらを尊重し、異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索できるよう指導すること。
- ●「平和」…人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想できるよう指導すること。

➢改善イメージ（課題の例）

・大項目Ｂ(1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ｳ)）

- ●「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、病と治療や老い、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- ●「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の正負の側面と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

※「自然」については現行のとおり

・大項目Ｂ(2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ｴ)）

- ●「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、共生・包摂といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。

※「文化と宗教」「平和」については現行のとおり

※課題例について、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択

高等学校公民科（政治・経済）における事柄や課題の在り方について

➢現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目A(2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- ●少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- ●地域社会の自立と政府
- ●多様な働き方・生き方を可能にする社会
- ●産業構造の変化と起業
- ●歳入・歳出両面での財政健全化
- ●食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- ●防災と安全・安心な社会の実現　など

・大項目B(2)「国際社会の諸課題の探究」

- ●グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- ●地球環境と資源・エネルギー問題
- ●国際経済格差の是正と国際協力
- ●イノベーションと成長市場
- ●人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- ●持続可能な国際社会づくり　など

➢改善イメージ（課題の例）

※赤字は新たに追加等した課題例

・大項目A(2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- ●人口減少社会における社会保障の充実・安定化
- ●地域社会の自立と政府
- ●多様な働き方・生き方を可能にする社会（起業含む）
- ●歳入・歳出両面での財政健全化
- ●食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- ●防災と安全・安心な社会の実現　など

＋

- ●労働市場のグローバル化と国内の産業構造の変化
- ●選挙制度と多様なメディア
- ●生成AIなどデジタル技術の発展が進む社会

・大項目B(2)「国際社会の諸課題の探究」

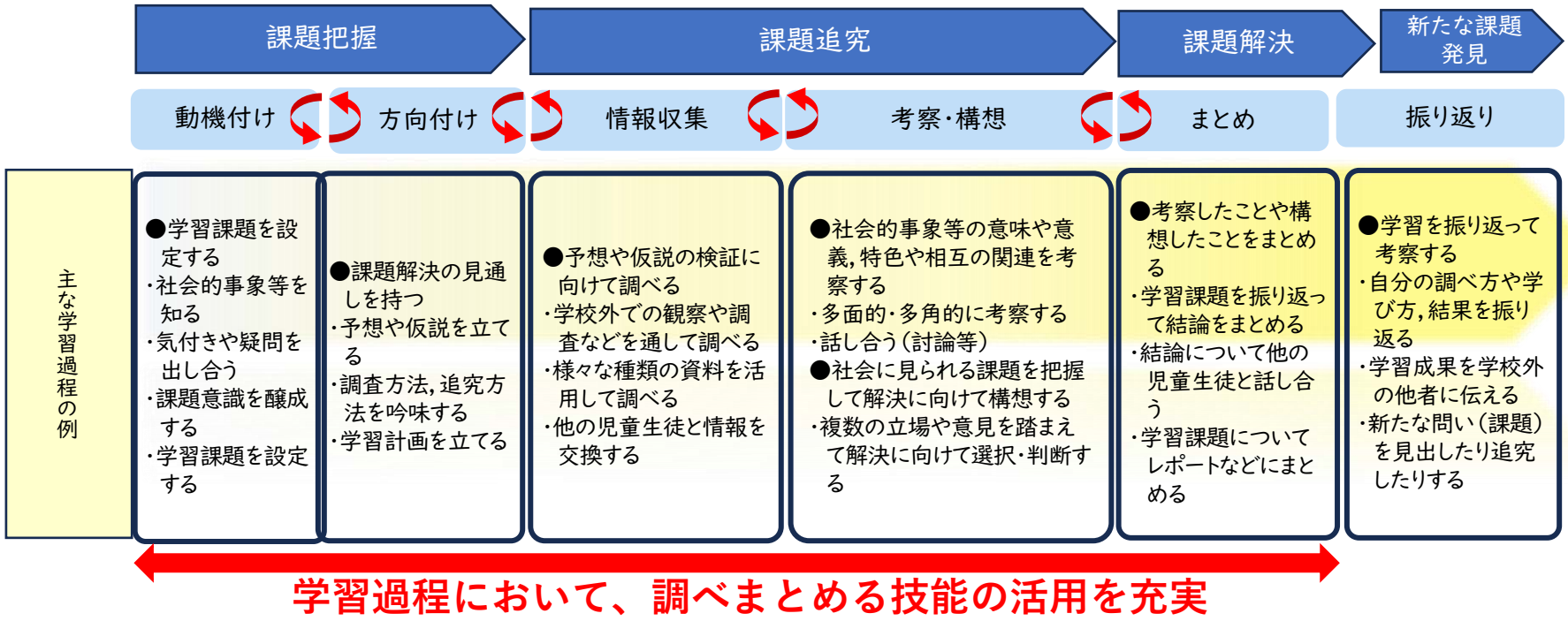
- ●グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- ●地球環境・気候変動と資源・エネルギー問題
- ●国際経済格差の是正と国際協力
- ●イノベーションと成長市場
- ●人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- ●持続可能な国際社会づくり　など

＋

- ●デジタル主権の進展
- ●複雑化する国際情勢と分極化
- ●国際社会における国際法の役割

※課題例について、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



＜中学校社会「解説」2-1　教科の目標　p.24＞

課題を追究したり解決したりする活動については，**単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し，諸資料や調査活動などを通して調べたり，思考・判断・表現したりしながら，社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。**こうした学習は，従前から「**適切な課題を設けて行う学習**」として，その充実が求められており，「課題を追究したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは，主体的・対話的で深い学びが実現されるよう，生徒が社会的事象等から学習課題を見いだし，課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果をまとめ，自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った**資質・能力を育成するためには**，生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも**「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成される**と考えられるからである。そのため「課題を追究したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。

社会的事象等について調べまとめる技能（小・中・高等学校）

※青字は再整理

○調べまとめる技能

情報を収集する技能

手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能

【１】諸資料の種類と情報を収集する

○資料の種類と情報
- 地図等から位置関係や形状、記載内容などの情報を収集する
- 年表から出来事や時期などの情報を収集する
- 統計から傾向や変化などの情報を収集する
- 新聞、図書、画像や現物資料などから情報を収集する

○その他
- 体験活動を通した仕事などに関する情報を収集する
- 博物館等の施設、学校図書館やICT端末等を活用した映像や読み物などの情報を収集する
- ICT端末や情報通信ネットワークなどを活用した情報を収集する

【２】調査活動を通した情報を収集する

○社会調査活動
- 地域住民等を対象にした聞き取り調査やアンケート調査による情報を収集する

○野外調査活動
- 現地の様子や実物を観察し、情報を収集する
- 写真撮影等で観察し、情報を収集する
- 地図と現地との対応関係を観察し、情報を収集する

情報を読み取る技能

収集した情報を社会的な視点や方法等に沿って読み取る技能

【１】情報全体の傾向や趣旨を読み取る
- 位置や分布など全体的傾向を読み取る
- 量や変化など全体的傾向を読み取る
- 博物館等の展示物から展示テーマの趣旨を読み取る

【２】必要な情報を読み取る

○事実を正確に読み取る
- 形状、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る
- 方位、記号などを読み取る（地図）
- 年号や時期、前後関係などを読み取る（年表）

○有用な情報を読み取る
- 学習上の課題解決に向けた情報を読み取る
- 目的に応じた情報を選別して読み取る

○信頼できる情報を確認して読み取る

【３】複数情報を見比べ、結び付ける
- 異なる情報を見比べ（異なる地域の様子など）て、結び付ける（土地利用の様子など）
- 同一事象に関する異種資料（グラフなど）の情報を見比べて、結び付ける
- 同種の資料における異なる表現（複数の地図、複数の新聞や複数の原典資料など）を見比べて結び付ける

情報をまとめる技能

※赤字は新たに追記した技能

読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能

【１】活用できる基礎資料としてまとめる
- 聞き取ってメモにまとめる
- 情報を地図やグラフなどにまとめる（数値情報をグラフなどに転換など）

【２】分類・整理してまとめる
- 項目やカテゴリーごとに整理しまとめる
- 順序や因果関係など整理し年表にまとめる
- 位置や方位など整理し白地図にまとめる
- 相互関係を整理し図（フローチャートなど）にまとめる
- ICT端末等でデジタル化した情報を統合・編集してまとめる

【３】情報の受け手に向けて、分かりやすさに留意してまとめる
- 効果的な形式でまとめる
- 主題に沿ってまとめる
- レイアウトを工夫しまとめる
- 表などの数値で示された情報を地図等に変換する

○情報の妥当性の確認

●情報の特性や情報の確かさに留意し情報を収集する
- 資料の表題、出典、年代、作者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を収集する
- 情報の特性に留意して情報を収集する
- 情報発信者の意図などに留意し情報を収集する
- 情報の有効性（データの新旧など）に留意し情報を収集する

●資料の特性に留意して適切かつ効果的に情報を読み取る
- 歴史資料の作成目的、時期、方法や作成者を踏まえて読み取る
- 地図や年表などの主題や示された情報の種類や類型を踏まえて読み取る
- 統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
- 資料の価値や限界を読み取る

●自らの整理した情報が妥当であるか吟味しまとめる
- まとめた情報の根拠を他者とも共有（活用した資料などの典拠などを明記するなど）する
- まとめた情報に含まれる他者の考えや資料などの引用部分を明示する
- まとめた情報について妥当性があるかを確認する

※AIを活用する際は、最終的に生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自ら言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「情報の妥当性の確認」に関する技能で示した視点も活用

子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動のイメージ

社会参画意識を一層向上させるため、児童生徒自身が有権者であること、または有権者となることを意識し、自らの判断で権利を行使することができるように、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、具体的かつ実践的な指導を行うとともに、外部機関等も活用した実践的な活動をより充実する

● 模擬投票における連携の例

事前学習①
社会科等において、
・議会制民主主義の意義
・民主政治の推進と選挙などについて学習

事前学習②
・地域の課題等から社会との関わりを意識する課題を設定し、比較・検討
・自ら比較・検討した内容について、他の生徒と多面的・多角的に議論

連携
※ 議会に所属する議員等との意見交換の場の設定など

投票・開票
・投票所（教室など）において実際に投票
・開票結果の確認
注 実際の選挙を活用した場合には投票の開票時期等について留意が必要

連携
※具体的な投票活動での支援など

投票結果の振り返り
・投票結果から比較・検討した社会との関わりを意識する課題について振り返り、改めて自分にできることを考察

選挙管理委員会・議会事務局・NPO法人等との連携

● 模擬請願における連携の例

事前学習①
社会科等において、
・議会制民主主義の意義
・民主政治の推進と選挙などについて学習

事前学習②
・請願の意味や意義、仕組みなどについて学習
・請願の内容を検討するため地域の課題等から社会との関わりを意識する課題を設定し、多面的・多角的に比較・検討し、請願する内容について議論

連携
※請願の意義や意味、その仕組みについての出前講座など

模擬請願書の作成
・模擬請願書の作成に向けて他の生徒と多面的・多角的に比較・検討した結果を踏まえ、請願書をまとめあげる。

連携
※議会に所属する議員等との意見交換の場の設定など

模擬請願の振り返り
・議員（議会が選定した者など）と請願の内容について意見交換した結果を振り返り、改めて自分にできることを考察

選挙管理委員会・議会事務局・NPO法人等との連携

算数科・数学科の目標

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
小学校	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き，学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度，算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
中学校	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
高等学校	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小・中・高等学校	事象を数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	○数学における基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	○事象を数理的に捉え、解決の見通しをもって論理的、批判的に考察する力を養う。 ○数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。 ○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 ○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 ○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

【以下は高等学校・数学科の科目ごとの目標案】

●「数学Ⅰ」

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
数学Ⅰ	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

（改訂案）

	●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学Ⅰ	数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	○多項式、論証、図形の計量、関数、データの活用についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ○多項式 を目的に応じて整理したり、方程式や不等式を解いたり、定理を用いて三角形の辺や角の大きさを求めたり、関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、基本的な統計量を求めたりする技能を身に付ける。	○事象を式に表現したり図形として捉えたり関数関係に着目したりして論理的に考察する力、社会の事象などから問題を設定してデータを用いて分析し批判的に考察する力、日常生活や社会の事象における判断や意思決定に数学を活用する力を養う。 ○式を用いた問題解決や証明の過程及び図形を計量する方法や関数についての考察を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 ○集合や命題、式、グラフ、図などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。 ○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 ○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 ○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

●「数学Ⅱ」

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
数学Ⅱ	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

（改訂案）

	●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学Ⅱ	数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	○式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ○式を目的に応じて整理したり、指数関数・対数関数及び三角関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、導関数や不定積分及び定積分の値を求めたりする技能を身に付ける。	○図形を方程式に表現して図形の性質などについて論理的、批判的に考察する力、関数関係や関数の局所的な変化に着目したりして事象を論理的、批判的に考察する力を養う。 ○方程式を用いた図形の性質に関する考察やいろいろな関数を用いた問題解決の過程を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 ○方程式やいろいろな関数の式・グラフなどを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。 ○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 ○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 ○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

●「数学Ⅲ」

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
数学Ⅲ	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

（改訂案）

	●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学Ⅲ	数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	○極限、微分法、積分法についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ○簡単な数列の極限を求めたり、導関数を用いて関数の値の増減やグラフの凹凸を調べたり、定積分を用いていろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積などを求めたりする技能を身に付ける。	○関数の局所的な変化や大局的な変化及び微分と積分の関係に着目するなどして関数関係をより深く捉え、事象を論理的、批判的に考察する力を養う。 ○極限やいろいろな関数の局所的・大局的な性質などを用いた問題解決の過程を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして、統合的・発展的に考察する力を養う。 ○いろいろな関数の式・グラフや一般的な関数の表記などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。 ○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 ○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 ○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

●新科目（現行「数学Ａ」「数学Ｂ」「数学Ｃ」）

（現行）

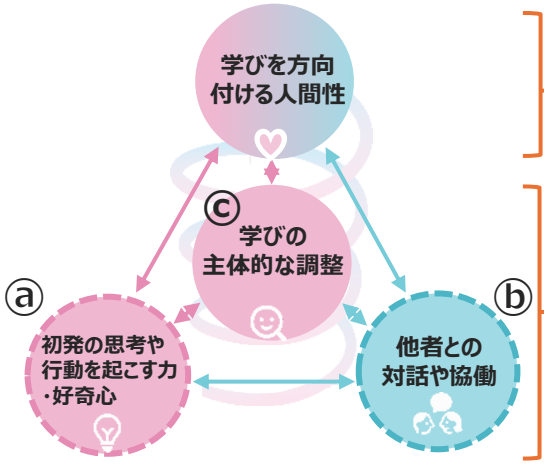
	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
数学A	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
数学B	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
数学C	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

新科目	数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	○数学におけるいろいろな概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学を活用した問題解決や数学的な表現の工夫について認識を広げ、深める。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	○事象を数理的に捉え、見通しをもって論理的、批判的に考察したり、判断・意思決定したりする力を養う。 ○数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 ○数学的な表現を工夫したり複数の表現を相互に関連付けたりするなどして事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それらを用いて論理的に説明する力を養う。	○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。 ○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 ○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 ○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

数学科の目標のうち「学びに向かう力、人間性」



【上部】当該教科等の学習で育まれる、人生や社会に向かう際の情意や感性に関わる部分(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)

以下②に該当

【下部】当該教科等の学習で育まれる、学びに向かう態度に関わる部分(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

以下①に該当

算数科・数学科で検討

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す

① 算数科・数学科の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

初発の思考や行動を起こす力・好奇心

事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度

他者との対話や協働

教師からフィードバックを受けたり、級友と数学的論拠に基づいて多面的・多角的に議論しながら事象や教材と自立的に向き合い、問題解決を進めようとする態度

学びの主体的な調整

問題発見・解決の過程を振り返って、粘り強く自らの学びを評価・改善しようとする態度

② 算数科・数学科の学習で育みたい情意・感性

学びを方向付ける人間性

数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎

①②を踏まえ

箇条書きで規定

○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。
○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。
○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

数学科の「見方・考え方」

- **教科としての一貫性**に鑑み、引き続き、**小・中・高等学校で、文言の統一**を図る。
- その際、**教科で扱う対象**について、現行では単に「事象」とされているが、新たな「見方・考え方」が卒業後の人生でも豊かに働くものとされたことに伴い、**より社会との接続を意識した規定ぶり**とする。また、「**事象**」については、**自然や社会の事象、数学の事象**などが含まれるが、「見方・考え方」を端的なものにする観点から、**解説において丁寧に説明**する。
- また、**教科固有の視点**の例示は、小中高を通じた学習内容の広がりや、社会で生かすものであることを踏まえ見直す。**端的に「数理の視点」**と表し、その具体について解説で詳述する。
- **考え方**については、卒業後の人生においても働かせるものであることを踏まえれば、社会における**クリティカル・シンキング（批判的思考）**の重要性の高まりを踏まえる。その際、あくまで**建設的な目的での「批判的」**であることを解説等で示す。なお、「論理的」「統合的・発展的」「批判的」は必ずしも同時に働かせるものではない。

（現行）

【小・中・高等学校】
事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

（改訂案）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

【小・中・高等学校】
事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 小・中・高の学びの系統性・一貫性・連続性を確保するため、学習内容について、数・図形等の学習の対象・目的を基に共通の6分野で整理。
　各分野については、その分野を構成する概念的要素を基に、更に１～２の「区分」に分類して「区分」毎に「統合的な理解・総合的な発揮」を設定し、教師が実際の単元構想に活用しやすい抽象度となるように工夫。
　小・中・高の一貫性重視により、小学校での示し方が過度に抽象的とならないよう、小学校の「統合的な理解・総合的な発揮」については可能な限り具体性を伴うよう示す。

②「統合的な理解」は、学習を通じて「理解してほしい（数学の）概念的要素がどのようなもの」で、「概念的要素を用いることで何ができるのか」を具体的に示す。これにより各「区分」の概念的要素について教師が具体的なイメージを把握しやすいようにし、問題の解き方を教えるだけの授業ではなく、数学の諸概念を用いて何ができるかを児童生徒に掴ませる授業への改善を促す。

③「総合的な発揮」は、学習の場面や日常生活、社会において、「概念的要素の何に着目」して、「具体的にどのような数学的な問題解決ができるようになるのか」を記述。これにより、数学の概念的要素を意識した問題解決の過程を学習に組み込むことを促し、「統合的な理解」や「総合的な発揮」の効果的な育成をめざす。

	（分野） 変化と関係			
	（区分） 割合と比		（区分） 関数	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	単位量あたりの大きさや割合、比は、・・・	事象における二つの数量の関係に着目し、・・・	伴って変わる二つの数量は、**一方の数量ともう一方の数量の変化と対応によって捉えることができ**、そのことにより、**未知の数量を予測できる**ことを理解する。	事象における伴って**変わる二つの数量の関係に着目**し、表、式、グラフを用いて表現・処理して得られた結果を、**事象に照らして解釈する**。
	内容項目例		内容項目例	
	・ 割合 ・ ・・・・	・ 事象における・・・	・ 伴って変わる二つの数量変化 ・ ・・・・	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見いだし、・・・・
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			関数は、**一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係**を扱い、**事象の変化を把握したり予測したりできる**ことを理解する。	事象において、**ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目**し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を**事象に即して解釈する**。
	内容項目例		内容項目例	
			・ 関数、座標の意味、表、式、グラフ ・ ・・・・	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見いだし、・・・・
高等学校・数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			・関数は、**一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係**を扱い、**事象の変化を把握したり予測したりできる**ことを理解する。 ・関数のグラフは、**方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として表せる**ことを理解する。	事象において、**ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目**し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を**事象に即して解釈する**。
	内容項目例		内容項目例	
			・ 二次関数の値の変化やグラフの特徴 ・ ・・・・	・ 事象における伴って変わる二つの数量を見いだし、・・・・

統合的な理解・総合的な発揮

	数と式			
	数・量		式	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	• 数は、量の大きさや順序を表し、数を用いることで、大小を比べたり、計算したりできることを理解する。 • 数は、既習の数の表し方や計算の仕方を基にして、数の範囲を整数、小数、分数に広げることで、数を使って考えられる対象が広がることを理解する。 • 量は、単位を基にすることで、大きさを測って数で表したり、その数を用いて異なるものの大小を比べたりすることができることを理解する。	• 数のまとまりや表し方の仕組み、計算に関して成り立つ性質に着目し、数の大きさの比べ方、表し方、計算の仕方を考察して、問題の解決に生かす。 • 長さ、かさ、広さといった量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定することで、量の大きさを数で表したり、その数を基に量の大きさを比べたりする。	式は、数と記号を用いて、数量や数量の関係を簡潔にわかりやすく表せることを理解する。	事象における数量の関係や計算の意味に着目し、式の表し方や計算の結果について考察する。
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	• 数は、量の大きさ、順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。 • 数は、既習の数の表現や計算と関連付けて範囲を拡張することで、より広範な事象を考察できるようになることを理解する。	• 数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方を考察し、大小比較や計算などに生かす。 • 計算に関して成り立つ性質に着目し、拡張した数の計算の仕方について考察したり、拡張した数の計算を問題の解決に生かしたりする。	• 文字や文字式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、目的に応じた形に変形することで、数量や数量の関係について説明できることを理解する。 • 方程式は、等しい数量の関係を表し、条件を満たす値を一定の手順に従って求められることを理解する。	• 計算に関して成り立つ性質に着目し、文字式の計算の仕方について考察し、式の計算を問題の解決に生かす。 • 事象における数量や数量の関係に着目し、式で表し、変形して結果を得るとともに、その結果を解釈する。
高等学校 数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、目的に応じた形に変形することで、数量や数量の関係について説明したり、条件を満たす値の範囲を一定の手順に従って求めたりできることを理解する。	事象における数量や数量の関係に着目し、式で表現し、変形して結果を得るとともに、その結果を解釈する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

	図形			
	図形の性質		図形の計量	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	図形の性質は、頂点、辺、角、面などの図形の構成要素やそれらの位置関係、二つの図形間の関係によって捉えることができ、それに基づいて、図形を分類したり、作ったりできることを理解する。	頂点、辺、角、面などの図形の構成要素やそれらの位置関係、二つの図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察して、それを他の図形にも活用したり、図形の計量の考察に生かしたりする。	図形は、辺の長さや角の大きさを数量で捉えることができ、そのことにより、平面や立体の図形における面積や体積などの直接測れない量を求めることができることを理解する。	• 図形の辺や角といった構成要素や、辺や面の平行や垂直といった位置関係に着目し、辺や角を数量で捉え、その数量を用いて処理して、得られた結果を解釈する。 • 図形を計量した過程や結果を基に一般化し、公式を導く。
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	図形は、構成要素やそれらの位置関係、図形間の関係によって特徴づけることができ、それに基づいて、分類したり、構成したりできることを理解する。	図形の構成要素とそれらの位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それを図形の計量や証明、事象の考察に生かす。	図形は、構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ、そのことにより、平面や空間において直接測れない量を求めることができることを理解する。	• 事象における形、大きさ、位置関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理し、得られた結果を解釈する。 • 図形を計量した過程や結果を基に一般化し、定理や公式を導く。
高等学校 数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			図形は，構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ，そのことにより，平面や空間において直接測れない量を求めることができることを理解する。	• 事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。 • 事象を考察した過程や結果を基に一般化したり拡張したりし、定理や公式を導く。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

	変化と関係			
	割合と比		関数	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。	事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かす。	伴って変わる二つの数量の関係は、一方の数量ともう一方の数量の変化と対応によって捉えることができ、そのことにより、未知の数量を予測できることを理解する。	事象における伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを用いて表現・処理して得られた結果を、事象に照らして解釈する。
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。
高等学校 数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
			• 関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。 • 関数のグラフは、方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として表せることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		データと確からしさ			
		場合の数と確率		統計	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		場合の数は、漏れや重複がないように効率よく数え上げた起こり得る場合の総数であり、事象を起こり得る場合に分けて整理できることを理解する。	事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、漏れや重複なく調べる方法を考えて、起こり得る場合を整理する。	データは、身の回りの事象をある観点から捉えた情報であり、目的に応じて収集して、表やグラフなどを用いて分析することで、判断の根拠にできることを理解する。	目的に応じてデータを収集、整理し、データの特徴や傾向に着目して分析し、分析した内容に基づいて判断するとともに、その判断が適切かどうかを吟味する。
中学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表現し、不確定な事象の判断の根拠にできることを理解する。	事象の起こりやすさに着目し、それを数値で表して把握し、未知の状況について予測したり判断したりする。	• データの分布は、データの集まり方や散らばり具合の様子を表し、その特徴を捉えることで、判断の根拠にできることを理解する。 • 標本調査は、一部のデータに基づいて全体の傾向を推測できるとともに、標本調査では予測や判断に誤りが生じる可能性があることを理解する。	目的に応じてデータを収集、整理し、データの分布に着目して分析し、判断するとともに、その妥当性について吟味する。
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
				データの分布はデータの集まり方や散らばり具合の様子を表し、その特徴を捉えることで、データの散らばりによる不確かさを踏まえた判断の根拠にできることを理解する。	目的に応じてデータを収集、整理し、データの分布や確からしさに着目したり適切な手法を選択したりして分析し、判断するとともに、その妥当性について吟味する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		論証	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
		証明は、既に正しいと認められた事柄を基にして、論理的に結論を導くことにより、性質が常に成り立つことを説明できることを理解する。	事象から性質などを推測したり、推測された性質などを証明したりするとともに、その仮定や結論を振り返って新たな性質を推測し、元の事象と関連付けて考察する。
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		証明は、命題を集合の包含関係として捉えることにより、仮定を満たすすべての対象において結論が成り立つことの保証ができることを理解する。	事象における条件に着目し、条件の関係を集合の包含関係として命題に表し、その真偽について論理的に考察し説明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		社会を読み解く数学	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		数理モデルは、日常生活や社会の事象を目的に応じた条件や仮定の下で数学的に表現したものであり、それをよりよい判断や意思決定に生かせることを理解する。	日常生活や社会の事象における数学的な構造に着目し、数学の問題として表現して解決するとともに、得られた結果を解釈し、その妥当性や限界を吟味して、判断や意思決定に生かす。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		数学ガイダンス（仮称）	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
		数学は、日常生活や社会などの様々な事象を読み解く言語であり、数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して事象を捉え、論理的、統合的・発展的、批判的な考察を可能にすることを理解する。	事象における数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目し、判断したり説明したりするとともに、日常生活や社会と数学のかかわりや数学の概念について考察を深める。
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		数学は、人間が生活や社会の中で生まれる問いに向き合う中で創り出し、文化として継承・発展させてきたものであり、数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して事象を捉え、論理的、統合的・発展的、批判的な考察を可能にすることを理解する。	事象における数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目し、判断したり説明したりするとともに、職業・社会と数学のかかわりや数学の概念について考察を深める。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		数と式		数と式 及び 図形		変化と関係					
		式		図形と方程式		指数関数・対数関数		三角関数		微分法・積分法	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	数学Ⅱ	式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。	計算に関して成り立つ性質に着目し、式の計算の仕方について考察し、その計算を問題の解決に生かす。	図形は、条件を満たす点の集合として扱うことができ、それに基づいて、図形を式で表して計算可能にしたり、条件を図形で表して把握したりできることを理解する。	図形の構成要素間の関係や、事象における数量と図形の関係に着目し、図形を式で表したり、条件を図形で表したりして処理し、得られた結果を解釈する。	• 指数関数は、一定の比で変化する関係を表し、急激に増減する事象を把握したり予測したりできることを理解する。 • 対数関数は、ある数を底の累乗で表す際の指数を与え、乗法的な関係を加法的な関係に直して扱いやすくできることを理解する。	事象における一定の比で増減する数量関係に着目し、指数関数や対数関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。	三角関数は、角度とそれに対応する数値の関係を表し、周期的な事象を把握したり予測したりできることを理解する。	事象における周期性に着目し、三角関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。	• 微分は、関数を局所的に一次関数で近似して扱い、それにより関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。 • 積分は、ある区間にわたる関数の値の累積を微分との関係の下で扱い、それにより直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を捉えられることを理解する。	事象における数量の局所的な変化や、局所的な変化とその累積の関係に着目し、関数を用いて表現・処理し、得られた結果を解釈する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		変化と関係					
		極限		微分法		積分法	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
高等学校	数学Ⅲ	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		極限は、数列や関数の値がある値に限りなく近づいていく状態であり、連続的な変化や無限に続く過程を扱えることを理解する。	事象における数量の変化の様子やある値の近くでのふるまいに着目し、式とグラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を解釈する。	微分法は、関数を局所的に一次関数で近似して扱い、それにより、様々な関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。	事象における数量の局所的・大域的な変化に着目し、関数とその導関数の関係を用いて処理し、得られた結果を解釈する。	積分法は、連続的に変化する量を微小な変化量の和の極限として扱い、その値を微分との関係に基づいて計算することにより、計量したり変化する量の総和などを求めたりできることを理解する。	事象における局所的な量や変化の集積に着目し、それらを積分を用いて捉え、微分との関係に基づいて処理し、得られた結果を解釈する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		数と式		図形		数と式 及び 図形	
		行列		幾何ベクトル		複素数と複素数平面	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
高等学校	新科目	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		行列は、複数の数量や関係をひとまとまりに扱い、その演算を通して数量の組どうしの対応や対象の変換を表現できることを理解する。	事象における複数の数量や関係に着目し、行列で表現するとともに、その演算や性質を用いて分析・処理し、得られた結果を解釈する。	幾何ベクトルは、方向と大きさを持つ量を図的に表し、平面や空間における図形の位置や方向、長さや角度の関係を統一的に扱えることを理解する。	事象における向き、大きさ、位置に着目し、ベクトルとして捉えて表現・処理し、得られた結果を解釈するとともに、拡張すること。	複素数は、方程式の解として実数を拡張した数であり、複素数平面上の点に対応付けられ、方程式について図形を用いて調べたり、平面上の回転を表現したりできることを理解する。	事象における数量の関係や、向き、大きさ、位置に着目し、複素数及び複素数平面上の点として相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を解釈する。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		変化と関係		データと確からしさ			
		数列		場合の数と確率		統計	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
高等学校	新科目	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 数列は、自然数に対応して定まる数の列として離散的な変化や対応の規則性を表し、局所的な規則に基づいて全体的な変化の様子を捉えられることを理解する。 • 数学的帰納法は、自然数についての命題が、最初の数で成り立ち、さらに任意の数で成り立つならその次の数でも成り立つことを示すことによって、すべての自然数で成り立つと結論づける証明方法であることを理解する。	• 事象における離散的な変化や再帰関係に着目し、それらの規則性や累積を一般項、和、漸化式を用いて表現・処理し、得られた結果を解釈する。 • 自然数についての性質などを推測し、命題として表し、数学的帰納法で証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。	• 場合の数は、何を一つの場合とみなすかを明確にすることでもれや重複がないように数え上げられ、そのことにより、複雑な事象を構造化して数量的に把握できることを理解する。 • 確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表し、不確定な事象の判断の根拠にできることを理解する。	• 事象の構造に着目し、場合をもれや重複なく整理することで場合の数を数え上げる方法を考察し、得られた結果を解釈する。 • 事象の起こりやすさに着目し、数値で表して把握することにより、未知の状況について予測したり判断したりする。	統計的な推測は、標本から母集団について推測するときの確からしさを確率で捉え、母集団の傾向の考察に利用できることを理解する。	事象における母集団と標本の関係に着目し、調査の前提や方法の限界を踏まえて、母集団の傾向を推測したり、結果の妥当性について吟味したりする。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を生かした単元構想の参考イメージ（小学校・算数科）

次は５年生の「割合」か。児童にも学習内容を関連付けてより深く理解させて、資質・能力を身に付けさせたいな。そもそも、この学習内容はどういう資質・能力を育てたいんだっけ?

まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

目標

見方・考え方

統合的な理解・総合的な発揮

・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する

・事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かす。

知・技

思・判・表

「統合的な理解・総合的な発揮」を見ると、数学的活動を通して、**割合について理解し、事象における二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かせるようになるといいんだな。そのために、５年生の割合ではどんな学習をすればよいか考えたい。**

単元を見通した「深い学び」に繋げるためにも、各単位時間の学習を関連付けた単元を組まないといけないな。「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを参考に、単元構想を練ろう。

二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしの比べ方の理解を深めるような学習の流れを設定しよう。

それから、図や式を用いて二つの数量の関係を捉えられるように、第１時に、「二つの数量の関係の比べ方を図や式を用いて考える活動」を設定し、具体的な事象に沿って、二つの数量の関係どうしの比べ方を理解できるようにしよう。

児童の実態を踏まえると、百分率の問題は、基準量を求める場合と比較量を求める場合を同時に学習した方が理解が深まるから、合わせて扱おう。

ここまでで、二つの数量の関係どうしの比べ方を理解できるようになっていることを期待して、単元の終盤に、日常場面における割合を用いた問題を扱う時間を設定しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で８時間になるな。

学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。

知・技は、他の学習や日常場面でも活用できる程度に身に付いているか見取りたいな。

特に思・判・表は、数学的活動の過程で身に付けた資質・能力を総合的に発揮して表現するような評価課題を設けたらよさそう。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【小学校・算数科】

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

第５学年相当　単元名：割合（百分率）

（統合的な理解）
・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。

（総合的な発揮）
・事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かす。
※「統合的な理解・総合的な発揮」は直接の評価対象ではないことに留意

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。
（イ）百分率を用いた表し方を理解し，割合などを求めることができる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。
（イ）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察している。

時	学習活動	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
8 7	●学習の振り返り ●評価課題	二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア） 二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題を設定し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を考察し、説明している。（ア・イ）
6	●日常生活における割合を用いた問題	百分率を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア・イ） 二つの数量の関係に着目し、日常場面における百分率を用いた割引きや割増しの比べ方について考察し、説明している。（イ）
5	●百分率の問題	百分率を用いて、基準量と比較量の求め方を理解する。（イ）
4	●百分率や歩合の意味と表し方	百分率による割合の表し方を理解し、割合を百分率で表したり、百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。（イ）
3	●他の事象における割合を用いて比べる問題	異なる事象でも、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。（ア） 異なる事象（例えば、委員会やクラブの定員に対する希望者数の比較）で、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。（ア） 異なる事象でも、二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方が使えるかを考察し、説明している。（イ）
2 1	●二つの数量の関係どうしの比べ方	二つの数量の関係どうしを比べる際に割合を用いる場合があることを理解する。（ア） 二つの数量の関係を表した数（割合）を比べる学習であることを理解する。（ア） 二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べられる事象が、他にもあるかを予想している。（ア） 入ったシュートの本数と打ったシュートの本数という二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしをを比べる問題として設定している。（ア） 基準量と比較量に比例関係を認め、基準量や比較量を揃えたり、比較量÷基準量で求められた二つの数量の関係を表した数（割合）を用いたりして、様々な二つの数量の関係どうしの比べ方を図や式を用いて考察し、説明している。（イ）

二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる。

本単元の学習に関連が強い既習内容
（第４学年）簡単な場合についての割合
（第５学年）簡単な場合の比例の関係、小数の乗法及び除法、測定値の平均、単位量当たりの大きさ

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】
・事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている　・他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
・問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている
※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

教師による単元構想のイメージ例

1．単元名：割合

2．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること。

3．分野・区分の「統合的な理解・総合的な発揮」

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する	・事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かす。

4．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

学習指導要領の記述や児童の実態を踏まえて設定する。【検討①】

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

5．単元の目標と評価規準

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。【検討②】



「統合的な理解・総合的な発揮」を基に、割合の単元における目標を考えよう。

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	（ア）二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。 （イ）百分率を用いた表し方を理解し，割合などを求めることができる。	（ア）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。 （イ）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察している。

6．単元末に用いる評価課題

「統合的な理解・総合的な発揮」や単元の目標（評価規準）を踏まえて作成する。【検討④】

「読書が好きな人を調べたところ、５年生は６０人中３６人、３年生は４０人中２８人でした。この結果から、３年生の方が読書好きが多いと考える場合、その理由を、『割合』という言葉を使って説明しましょう。」

7．指導と評価の計画

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1～2	●二つの数量の関係どうしの比べ方を考察する。	知思		※図や式を用いて、比較量÷基準量で求めた数値を、事象に沿って解釈し、理解できるようにする。 ※二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察していること意識させる。
3	●前時とは異なる事象において割合を用いた比べ方を考察する。	知思		※１～２時で扱った事象とは異なる事象においても、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察していることが共通していることを理解できるようにする。
4	●百分率や歩合の意味と表し方について理解する。	知		
5	●百分率を用いた問題について考察する。	知		※基準量×割合＝比較量（基準量と割合の順序は問わない）という式に表し、数量の関係を把握できるようにする。
6	●日常生活における割合を用いた問題について考察する。	思 学	○ ○	※百分率を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を考察したり、値引きや値上げなどを含んだ割合の問題を扱う。 ※観点別学習評価は、以下のことについて評価する。 ・二つの数量の関係に着目し、日常場面における百分率を用いた割引きや割増しの比べ方について考察するとともに、二つの数量の関係どうしを比べる問題を設定している。（思） ・単元内の学習を基に、他の事象における割合を用いた問題に生かそうとしている。（学）
7～8	●学習の振り返り評価課題に取り組む。	知思	○ ○	※観点別学習評価は、以下のことについて評価する。 ・二つの数量の関係について、割合を求めることができる。（知） ・事象における二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を説明する。（思）



このように、学習指導要領を基にして単元構想することができるんだね。

※本資料は、教師が「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に「指導と評価の計画」を資料として作成することを求める趣旨ではないことに留意。計画については児童の実態に応じ単元の途中でも柔軟に見直しながら実施していくことが重要。

構造化・表形式化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ（小学校・算数科）



今日は、５年生の「割合」の1時間目の授業だな。単元構想したけど、児童の実態を踏まえて、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、本時の授業づくりをどのようにすればよいのかな？

単元：割合（第５学年）

「統合的な理解・総合的な発揮」

割合と比	
統合的な理解	総合的な発揮
・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。	・事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察して、判断に生かす。

指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1～2	●二つの数量の関係どうしの比べ方	知思		※図や式を用いて、比較量÷基準量で求めた数値を、事象に沿って解釈し、理解できるようにする。 ※答えを出すだけでなく、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察していること意識させる。
3	●他の事象における割合を用いて比べる問題	知思		※１～２時で扱ったとは異なる事象においても、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察していることが共通していることを理解できるようにする。
4	●百分率や歩合の意味と表し方	知		
5	●百分率の問題 ・比較量や基準量を求める問題	知		※基準量×割合＝比較量（基準量と割合の順序は問わない）という式に表し、数量の関係を把握できるようにする。
	（省略）			



はじめに、「統合的な理解」と「総合的な発揮」について考えるために、「系統表」から学習内容のつながりを確認しよう。

デジタル学習指導要領の「系統表」（イメージ）

系統表

該当学年の他の学習内容を分野ごとに確認しながら授業づくりができる

該当学年のみならず、前の学年や後の学年の学習内容を確認しながら授業づくりができる

分野	数と式	
区分	数・量	式
第4学年相当	○小数を用いた倍	
第5学年相当	○小数の乗法，除法の計算	○小数の乗法，除法の意味

分野	変化と関係
区分	割合と比
第4学年相当	○簡単な場合についての割合
第5学年相当	○異種の二つの量の割合 ○割合
第6学年相当	○比



「系統表」の「割合と比」区分の学習内容を縦に確認すると、知識及び技能の「統合的な理解」や、思考力、判断力、表現力等の「総合的な発揮」を意識した授業づくりができるな。
また、横に確認すると、他分野との関連を意識した授業づくりができるな。

8．第１～２時の実践の計画



単元の導入で、比較量÷基準量＝割合ということを理解するだけでなく、「単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を表し、それを基に比べられることを理解する。」（統合的な理解）ことや、「事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。」（総合的な発揮）に繋げるためには、児童が何を意識できるようになればいいのかな。



以下の問題を扱う際に、「どちらがうまいといえるか」だけを考えて終わりにするのではなく、「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ということを意識できるようにするとよさそうだな。

【問題】ＡさんとＢさんはバスケットボールのシュートの練習をしました。下の表はその記録です。この記録から、どちらがバスケットボールのシュートがうまいといえますか。

	入った回数（回）	シュートした回数（回）
Ａさん	１４	２０
Ｂさん	１２	１５



では、実際に第１～２時の本時案を考えてみよう。児童が「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ということを意識できるようになるためには、どのような授業展開にするといいのかな。



学習の振り返りでは、割合の単元では「二つの数量の関係に着目して、二つの数量の関係どうしを比べる」ということが大切だという意識をもたせられるように、明示的に指導しよう。

9．本時案

（１）本時のねらい

割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を、図や式を用いて考える。

（２）本時案

主な活動と予想される児童の反応	備考
●問題提示 【問題】ＡさんとＢさんはバスケットボールのシュートの練習をしました。下の表はその記録です。この記録から、どちらがバスケットボールのシュートがうまいといえますか。 （入った回数（回）／シュートした回数（回） Ａさん：１４／２０ Ｂさん：１２／１５）	※最初は入った回数だけを出し、その後、シュートした回数を出して、事象における二つの数量の関係に着目させ、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる問題として設定する。
●児童自身で考える	
●全員で解き方を共有する ・シュートした回数を揃える解法 ・入った回数を揃える解法 ・入った回数÷シュートした回数（もしくは、シュートした回数÷入った回数）をして、二つの数量の関係どうしを比べる解法	※各解法は、基準量と比較量の間に比例関係を認めると考えることができることを理解できるようにする。 ※特に、入った回数÷シュートした回数をして、二つの数量の関係どうしを比べる解法については、比較量÷基準量でもとめた商が何を表しているのかを、図や式を用いて事象に沿って解釈し、理解できるようにする。
●学習の振り返り ・基準量と比較量の関係を割合で表して、比べていることがわかった。 ・他にも、割合を用いて比べられるものを考えたい	※入った回数とシュートした回数という二つの数量の関係に着目して、入った回数÷シュートした回数の商を用いて、二つの数量の関係どうしを比べているということが、新しく学習したことであり、今後の単元の学習でも意識するように伝える。 ※二つの数量の関係どうしを比べる方法を使って、他にも比べられる事象があるかを考えさせる。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を生かした単元構想の参考イメージ（中学校・数学科）

次は2年生の「一次関数」か。
問題を解いていくだけでは、子供たちも学習内容の意義を理解できないだろうし、単に内容を覚えて、問題を解くことができるようになることが身に付けさせたい力ではないはず。そもそも「一次関数」の学習では、本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?

まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

- 目標
- 見方・考え方
- 統合的な理解・総合的な発揮
  - 関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりして判断できることを理解する。
  - 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりすることができる。
- 知・技
- 思・判・表

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

生徒が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。ここでは、関数を使えば**事象の変化を把握したり予測したりして判断できること**に気づかせたいな。
そのためには、**数学的活動を通して、一次関数について理解し、表、式、グラフなどを用いて数量の変化や対応の様子などを捉え、事象の考察に生かせるようにすることが大切**だ。
デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるから学習活動を組み立てる際のヒントになるし、適切な見取りとフィードバックの方法も考えておけば取り残される生徒も減りそうだ。

複雑な課題の解決に向けた思考力、判断力、表現力等が発揮できる活動を取り入れる必要があるけれど、時間も限られているから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか．．．

日常生活や社会における問題を一次関数を使って解決する数学的活動の中で、関数の必要性や意味の理解を深めるような学習の流れを設定しよう。また、事象と一次関数のつながりを捉えやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

予測したことを検討する際には、根拠をもとに意見交換をする時間を確保したいから、表からグラフに表すことや、式をつくることは、簡単な事象を考察するときに合わせて扱ってしまおう。

特に、表、式、グラフを用いて数量の変化や対応の様子などを捉えられるように、単元の中盤に、「水を熱したときの水温の変化を調べ、水温が80℃になるまでの時間を予測する実験」を設定し、体験的に理解できるようにしよう。

ここまでで、一次関数の特徴を，表，式，グラフで捉えるとともに，それらを相互に関連付けて理解できるようになっているので、最後に、数量の関係を一次関数と仮定して解決する事例を１時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で17時間になるな。

学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。

知・技は、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に身に付いているか見取りたいな。今回は、観察、実験における表，式，グラフなどの記述分析で見取ってみようか。

特に思・判・表は、数学的な探究の過程で身に付けた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【 中学校・数学科】 2-2 算⑪

中学校第２学年相当　単元名：一次関数

（統合的な理解）
関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。

（総合的な発揮）
事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
知①:一次関数について理解している。
知②:事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。
知③:二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
思①:事象において、一次関数として捉え、問題の状況を表、式、グラフなどを用いて表現することができる。
思②:数量の変化や対応の様子について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。
思③:表、式、グラフを用いて処理した結果を事象に即して解釈し、吟味することができる。

時	学習活動	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
17	●学習の振り返り ●評価課題	知①②③:関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。 ⇔ 思①②③:事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。
14 ～ 16	●一次関数を利用して問題を解決する。	これまで理解してきことが統合されていく 個々の思・判・表が総合されていく 思③:表、式、グラフを用いて処理した結果を事象に即して解釈し、吟味することができる。
11 ～ 13	● 二元一次方程式を一次関数の式と見て問題解決に生かす。	知③:二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ⇔ 繰り返され意識されていく 次の理解へとつながる（基盤となる）
3 ～ 10	● 一次関数の特徴を調べる。	知①:変化の様子，グラフの形，$y=ax+b$ の a，b の意味，変化の割合の意味など一次関数の特徴を理解している。 知①:一次関数を表、式、グラフを用いて表現したり、その特徴を読み取ったりすることができる。 思②:数量の変化や対応の様子について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 思①:事象において、一次関数として捉え、問題の状況を表、式、グラフなどを用いて表現することができる。
2 1	● 事象から一次関数を見いだす。	知②:事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 知①:一次関数の意味を理解している。 数学的活動を通した一体的育成
関連する既習内容		(中1)比例・反比例　(中2)連立方程式

学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」
①:事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
②:他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
③:問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

教師による単元構想のイメージ例

1．単元名：一次関数

2．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること。

3．分野・区分の「統合的な理解・総合的な発揮」

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。

4．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

5．単元の目標・評価規準

何ができるようになるかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】
※学習指導要領の内容の文末を変更

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。	①事象において、一次関数として捉え、問題の状況を表、式、グラフなどを用いて表現することができる。 ②数量の変化や対応の様子について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ③表、式、グラフを用いて処理した結果を事象に即して解釈し、吟味することができる。

6．評価課題

育成を目指す資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「データから富士山の６合目付近の高さの気温を予測し、予測した方法と理由を説明しよう！

7．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

育成を目指す姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス ●事象と一次関数	 知		※ガイダンスでは、 ・学習の流れと学習方法 ・前後の学習内容とのつながり を指導する。 知①：小テスト（結果を3時間目以降の指導に生かす）
3	●一次関数の特徴 ・一次関数の値の変化	知		知②：行動観察 ※理解が不十分な場合，既習の事象を関連付けて補説する。
＜省略＞				
10	●振り返りと評価問題	知	○	知①②：小テスト ※前時までに知識及び技能が深まった状況を評価する。
11-13	●二元一次方程式と一次関数 ・二元一次方程式のグラフ ・連立方程式とグラフ	知		知③：行動観察 ※座標平面上の２直線の交点の座標は，連立方程式の解として求められることを理解できるようにする。
14-16	●一次関数の利用 ・一次関数と仮定すること ・一次関数のグラフの利用	知 思	○	知① 思①：ワークシート
17	●評価課題 ●学習の振り返り	思 学	○	思①②③ ※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。 ※学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」に関わり、 ・学習前後の自己の変容を基に、次単元での学習にどのように生かそうとしているか など生徒が記述する時間を設定する。



このように、学習指導要領を基にして構想することができるんだね。

※本資料は、教師が「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に「指導と評価の計画」を資料として作成することを求める趣旨ではないことに留意。計画については生徒の実態に応じ単元の途中でも柔軟に見直しながら実施していくことが重要。

構造化・表形式化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ（中学校・数学科）



今日は、１年生の「比例・反比例」の17時間目の授業だな。単元の指導と評価は構想したけど、「統合的な理解・総合的な発揮」を意識して主体的・対話的で深い学びを実現するには、本時の学習ではどのように授業づくりすればよいのかな？

単元：比例・反比例（第１学年）

「統合的な理解・総合的な発揮」

関数	
統合的な理解	総合的な発揮
関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。

指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス ●関数 ・関数の意味 ・変数と変域	知		知①：行動観察
＜省略＞				
16 ～ 17	●関数の利用 ・事象を関数として捉える。 ・表、式、グラフなどで表現する ・表、式、グラフを相互に関連付けて考察する ・結果を解釈し、吟味する ●学習の振り返り	思 学		思②：行動観察、ノート ※問題解決の過程を振り返って生徒が記述する時間を設定する。 ※本時問題に取り組んで、分かったことや疑問などを記述することを通して，その後の学習を見通すことができるようにする。
18	●評価課題 ●単元の振り返り	知 思 学	○ ○	※「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえた　評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。



初めに、「統合的な理解」と「総合的な発揮」について考えるために、「系統表」から学習内容のつながりを確認しよう。

デジタル学習指導要領の「系統表」（イメージ）

系統表

該当学年の他の学習内容を分野ごとに確認しながら授業づくりができる

該当学年のみならず、前の学年や後の学年の学習内容を確認しながら授業づくりができる

分野	数と式		分野	変化と関係	
区分	数・量	式	区分	割合と比	関数
小学校第5学年相当	○整数の性質 ○ 整数，小数の記数法 ○小数の乗法，除法 ○ 分数の意味と表し方 ○ 分数の加法，減法 異分母の分数の加法，減法	○数量の関係を表す式 数量の関係を表す式	小学校第5学年相当	○異種の二つの量の割合 適さなど単位量当たりの大きさ ○ 割合（百分率） 割合／百分率	○伴って変わる二つの数量の関係 簡単な場合の比例の関係
小学校第6学年相当	○ 分数の乗法，除法 分数の乗法及び除法の意味／分数の乗法及び除法の計算／計算に関して成り立つ性質の分数への適用（分数×整数，分数÷整数	○ 文字を用いた式 文字を用いた式	小学校第6学年相当	○ 比 比	○ 比例 比例の関係の意味や性質／比例の関係を用いた問題解決の方法／反比例の関係
中学校第1学年相当	○正の数・負の数 ・正の数と負の数の必要性と意味 ・正の数と負の数の四則計算 ・正の数と負の数を用いて表すこと	○文字を用いた式 ・文字を用いることの必要性と意味 ・乗法と除法の表し方 ・一次式の加法と減法の計算 ・文字を用いた式に表すこと 一元一次方程式（比例式） ・方程式の必要性と意味及びその解の意味 ・一元一次方程式を解くこと	中学校第1学年相当		○比例，反比例 ・関数関係の意味 ・比例，反比例 ・座標の意味 ・比例，反比例の表，式，グラフ
中学校第2学年相当		○文字を用いた式の四則計算 ・簡単な整式の加減及び単項式の乗除の計算 ・文字を用いた式で表したり読み取ったりすること ・文字を用いた式で捉え説明すること ・目的に応じた式変形 ○連立二元一次方程式 ・二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味 ・連立方程式とその解の意味 ・連立方程式を解くこと	中学校第2学年相当		○一次関数 ・事象と一次関数 ・二元一次方程式と関数 ・一次関数の表，式，グラフ



「系統表」の「関数」から、縦に学習内容を確認すると、知識及び技能の「統合的な理解」を意識した授業づくりができるな。
また、横に確認すると、思考力、判断力、表現力等の「総合的な発揮」を意識した授業づくりができるよ。



「統合的な理解・総合的な発揮」に照らすと、この単元の学習を通して、
「統合的な理解」：関数は、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解
「総合的な発揮」：事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し，関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈
することに到達できるようにする必要があるから、６時間目の学習活動は・・・



○これまでの学習を振り返って次の学習に生かす場面
　初めに、小学校６年で、紙パックの枚数と重さの関係などを利用して比例について体験的に学習しているので、比例を利用して問題解決する過程を再度確認できるようにしよう。
　その上で、２分をはかる砂時計を作るために、砂時計に入れる砂の重さと砂が落ちきるまでにかかる時間の関係を調べる場面で、比例についての課題を設定することができるようにすればよいね。

○関係する２つの数量を見いだす場面
　算数で学んだ比例の内容と関係付けて考えられるようにするとともに、砂が落ちきるまでの時間を予測するために何を調べればよいか気付いたことを話し合ってみよう。

○２つの数量の関係を理想化・単純化して考察する場面
　砂の重さをxｇ、砂が落ちきるまでの時間をy秒として調べ、表やグラフにまとめ、事象の変化を把握できるようにしよう。
　また、表や数値を用いて求めた割合が一定であると考えたり，座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考えたりするなどして、二つの数量の関係を比例と仮定して砂が落ちきるまでの時間について考察できるよ。

○解決した結果を振り返り、解決の方法をまとめる場面
　新たに直面する問題について、数学を活用して解決できるようになるためには、問題解決の方法に焦点を当てて話し合い、その際に用いた数学的な考えについて共有する場面を設定するとよさそうだ。

○次の時間に向けて
　17時間目には別の事象、18時間目には、評価課題を実施するので、事象から生徒が解決過程を見通すことができるようにしたいな。



このように、構造化・表形式化した学習指導要領を授業づくりに活かすことができるのだな。

本時【１６時間目】の展開例

本時の目標
２分をはかる砂時計を作る場面で、関わりのある２つの数量を見いだし、その関係を比例と仮定して数学的に考察することができるようにする。

時間	学習活動	備考
16	【算数での比例の学習を振り返る場面】 ○集まった紙パックの枚数を直接数えずに求める場面を取り上げ、どのように解決をしたか話し合う  課題 ２分間スピーチのために砂時計を作ろうと思う。砂が落ちきるまでの時間を２分にするためには、どうしたらよいのだろうか 	小学校算数で、変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりして問題を解決したことについても想起できるようにする
	【関係する２つの数量を見いだす場面】 ○目的に応じて関係する２量を見いだし、表現する ・砂の量を変えればいいかな。 ・砂を通す厚紙の穴の大きさを変えてもいいね。 ・実際に作るとしたら、厚紙の穴の大きさを変えるよりも砂の量を変えた方が作りやすそうだ。	問題を解決するために必要なデータについて、実験のしやすさも見通して考慮できるようにする。
	【２つの数量の関係を捉え、比例と仮定する場面】 ○２量を決めて実験し、その結果を数学的に表現する ・x の値が25ずつ増えるごとに，y の値は，およそ12ずつ増えているね。 ・表を基にグラフの点をとると、とった点は一直線上に並んではいないみたい。 ・とった点が一直線上にあるとみてもいいのではないかな。 ・砂が落ちきるまでの時間は砂の重さに比例すると仮定して予測しよう。	本単元５～８時間目の比例の性質と調べ方の学習も想起し、日常事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるようにする。
	【比例と仮定して解決する場面】 ○実験結果を基に、表、式、グラフを用いて解決する ・直線のグラフをかいて、y座標が120のときのx 座標を読めばいいかな。 ・y=0.48x の式に，y=120を代入してx の値を求めればいいかな。	日常的な事象に含まれる数量を比例と仮定して問題解決することや、表やグラフを相互に関連させて考察することの方法やよさなどについて確認し、次時以降の課題解決に生かす。
	【本時を振り返る場面】 ○２分をはかるために必要な砂の重さを求める方法について話し合いながらを振り返って、まとめる。	

「統合的な理解・総合的な発揮」等を生かした単元構想の参考イメージ（高等学校・数学科）



次は「図形と計量」か。教科書に沿って説明していくだけでは、三角比の必要性や意味を理解しにくいだろうな。定理が複数出てくるけど、それを覚えさせて使わせるのがここの目標ではないはず。そもそも「図形と計量」ではどういう資質・能力を育てたいんだっけ?



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

目標

見方・考え方

統合的な理解・総合的な発揮

図形は，構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ，そのことにより，平面や空間において直接測れない量を求めることができることを理解する。

•事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。•事象を考察した過程や結果を基に拡張したり一般化したりし、定理や公式を導く。

知・技

思・判・表



なるほど、このような「統合的な理解」や「総合的な発揮」へと深めていきたいのか。そのためには、数学的活動を通して角度と辺の比の関係を捉えたり、それに基づいて計量した過程や結果を振り返って生徒が定理や公式を導いたりすることが大切になりそうだ。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるから指導を組み立てる際のヒントになるし、関連する中学校の内容なども確認できるから既習事項との接続や学び直しを生かした組み立てに生かせるな。



「統合的な理解」や「総合的な発揮」に至るには、日々の普段の授業が大切になるけど、時間数は限られているからうまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。個に応じた学習過程の工夫も大切だ。教科書も踏まえると、内容の配列や授業時数はどうするのが適切だろう？



事象を測量し、その過程や結果を基に一般化して生徒が定理や公式を導く中で、個別の知識及び技能を学んでいく流れを基本に据えよう。そうすると「思考力、判断力、表現力等」と「知識及び技能」を一体的に育成していくことになり、時間数も削減できる。

角度と辺の比の関係の実感を促すために、「鋭角の三角比」の最初に、中学校での相似の学習を振り返りながら、測量の問題を扱ってみよう。そこから相互関係まで扱うとして7時間程度必要だ。

次に、生徒が測量した過程や結果を基に拡張・一般化することを目指すなら、「三角形の拡張」より先に「三角形への応用」を先に扱うことも考えられるな。それが「鋭角の三角比」の学び直しや活用にもなる。測量を通して鋭角の場合で余弦定理や正弦定理を導出し、ある程度なじんだ上で、それらの定理が成り立つように鈍角の三角比を定義する流れにして、三角比を鈍角まで拡張することの意義の理解を促してはどうだろう。途中で個々の生徒が振り返ったり発展させたりする時間を確保すると、11時間程度は必要になるな。

最後に、空間図形の考察を扱いたいし、単元のまとめや振り返りの時間も確保したい。これで3時間程度は必要だ。

本単元での配列や授業時数が見えてきた。



内容の配列や時数が決まってきたので、同時に評価計画も立てておこう。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。



知・技は、例えば三角比の値を求められるだけでなく、その意味を理解しているかどうかを評価したい。ペーパーテストを用いる際には評価問題の工夫が必要だ。

特に思・判・表は、数学的活動を通して身に付けた思考力、判断力、表現力等の発揮を評価できる必要がある。定期テスト以外に、生徒がじっくり思考・判断・表現して取り組む機会を用意しよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【 高等学校・数学科】

数学Ⅰ　図形と計量

統合的な理解と総合的な発揮に基づく単元構想

往還しながら単元を構想する

（統合的な理解）
図形は，構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ，そのことにより，平面や空間において直接測れない量を求めることができることを理解する。

（総合的な発揮）
・事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。
・事象を考察した過程や結果を基に一般化したり拡張したりし、定理や公式を導く。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
知①:鋭角の三角比の必要性と意味、相互関係について理解すること。
知②:三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し，鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解すること。
知③:正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し，三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めること。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
思①:事象における形及び長さや角度の間の関係などに着目し、図形の計量に関する問題として設定すること。
思②:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、計量の過程や結果を基に一般化したり拡張したりするなどして、定理や公式として導くこと
思③:導いた定理や公式を事象の考察に活用すること。

単元の最後なので、これまでの理解をつなげ(知①&知②&知③)、事象を考察したり新たな公式等を導いたりできるようにしたい(思①&思②&思③)。

「総合的な発揮」に向けた思②の拡張と「統合的な理解」に向けた知②の意義理解を、知③を用いることで可能にしたい。

「総合的な発揮」に向けた思②の拡張と「統合的な理解」に向けた知②の意義理解のため，先に思②の一般化と鋭角に絞った知③の理解の一体的育成を目指し、それをこの後で生かす。

「総合的な発揮」に向けて最初から生徒が思①を実践できるようにしたい。数学的活動を通すことで思①を実践しながら知①の理解が深まる一体的育成が可能。

三角形への応用Ⅱ
知①&知②&知③:図形は、構成要素やその間の関係を三角比や正弦定理、余弦定理として捉えることができ、そのことにより、平面や空間において直接測れない量を求めることができることを理解する。
思①&思②&思③:例えば空間の事象において形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、三角比や諸定理を用いて処理し、結果を解釈できるようにするとともに、計量の過程や結果を基に一般化するなどして定理や公式として導き、それを活用する。

これまでの理解が統合されていく

鈍角の三角比への拡張
知②:鋭角の三角比を含むように鈍角の三角比を適切に定義することで、鋭角三角形において成り立っていた正弦定理や余弦定理を鈍角三角形においてもそのまま用いることができるようになることを理解する。
思②:計量の過程や結果を基に拡張する。

部分的な過程がより総合されていく

三角形への応用Ⅰ
知③:正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件、三平方の定理、鋭角の三角比と関連付けて理解し，既知の量から未知の辺の長さや角の大きさなどを求めること
思①&思②&思③：例えば織姫と彦星の間の距離について、既知の量と形に着目し、2辺とその間の角の大きさが既知のときのもう1辺の長さを求める問題として設定する。そこに直角三角形を見いだして三角比を用いて表現するとともに、計量の過程を基に、鋭角三角形において余弦定理を導く。さらに導いた余弦定理を計量に活用する。

次の理解とつながる(基盤となる)

繰り返され意識されていく

鋭角の三角比と相互関係
知①:三角比の相互関係について理解する
知①:1つの鋭角の大きさが決まればそれに対応して直角三角形の3辺の長さの比が決まること、その関係を用いて直角三角形の辺の長さや角度を求められることを理解する
思①：例えばはしご車のはしごの高さについて、形とはしごの角度に着目し、1つの鋭角が既知のときの直角三角形の高さを求める問題として設定する。

数学的活動を通した一体的育成

関連する既習内容：(中3)三平方の定理，図形の相似
(中2)三角形の決定条件

学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」
①事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
②他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
③問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

教師による単元構想のイメージ例

1．単元名：図形と計量

2．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること。

3．分野・区分の「統合的な理解・総合的な発揮」

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
図形は，構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ，それに基づいて，直接測れない量を求めたり，平面や空間における様々な問題を考察したりできることを理解する。	•事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。 •事象を考察する過程や結果を基に拡張したり一般化したりし、定理や公式を導く。

4．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

5．単元の目標・評価規準

育成を目指す資質・能力を明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	① 鋭角の三角比の必要性と意味、相互関係について理解している。 ② 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ③ ・・・	① 事象における形及び長さや角度の間の関係などに着目し、図形の計量に関する問題として表現することができる。 ② 計量の過程や結果を基に拡張・一般化し、・・・ ③ ・・・

6．単元末の評価課題

育成を目指す資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「身の回りにある直接測れない長さや角度を間接的に測ってみよう！」

7．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

目指す姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1-7	●鋭角の三角比 日常生活の事象を考察することを通して、直角三角形における角度と辺の比の間の関係を捉え、三角比の必要性や意味を理解できるようにする。 ●三角比の相互関係	知		※ 「直接測れない長さや角度はどのように測れるだろうか？」を問いとして進める。 ※ 相似の学習を振り返る。 ※ 知①：小テスト（結果を指導に生かす）
8-14	●三角形への応用（1） 日常生活の事象を考察することを通して、計量の過程や結果を振り返って一般化し余弦定理や正弦定理を導けるようにする。	思 学		※ 「直接測れない長さや角度は測るにあたって三角比はどのように利用できるだろうか？」を問いとして進める。 ※ 思②：ワークシート
15-18	●鈍角の三角比への拡張 鋭角三角形において成り立っている余弦定理や正弦定理などが鈍角三角形でも成り立つように鈍角の三角比へと拡張する。	思 知		※ 具体的な鈍角三角形の計量を通して行う。 ※ 個別に理解を深めたり発展させたりする時間を設ける。
19-20	●三角形への応用（2） 空間の事象において形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、三角比や諸定理を用いて処理し、結果を解釈できるようにする。	思		※ 思①：ワークシート
21-22	●評価課題 ●学習の振り返り	思 学	○	※ 「総合的な発揮」を踏まえた評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。



このように、学習指導要領を基にして構想することができるんだね。

※本資料は、教師が「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に「指導と評価の計画」を資料として作成することを求める趣旨ではないことに留意。計画については生徒の実態に応じ単元の途中でも柔軟に見直しながら実施していくことが重要。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を生かした授業づくりの参考イメージ（高等学校・数学科）



第4時までを見据えて第1時の授業を構想しよう。「統合的な理解」と「総合的な発揮」を踏まえて、最初から測量の問題を扱ってみよう。そこで必要感を持って中学校での相似の学習を振り返りながら、角度と辺の比の関係の実感を促せないだろうか。「学びに向かう力、人間性等」も踏まえると、具体的にはどんな教材とその扱い方が考えられるだろうか。



最初に扱う図形は直角三角形で、「総合的な発揮」を踏まえると、形及び長さや角度に関わる関係に着目し、直角三角形として捉えられるような事象を扱いたい。その場面で、直角三角形において角度が決まれば辺の比が決まるという関係を生徒が実感することは、「統合的な理解」に向けて深めることになる。

そう考えてみると、「はしご車はどこまで届く？」を問題としてみてはどうだろう。はしご車を直角三角形と捉えることになるし、角度を変えたときの高さを自然に考察できる。はしご車の角度を60°のときから始まれば、中学校数学の内容を学び直しながら進めることができそうだ。何より、はしごが何mまで届くかは大事な問題だから、生徒が解決の必要性を感じてくれるんじゃないだろうか。そこで正弦が登場することにより、それを定義することのよさを感じてほしい。

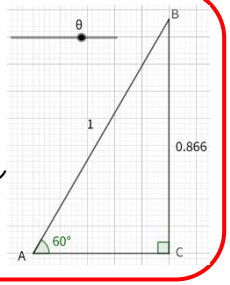
これは直接測れない量を求める数学的活動になりそうだし、数学的な見方・考え方に照らして妥当な活動と言えそうだ。



具体的に本時案に落とし込んでみよう。直角三角形において角度が決まれば辺の比が決まるという関係を生徒が実感する手立てとして何が考えられるかな。それと、生徒の姿を見取って指導に生かすために、生徒の反応をしっかり想定しておくことが大切だな。



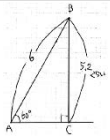
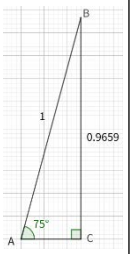
60°のときに、「∠Aの大きさが60°と分かれば、高さはいつでも斜辺の長さの$\sqrt{3}/2$倍になる」と見直しておきたいな。これはあまり自然には出てこない考えかもしれないから発問を用意しておこう。そこから、斜辺の長さを1とした直角三角形をデジタルツールを用いて操作することで、角度を変えたときに高さが決まることの実感を促してみてはどうだろう。



本時【第1時】の展開例

本時の目標

事象を直角三角形として捉え，角度と辺の比の値の関係に着目して，三角比（正弦）の意味を理解できるようにする。（知識及び技能）

主な活動と予想される生徒の反応	備考
●事象を数理的に捉えて問題を見いだす T：火災時にビルの高層階に取り残された人を救出するために，はしご車を使用することがあります。はしご車はどのくらいの高さまで届くでしょうか。まずははしごの角度が60°のときを考えてみましょう。 	はしご車の動画を見せたり、その場面について話し合ったりするなどして現実感と問題意識を高めるようにする。 日本で多く使われているはしごの長さは30mである。
●主に個別に考える ▷S1：直角三角形で捉えて縮図を用いる ▷S2：直角三角形の辺の比を用いる ▷S3：・・・ 	思考が進まない生徒には，問題の場面や条件をイメージできているか確認するとともに，30 mと60°と高さが表れる図形として捉えるよう促す。
●主に協働的に考える ○考えの共有 ○縮図に表すことのよさについての議論 ○直角三角形の辺の比を用いることのよさについての議論 ※斜辺の長さを1とみて高さを求める考えを取り上げ価値付ける	「∠Aの大きさが60°と分かれば、高さはいつでも斜辺の長さの$\sqrt{3}/2$倍になる」という考えが出てこない場合は，「60°のとき，はしごの長さから高さを求めることができないか」などと問う。
●さらに問題を見いだし、協働的に考える T：多くのはしご車では、最大75°まで動くそうです。このとき高さ何mまで届きますか。 ▷反応例1：直角三角形の比がわからない ▷反応例2：縮図をかけばわかる ▷反応例3：・・・ ○斜辺の長さが1の直角三角形の高さを表示するツールを提供する ○はしごの高さを求めて解釈する ○生徒が∠Aの大きさを他の様々な値に変えてみたときのBCの長さを観察する活動に基づいて正弦を導入する 	今は60°のときの高さを求めたがはしご車で救助することを考えると気になるのは何かなどと問い、生徒が問題を見いだせるようにする。 生徒一人一人が作図ツールを使って調べられるようにする。
●振り返る T：今日の授業で大事だと思ったことは何ですか。また，今日の授業を踏まえると，次にどんなことを考えてみたいですか。振り返り用紙に記しておきましょう。	指導に生かす評価としての知識・技能：角度と辺の比の値の関係に着目して，三角比（正弦）の意味を理解できたか［振り返りシート］

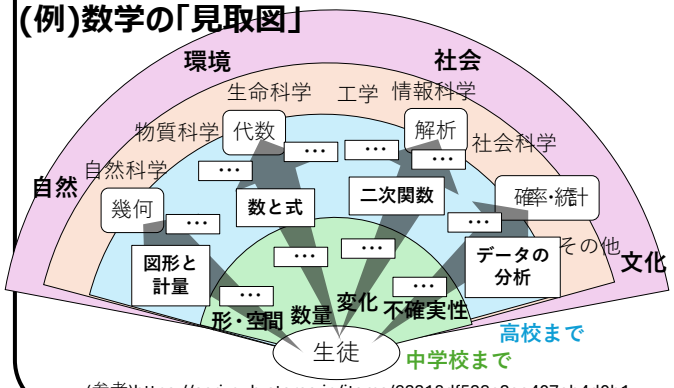
高等学校・数学Ⅰ 「数学ガイダンス」に含まれる要素のイメージ（議論用たたき台）

※具体的内容については別途専門的に検討

1．数学の全体像

- 既習事項と高等学校での学習内容とのつながり
- 専門的な数学や他の学問分野、自然や社会などとの関係

(例)数学の「見取図」



(参考)https://scri-pub.stores.jp/items/62218df523c2aa407eb4d0b1

▷ これまでどんな数学を学んできたかとそれが今後の数学にどうつながっていくかを把握してこれからの学びに生かす

▷ 合わせて数学の発展に基づく教科の特性(例:論理的、一般的・抽象的など)やその価値についても実感し、数学の学び方に生かす

2．数学と社会・仕事との関係

- 高等学校までの学習内容が社会(仕事)で活用されている様子

(例)仕事で使われる数学

職種	使われる数学（例）
データサイエンス系	推定、検定、因果・予測、回帰、最適化(微分)、データ構造の整理等
銀行員 証券	統計と信用リスクの数理(確率過程・統計・線形代数・最適化)等
農家	品質管理のための統計や最適化、モデル化による収量予測等
大工	屋根勾配等を計算する三角比等
・・・	・・・

▷ 仕事で使われる数学について動画教材等を通して具体的に知る(文理問わず幅広く紹介する)

▷ 数学を使う職業の疑似体験を行う(例：公衆衛生についてのデータアナリスト体験)

※数学を活用している企業・専門家の協力を得た実践的な学習も考えられる。

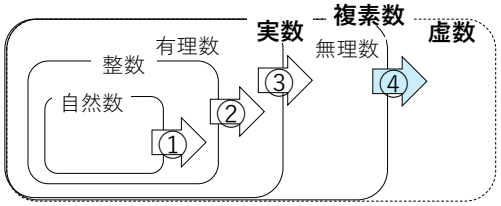
(参考)https://bowlandjapan.org/starterkit/outbreak

3．学びのつながり

●数の広がり（数Ⅰ→Ⅱ）

- 自然数、整数、有理数、無理数、実数の整理
- 実数から複素数への拡張

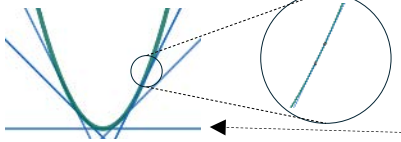
(例)数の広がりを振り返り豊かに学び直しながら発展させる



●微分・積分の素地（数Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ）

- 微分の考え・積分の考えとその応用

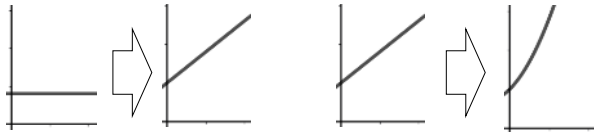
(例)1次関数への近似と最適化



複雑な変化を局所的に1次関数に近似して調べることができる

最小や最大をとるxの値を調べることができる

(例)フローとストック(例えばCO_2の正味排出量と蓄積量)



フローが一定ならストックは1次関数的に増加、フローが1次関数的に増加するならストックは2次関数的に増加

基本的な関数として2次関数を学ぶ

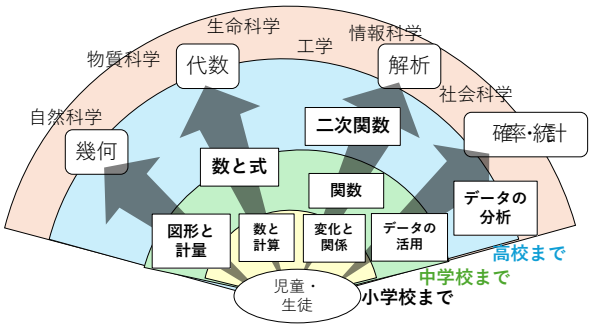
※数学Ⅱでは扱える関数を増やすとともに微積の考えを学ぶ

※数学Ⅲではさらに理論的に学ぶ

中学校「数学ガイダンス」に含まれる要素のイメージ（議論用たたき台）

１．中学校数学の全体像

➢ 小学校算数と中学校数学での学習内容とのつながり



(参考)https://scri-pub.stores.jp/items/62218df523c2aa407eb4d0b1

▷ これまでどんな数学を学んできたかとそれが今後の数学にどうつながっていくかを把握してこれからの学びに生かす。

※進学元の小学校がどこか等により多様な学習歴の生徒がいることに留意

▷ 合わせて数学の発展に基づく教科の特性(例:論理的、一般的・抽象的など)やその価値についても実感し、数学の学び方に生かす。

(例)中学校数学の「見取図」

〇数と計算（数と式）
　中学校数学では、具体的な数から文字を本格導入し、ある性質が、どんな数でも成り立つことを文字を用いて一般的に説明することができるようになることを学ぶ。

〇図形
　中学校数学では、目の前にある図形が「なぜ、そうなっているのか」を「見た目」ではなく、誰もが納得する「証明（論理の積み上げ）」で、解き明かすことができるようになることを学ぶ。

〇変化と関係（関数）
　中学校数学では、現実の事象から数量の関係を見いだし、表、式、グラフを用いて、未来を予測することができるようになることを学ぶ。

〇データの活用
　中学校数学では、「平均値だけでは見えない、分布の傾向」を捉える。情報（データ）を整理し、傾向を知ることで、不確実な世界で、客観的なデータに基づいてよりよく判断することができるようになることを学ぶ。

２．数学と社会･職業とのつながり

➢ **数学の概念や見方･考え方が社会をどのように捉え，職業にどのように生きるかを知る**

● **身の回りの事象を数学的に捉えること**

(例)
▷ バーコード、コンビニの陳列、天気予報など、日常に潜む数学の例を紹介し、身の回りから「数」や「形」で解決されているものを探す。
▷ 多数決を批判的に考察し，数を生かした物事の決め方には様々な方法があることを知り、どのような決め方がよいかを検討する。
▷ 気象情報など身近なデータを整理し、可視化することで、一見してわからない傾向を把握する。

● **数学と職業の関係について知ること**

(例)
▷ 職業に数学の内容や見方・考え方が生きている実例を動画教材等を通して知る。
▷ 自分が興味のある職業に生きている数学の内容や数学的な考え方について調べ，共有する。

● **数学的に考えることを味わうこと**

(例)
▷ 社会・職業において共通して大切になる論理的に考えることや統合的・発展的に考えることを味わう。
　▷ 「20を言ったら負けゲーム（石取りゲーム）」などのシンプルなゲームを行い、必ず勝つための手順（アルゴリズム）を論理的に考える。
　▷ 小学校で馴染みのある九九表に潜む規則性を探し、その規則性がどこでも成り立つことを根拠に基づいて説明するとともに、その規則性を発展させて新たな規則性を見つける。

高等学校数学科の科目構成に関する見直しの方向性

①ABCの区分けをなくし、必要な学習内容の選択を容易化

数学Ⅲ（選択履修）

- 極限
- **微分法**
- **積分法**

数学Ⅱ（選択履修）

- いろいろな式
- 指数関数・対数関数
- **微分・積分の考え**
- 図形と方程式
- 三角関数

②数学Ⅰ（必履修）の改善

- **数学ガイダンス**
  （数学の全体像、社会や職業との関係、微分積分の素地等）
  ※ 過度な負担を避ける観点も含め、国が分かりやすい動画を作成することも検討
- 数と式
  集合と命題（論証）
- **データの分析**
- 二次関数
- 図形と計量
- **社会を読み解く数学**
  （数理モデルを含む）
  ※ ①で該当する内容を選択履修する場合であって、当該履修によって「社会を読み解く数学」の「統合的な理解・総合的な発揮」を育成することができる場合に限り、相当分を減単可能とする
  ※ 数学Aの履修率が87%であることも踏まえつつ、過度な負担とならない範囲で学習内容の検討が必要

基礎的素養を抽出

新科目（選択履修）

- **複素数と複素数平面**
- **幾何ベクトル**
- **数列**
- **行列**（数ベクトルを含む）
- **統計的な推測**
- **場合の数と確率**

※履修順序を想定した配置ではない

▶**学習内容の実質的増加につながらないよう、全体の学習内容について必要な精選**を図る。

現行 数学A・B・Cと新科目の関係

科目	項目	内容	新科目
数学A	図形の性質	三角形、円の性質	（共通教科「理数科」解説の事例へ）
		作図	
		空間図形	
	場合の数と確率	場合の数	①新科目の「場合の数と確率」
		確率	
	数学と人間の活動	数量や図形と人間の活動	（数学Ⅰ「数学ガイダンス」へ、共通教科「理数科」解説の事例へ）
		遊びの中の数学	
数学B	数列	等差数列と等比数列	②新科目の「数列」
		いろいろな数列と漸化式	
		数学的帰納法	
	統計的な推測	確率変数と確率分布	③新科目の「統計的な推測」
		二項分布と正規分布、母集団と標本	
		統計的な推測の考え	
	数学と社会生活	数理的な問題解決	（数学Ⅰ「社会を読み解く数学」へ、共通教科「理数科」解説の事例へ）
数学C	数学的な表現の工夫	図，表，統計グラフ	（数学Ⅰ「データの分析」へ、共通教科「理数科」解説の事例へ）
		離散グラフ，行列	④新科目の「行列」
	ベクトル	ベクトルとその演算、内積	⑤新科目の「幾何ベクトル」
		空間座標，空間におけるベクトル	
	平面上の曲線と複素数平面	平面上の曲線	（数学Ⅲ「微分法」「積分法」へ）
		複素数平面	⑥新科目の「複素数と複素数平面」

高等学校・数学科の履修イメージ（試案）

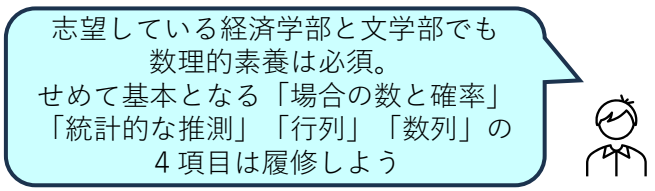
「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」における
「将来的には、文系・理系の区分がなくなることを目指しつつ、2040年時点では、個々の生徒の進路選択の結果、普通科高校の生徒のうち、いわゆる文系の生徒と理系の生徒の割合が同程度となるよう、特色・魅力ある普通科高校改革を進める」との目標も踏まえた科目開設を推進

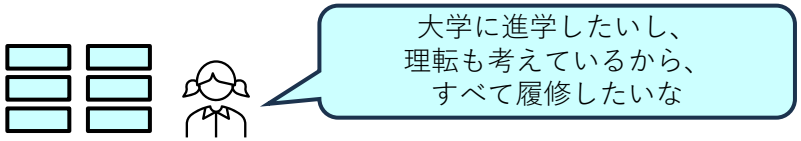
○いわゆる**理系大学・学部**への進学希望者が多いコースでは…

数学I **数学II** **数学III** **新科目**

○いわゆる**文系大学・学部**への進学希望者が多いコースでは…

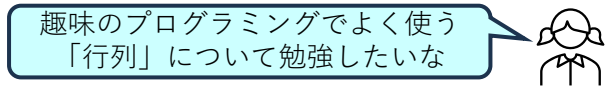
数学I **数学II** ＋ **新科目**から選択履修

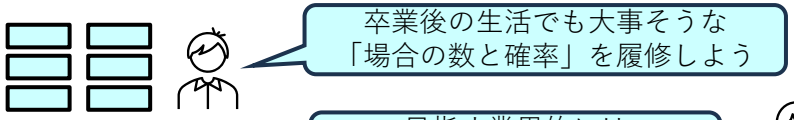


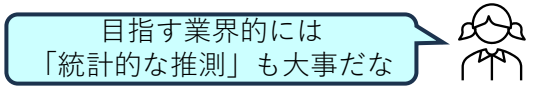


○**職業系専門学科**や、**大学進学を希望しない**生徒が多いコースでは…

数学I ＋ **新科目**から生徒の興味関心や
ニーズ等を踏まえた１項目以上







（注）各科目の内容　数学Ⅰ　…　数学ガイダンス、数と式、図形と計量、二次関数、データの分析、社会を読み解く数学　【数学Ⅰのみ必履修科目】
数学Ⅱ　…　いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え
数学Ⅲ　…　極限、微分法、積分法
新科目　…　場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列、幾何ベクトル、複素数と複素数平面

算数科・数学科における学習内容の見直し・精選等の考え方

➢ 「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえた学習内容の見直し・精選等

- 今般の構造化に係る全体的な議論及び算数科・数学科の教科の特性等を踏まえれば、以下の方針で学習内容の見直し・精選を図り、次期学習指導要領とその解説を作成することが必要。
  - ✓ 「統合的な理解」「総合的な発揮」の形成に必要不可欠な「知識及び技能」「思考、判断、表現力等」を中心に配列することとし、不可欠といえない内容については精選する。
  - ✓ 小・中・高等学校を通貫した学習内容の系統性、一貫性、連続性の観点から内容の見直しを図る。
  - ✓ 算数科・数学科の教科固有の特徴として、既習事項を基にして新規事項を学習していくことから（積み上げ）、見直し・精選等にあたっては、系統的、連続的な学習が成立するように注意する必要がある。また、児童生徒の発達の段階を踏まえる必要がある。

※ あくまで学習指導要領（解説）上の学習内容の精選であり、当然のことながら、実際の指導に当たっては、必要に応じて下学年・下学校種の既習事項の定着確認や学び直し等を行う必要がある場合もある。

【検討例】 高等学校 数学Ⅱ「いろいろな式」、数学Ⅲ「微分法」「積分法」、数学C「平面上の曲線と複素数平面」の見直し・精選
（考え方）複素数（数Ⅱ）と複素数平面（数C）を一体化して扱うことで、内容の重複を避けつつ、複素数の概念や計算と図形的意味の「統合的な理解」を形成できると考えられること、曲線の媒介変数表示（数C）はその活用場面となる数学Ⅲにおいて学習することが「総合的な発揮」の形成に資すると考えられることから、学習内容の配列を見直す。これに伴い、二次曲線や極座標・極方程式の配列についても見直す（※理数科との関係にも留意）。

➢ 教科書において精選対象となりうる内容や構成上の工夫の参考例

（前提として、学習指導要領及び解説において取り扱うべき内容をより明確にすることが必要。また、全体の分量を増やすことの無いよう留意が必要。）

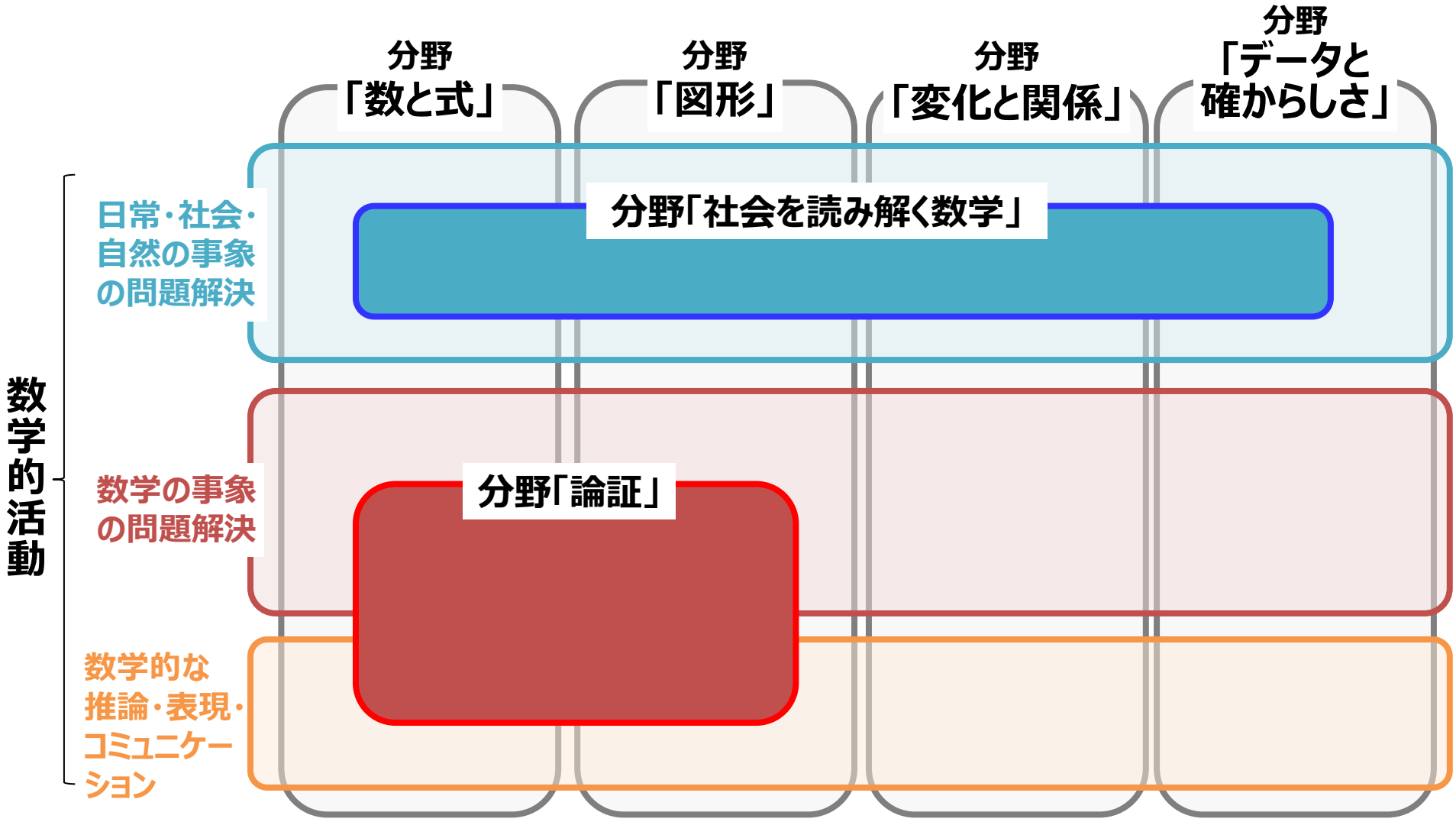
【検討例】

- 演習問題については、十分な習熟が図られていないケースや、逆に全ての児童生徒に同じ内容を全て取り組ませるようなケースもあることから、児童生徒に取り組ませる問題を教師が適切に選択しやすい（児童生徒自身が取り組みやすい）構成とする（例：基礎問題・習熟問題・発展問題）。なお、単に問題数の多さが特色とならないよう教科書会社に工夫を要請することも考えられる。
- まとめて習熟を図った方がよい単元については、単元末の習熟をまとめて設定する。（例：小６の分数の乗法及び除法）
- 帰納的指導法と演繹的指導法を教師が選択して実施しやすい構成とする。
- トピック・コラム的な内容や、ノートの書き方等の学習法に関する内容については、教科書上の時数は配当せず、児童生徒の実態を踏まえて教師が選択的に指導できるようにする。
- 小学校第６学年において中学校の学習内容に触れる内容を掲載する場合は、教科書上の時数を配当しない。
- 新規事項の学習に必要となる下学校種・下学年における既習事項について、既習事項の想起、定着状況の確認や復習・学び直しを可能とするような内容を掲載する。（精選ではなく見直しの観点）

等

※ 小学校においては算数科の指導経験が浅い／指導が苦手な教師を中心に、また、中学・高校においては受験指導を強く意識する学校を中心に、教師が教科書を網羅的に指導する傾向があるとの指摘がある。このため、教科書の個別の内容について、「統合的な理解・総合的な発揮」を育成する上で必ず取り扱うべき内容なのか、必要に応じて扱うべき内容（習熟や理解の深化に必要な内容等）なのかといったグラデーションが分かるよう、教科書会社に教師用指導書上での工夫等を要請することも考えられる。

算数科・数学科における各分野と数学的活動の関係



※「論証」分野については、数学科における論証指導を特に強化する観点から、「数と式」「図形」分野に散在している学習内容を１つの分野として独立させるもの。論理的に説明する活動（小学校）や数学的推論や論証（証明）等に関係する学習（中・高）については、他の分野を含め、算数科・数学科全体で充実を図る。

算数科・数学科における目標と数学的活動の関係

思考力、判断力、表現力等

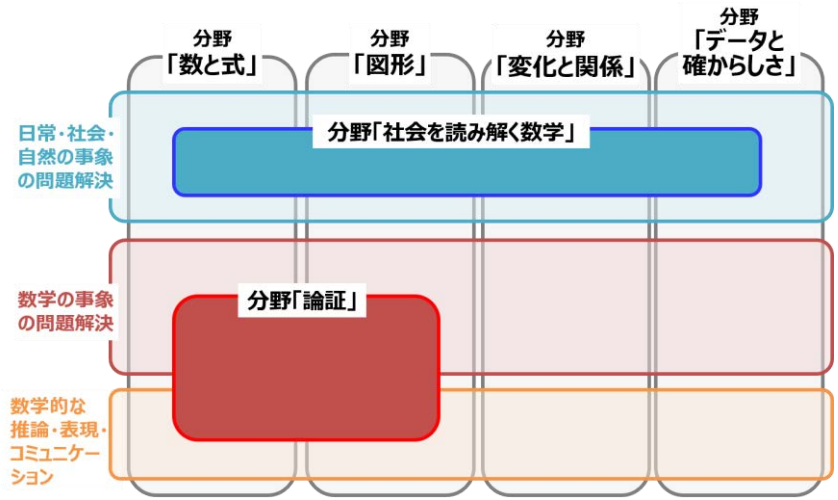
事象を数理的に捉え、解決の見通しをもって論理的、批判的に考察する力を養う。

数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。

数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。

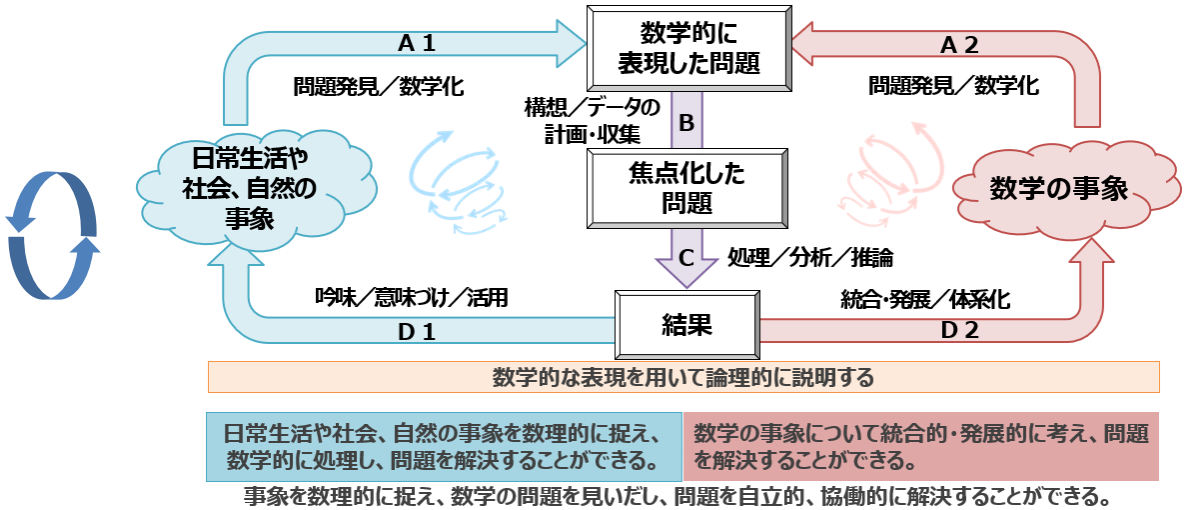
特に関連

特に関連



知識及び技能

○数学における基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。
○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。



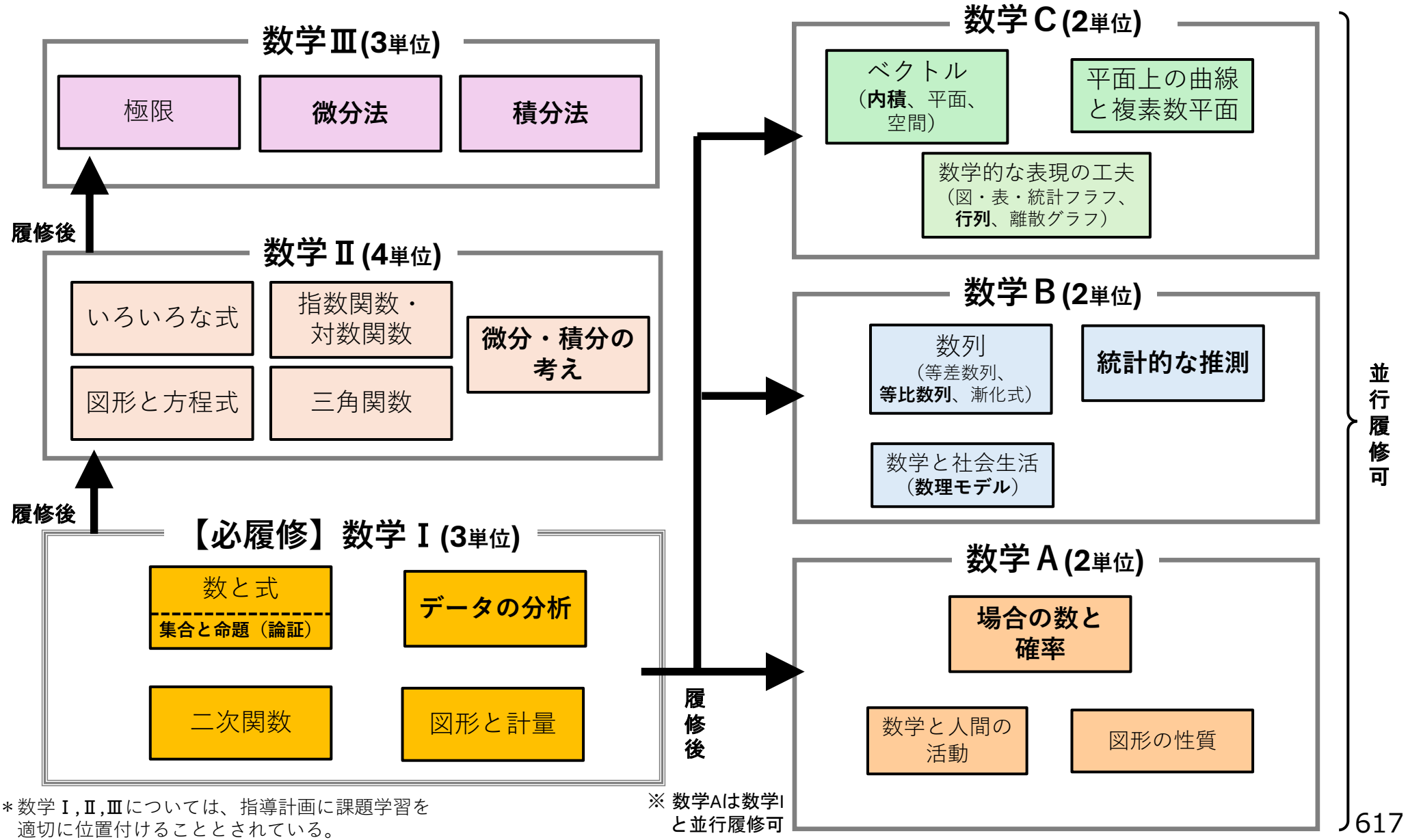
数学的活動(算数・数学における問題発見・解決の過程)のイメージ

学びに向かう力、人間性等

○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとする態度を養う。
○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。
○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

【参考】高等学校数学科の科目構成（現行）



＊数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲについては、指導計画に課題学習を適切に位置付けることとされている。

※ 数学Aは数学Iと並行履修可

【参考】高等学校数学科　数学A,B,Cの内容（現行）

科目	項目	内容	目安単位数（現行）
数学A 履修率87%	図形の性質	三角形、円の性質	1/2
		作図	1/6
		空間図形	1/3
	場合の数と確率	場合の数	1/2
		確率	1/2
	数学と人間の活動	数量や図形と人間の活動	2/3
		遊びの中の数学	1/3
数学B 履修率45%	数列	等差数列と等比数列	1/3
		いろいろな数列と漸化式	1/2
		数学的帰納法	1/6
	統計的な推測	確率変数と確率分布	1/3
		二項分布と正規分布、母集団と標本	1/3
		統計的な推測の考え	1/3
	数学と社会生活	数理的な問題解決	1
数学C 履修率34%	数学的な表現の工夫	図，表，統計グラフ	1/3
		離散グラフ，行列	2/3
	ベクトル	ベクトルとその演算、内積	1/2
		空間座標，空間におけるベクトル	1/2
	平面上の曲線と複素数平面	平面上の曲線	1/2
		複素数平面	1/2

【参考】高等学校・数学科の主な履修パターン（現行）

	コース	履修科目	総単位数
①	**理系・大学志望者コース**	数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、数C、数Ⅲ	16
②	文系・国公立大学志望者コース	数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、数C	13
③		数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、数C（ベクトルのみ）	12
④	文系・私立大学志望者コース	数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、数C（ベクトルのみ）	12
⑤		数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B	11
⑥		数Ⅰ、数A、数Ⅱ	9
⑦		数Ⅰ、数A	5
⑧	職業系専門学科	数Ⅰ、数A	5
⑨	大学進学を希望しない	数Ⅰ、数A	5
⑩		数Ⅰ	3

（注）高等学校・数学科の内容　数Ⅰ[3単位] … 数と式、図形と計量、二次関数、データの分析 ← 数Ⅰのみ必履修科目
数Ⅱ[4単位] … いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え
数Ⅲ[3単位] … 極限、微分法、積分法
数A [2単位] … 図形の性質、場合の数と確率、数学と人間の活動
数B[2単位] … 数列、統計的な推測、数学と社会生活
数C[2単位] … ベクトル、平面状の曲線と複素数平面、数学的な表現の工夫

高等学校・数学Ⅰ 「社会を読み解く数学」で扱う内容のイメージ（たたき台）

※具体的内容については別途専門的に検討

1．数理モデル

- 事象の特徴を捉え、数学的に表現
- 目的を明確にし、単純化・理想化

(例)細菌の増殖

SNS上で、真夏にペットボトルを直に口で飲んでいると食中毒になる危険性があるとの情報があった。20分程度で2個に分裂する細菌が1000個あったときに、t時間後の細菌の数$N(t)$とすると

$$N(t) = 1000 \times 8^t$$

と表せる。

2．数列と漸化式（等比数列等）

- 指数的な現象の特徴の理解
- 金融における単利・複利、ローン金利

(例)単利と複利

100万円を年利5%の単利と複利で20年間運用した場合、それぞれいくらになるのか。

単利：$a_n = a_{n-1} + 1000000 \times 0.05$, $a_n = 1000000 + 50000n$

複利：$b_n = b_{n-1} \times (1 + 0.05)$, $b_n = 1000000 \times 1.05^n$

と表せ、20年間運用するとそれぞれ

単利：2,000,000円； 複利：2,653,297円

3．数学的表現としてのベクトル

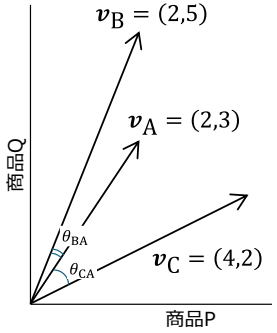
- AI・データサイエンスで使われているベクトルの基礎を理解する

(例)案内する商品の選択

商品P,Qに関する好みの評価点

	商品P	商品Q
A氏	2	3
B氏	2	5
C氏	4	2

※5点満点



A氏の好みに近いのは、B氏、C氏のどちらか？

$$\frac{(\vec{v}_A, \vec{v}_B)}{\|\vec{v}_A\| \cdot \|\vec{v}_B\|} > \frac{(\vec{v}_A, \vec{v}_C)}{\|\vec{v}_A\| \cdot \|\vec{v}_C\|}$$

$$\downarrow$$

$$\cos\theta_{BA} > \cos\theta_{CA}$$

$$\downarrow$$

$$\theta_{BA} < \theta_{CA}$$

$$\downarrow$$

B氏

B氏の好みに基づいてA氏に商品を案内

4．確率と期待値

- 確率に基づいて合理的に判断する

(例) ガチャでの購入

キャラ	強さ(pt)	本数(本)
S（レア）	80	5
A（レア）	60	10
B	40	30
C	20	55

※ 本数は100本あたり

ゲーム用のキャラクターをガチャで購入するか、購入しないかを考える。

1回のガチャで得られる強さの期待値は、

$$\frac{80 \times 5 + 60 \times 10 + 40 \times 30 + 20 \times 55}{100}$$

$$= 80 \times \frac{5}{100} + 60 \times \frac{10}{100} + 40 \times \frac{30}{100} + 20 \times \frac{55}{100}$$

$$= 33(\text{pt})$$

期待値を踏まえて他のガチャと比較したり費用の妥当性について考察したりする

高等学校・新科目 「行列」に含まれる内容のイメージ（たたき台）

※具体的内容については別途専門的に検討

1．表現

- 複数の量やデータをまとめて表現する
- 離散グラフの行列表現

(例)各支店の受注数データ

	支店A	支店B	支店C
商品1	3	10	0
商品2	7	23	15
商品3	30	4	9
商品4	2	6	27

行列で表現

$$\begin{pmatrix} 3 & 10 & 0 \\ 7 & 23 & 15 \\ 30 & 4 & 9 \\ 2 & 6 & 27 \end{pmatrix}$$

2．計算

- 行列の加減、定数倍、
- ベクトルの内積、積、逆行列、単位行列

(例)行列の計算の例

・行列の加法

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} b_{11} & b_{12} & b_{13} \\ b_{21} & b_{22} & b_{23} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11}+b_{11} & a_{12}+b_{12} & a_{13}+b_{13} \\ a_{21}+b_{21} & a_{22}+b_{22} & a_{23}+b_{23} \end{pmatrix}$$

・行列の乗法

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \\ b_{31} & b_{32} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11}b_{11}+a_{12}b_{21}+a_{13}b_{31} & a_{11}b_{12}+a_{12}b_{22}+a_{13}b_{32} \\ a_{21}b_{11}+a_{22}b_{21}+a_{23}b_{31} & a_{21}b_{12}+a_{22}b_{22}+a_{23}b_{32} \end{pmatrix}$$

3．変換(線形写像)

- データの変換(線形写像)
- 状態推移やネットワークの更新

(例)自転車シェアリング(サイクルポート)

ポートAで借りられた自転車のうち
▷ 30%がAで返される
▷ 70%がBで返される
ポートBで借りられた自転車のうち
▷ 40%がAで返される
▷ 60%がBで返される
この割合が続くとすると、ポートAとポートBにおける台数はどのように変化していく？

n日目のポートAの台数をa_n、ポートBの台数をb_nとすると、

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= 0.3a_n + 0.4b_n \\ b_{n+1} &= 0.7a_n + 0.6b_n \end{aligned}$$

$$\Rightarrow \begin{pmatrix} a_{n+1} \\ b_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0.3 & 0.4 \\ 0.7 & 0.6 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix}$$

$\begin{pmatrix} 0.3 & 0.4 \\ 0.7 & 0.6 \end{pmatrix}^n$を計算していくと台数が固定化されていくのがわかる

4．応用

- n元連立一次方程式の行列表現と解の求め方

(例)4元連立一次方程式

$$\begin{cases} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + a_{13}x_3 + a_{14}x_4 = b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + a_{23}x_3 + a_{24}x_4 = b_2 \\ a_{31}x_1 + a_{32}x_2 + a_{33}x_3 + a_{34}x_4 = b_3 \\ a_{41}x_1 + a_{42}x_2 + a_{43}x_3 + a_{44}x_4 = b_4 \end{cases}$$

行列で表現

$$\Rightarrow \underbrace{\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} & a_{14} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} & a_{24} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} & a_{34} \\ a_{41} & a_{42} & a_{43} & a_{44} \end{pmatrix}}_{\downarrow\ \mathrm{A}} \underbrace{\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}}_{\downarrow\ \boldsymbol{x}} = \underbrace{\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \\ b_4 \end{pmatrix}}_{\downarrow\ \boldsymbol{b}}$$

例えば家の広さ(x_1)、築年数(x_2)、駅からの徒歩時間(x_3)から家賃yを予測・設定するための線形回帰の式を求められる

$$\mathrm{A}\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b} \rightarrow （解）\ \boldsymbol{x} = \mathrm{A}^{-1}\boldsymbol{b}$$

「分野」と「区分」（学校種ごと）

	分野	数と式		図形		変化と関係		データと確からしさ	
小学校 中学校 高等学校 数学Ⅰ	区分	数・量	式	図形の性質	図形の計量	割合と比	関数	場合の数と確率	統計

	分野	数と式		図形	変化と関係		
高等学校 数学Ⅱ	区分	式		図形と方程式	指数関数・対数関数	三角関数	微分法・積分法

	分野		変化と関係		
高等学校 数学Ⅲ	区分		極限	微分法	積分法

	分野	数と式		図形		変化と関係	データと確からしさ	
高等学校 新科目	区分	行列		幾何ベクトル		数列	場合の数と確率	統計
		面	数平 複素数と複素					

分野	論証	社会を読み解く数学
区分	論証	社会を読み解く数学

理科の目標の整理について

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
小学校	自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，問題解決の力を養う。	自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。
中学校	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
高等学校	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

小・中・高等学校	自然の事物・現象を科学的に探究する資質・能力について、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

新たな「見方・考え方」について

- **教科としての一貫性**に鑑み、引き続き、**小・中・高等学校で、文言の統一**を図る。
- その際、**見方・考え方を働かせる対象**について、現行では「（身近な）自然の事物・現象」に限定されているが、新たな「見方・考え方」が「学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野」に入れることとされていることを踏まえ、**より社会との接続を意識した規定ぶり**とする。
- また、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化するという改訂全体の方向性に基づき、社会における**クリティカル・シンキング（批判的思考）やメディアリテラシー**の重要性の高まりを踏まえる。

（現行）

【小学校】
身近な自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの問題解決の方法を用いて考えること

【中学校・高等学校】
自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

（改訂案）

【小・中・高等学校】
自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察、実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 小・中・高等学校の学びの系統性・一貫性・連続性を確保するため、学習内容を学校種共通で「物理」「化学」「生物」「地学」の４分野で整理。
各分野については、その分野を見通す共通的な着眼点を基に、更に３区分に分類して区分毎に「統合的な理解・総合的な発揮」を設定し、教師が実際の単元構想に活用しやすい抽象度となるように工夫。

② 「統合的な理解」は、個別の学習内容が分離した学びとならないよう、教師が単元・授業を構想する際、「最終的にどのような大きな理解を核に個別の知識・技能を結びつけていけばよいのか」をイメージできるように示す。自然科学のよさや魅力を感じられ、児童生徒が理科を好きになるような授業を促すため、高等学校を含め可能な限り平易かつシンプルな示し方となるよう工夫。
これにより、用語の理解や暗記・計算に偏るのでなく、科学的な探究により導かれる自然科学の一般原理・法則や、その魅力を理解できるような授業づくりを促す。

③ 「総合的な発揮」は、いずれの分野でも共通して、知識及び技能の統合的な理解を基に「科学的に探究する」ことができるようになることを示し、小・中・高等学校の各学校段階を通して繰り返し育成することを促す。また、学習場面や日常生活・社会で見られる事象から、「特徴を見いだして表現する」ことをいずれの区分でも共通で示し、自然事象から再現可能な原理を見いだすという自然科学の本質的な思考方法を日々の授業の中で児童生徒が実践するような授業づくりを促す。

	（分野） 生物分野					
	生物の構造と機能		（区分） 生命の連続性		生物と環境の関わり	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生物には基本的な体のつくりと・・・	観察、実験などを通して、・・・	植物と動物の成長の過程を通して、**生命の連続性があることを理解**する。	**観察、実験など**を通して、生物や生物現象の**特徴を見いだして表現する**ことができる。	生物と環境の間には・・・	観察、実験などを通して、・・・
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	・ ・・・	・・・	・ 身の回りの・・・	観察、実験や資料に・・・	・ ・・・	・・・
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	・生物は多様であるが、・・・	科学的に探究する学習活動を通して、・・・	生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には**特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解**する。	**科学的に探究する学習活動**を通して、生物や生物現象の**特徴を見いだして表現する**ことができる。	・自然界には、・・・	科学的に探究する学習活動を通して、・・・
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	・ ・・・	・・・	・ 生物の観察と・・・	観察、実験や資料に・・・	・ ・・・	・・・
高等学校・生物基礎	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	・生物は多様でありながら、・・・	科学的に探究する学習活動を通して、・・・	生物は多様でありながら、**「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解**する。	**科学的に探究する学習活動**を通して、生物や生物現象の**特徴を見いだして表現する**ことができる。	・生態系における、生物の多様性及び・・・	科学的に探究する学習活動を通して、・・・
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	・ ・・・	・・・	・ 生物の特徴 ・ ・・・	観察、実験や資料に・・・	・ ・・・	・・・

統合的な理解・総合的な発揮

		作用と変化		空間における伝搬		保存とエネルギー変換	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		力が働くと物体の状態が変化すること、電流が磁力をつくることを理解する。	観察、実験などを通して、力、電気、光、音が関係する現象の特徴を見いだして表現することができる。	光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。	観察、実験などを通して、力、電気、光、音が関係する現象の特徴を見いだして表現することができる。	電流の流れ方には特徴があること、エネルギーは変換できることを理解する。	観察、実験などを通して、力、電気、光、音が関係する現象の特徴を見いだして表現することができる。
中学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 力は物体の運動状態を変化させることを理解する。 • 電流と磁界には関係があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	光と音の伝わり方には規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 電気回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を理解する。 • エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
高等学校	物理基礎	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		物体に作用する力と物体の運動状態との間には規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	波は振動の伝搬であることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	• エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
	物理	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 力学的な力と電磁気学的な力には共通性があることを理解する。 • 電荷と電界や磁界との間には、規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 波で生じる現象を理解する。 • 電子や光は波と粒子の二重性をもつことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 運動量やエネルギーの保存について理解する。 • 直流回路と交流回路の特徴を理解する。 • 質量とエネルギーには等価性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		物質の構成		物質の性質		物質の化学変化	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		物質が粒子で構成されていることを理解する。	観察、実験などを通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	物質の性質には共通点や相違点があることを理解する。	観察、実験などを通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応によって物質が変化することを理解する。	観察、実験などを通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
中学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		物質を、原子・分子、イオンと関連付けて理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	物質の性質は、原子や分子の状態によって変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応においては、反応の前後で原子の数が保存されること、反応には熱が関係していることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
高等学校	化学基礎	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 原子の性質は、原子核を構成する陽子と中性子、電子配置により特徴付けられることを理解する。 • 物質の量を原子や分子などの個数として捉えることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	• 物質の性質は、元素の組成や構成原子の電子の状態により特徴付けられることを理解する。 • 物質の状態は、構成する原子や分子の熱運動と関係があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	• 化学反応は、物質量（原子や分子の数）で捉える必要があること理解する。 • 化学反応は、物質間の電子の授受が関係していることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
	化学	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		元素は、電子配置の特徴によって整理できることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	• 物質の状態とその変化は、分子間力や化学結合、状態間の平衡と関係があることを理解する。 • 無機物質や有機化合物の性質を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	• 物質の化学反応は、エネルギーや化学平衡と関係があることを理解する。 • 無機物質や有機化合物における反応の特徴を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		生物の構造と機能		生命の連続性		生物と環境の関わり	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		生物には基本的な体のつくりと働きがあることを理解する。	観察、実験などを通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	植物と動物の成長の過程を通して、生命の連続性があることを理解する。	観察、実験などを通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物と環境の間には関係性があることを理解する。	観察、実験などを通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
中学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 生物は多様であるが、共通点をもっていることを理解する。 • 生物の体のつくりと働きには特徴や関係性があり、これらのつくりと働きによって生命活動が成り立っていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 自然界には、生物どうしの関係性や生物と環境との間に関係性があることを理解する。 • 自然界のつり合いが重要であることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
高等学校	生物基礎	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 生物は多様でありながら、「細胞が基本的な単位である」、「エネルギーを利用する」という共通性をもっていることを理解する。 • ヒトの体は、神経系と内分泌系による調節や免疫の働きなどによって調節され、生命活動が成り立っていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物は多様でありながら、「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を理解する。 • 生態系の保全の重要性について理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
	生物	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 細胞内で生じる様々な化学反応によって生命活動が成り立っていることを理解する。 • 生物は環境変化に対して反応したり、行動したりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 生物の進化は蓄積された遺伝子の変化の結果であることを理解する。 • 遺伝子の情報が発現することによって細胞や生物が特有の性質をもっていることを理解する。 • 発生は遺伝子発現が関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	• 生態系における個体群内の関係性と個体群間の関係性を理解する。 • 生態系における物質生産と物質循環を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		地球の内部と地表面の変動		地球の大気と水の循環		地球と天体の運動	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する。	観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	天気が時間とともに変化することを理解する。	観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	太陽や月などの天体があり、それらが見える位置は時間とともに移動することを理解する。	観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
中学校		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 地層から、過去の様子を知ることができることを理解する。 • 地球内部の活動に起因する地震や火山活動などが、日本列島に影響を与えていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	• 霧や雲の発生などの天気の変化が起きる理由を理解する。 • 日本列島の気象は、周囲の海洋の影響を受けていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	太陽系には地球を含む様々な天体があること、太陽系の天体の動きを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
高等学校	地学基礎	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• プレートの運動によって、地震や火山活動が生じていることを理解する。 • 古生物の活動と地球環境は相互に影響を及ぼしていたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	地球における様々なエネルギーの出入りや移動について、全体としてエネルギーの収支はつりあっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	• 宇宙、太陽系、地球の誕生について理解する。 • 地球には生命が生まれる条件が備わっていたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
	地学	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		• 地球の形状や内部構造は、重力や地震波などによって推測できることを理解する。 • 地球の歴史を通して、地球内部の活動によって、地表が大きく変化してきたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	• 大気や海洋は層構造をしていることを理解する。 • 日本や世界の気象は、地形に加え、大気と海洋の大循環や大規模な現象によって影響を受けていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	地球上での視運動から天体運動の規則性を見いだすことができることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

		全分野	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
高等学校	科学と人間生活	統合的な理解	総合的な発揮
		科学の発展が今日の人間生活にどのように貢献してきたかを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学と人間生活の関係を見いだして表現することができる。

		物理分野		化学分野		生物分野		地学分野	
		知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
高等学校	科学と人間生活	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		光や熱の性質が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	材料や衣料と食品が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	ヒトの生命現象や微生物の特徴が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	太陽と地球や、自然景観と自然災害が人間生活が関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

統合的な理解・総合的な発揮

	科学ガイダンス（仮称）	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
中学校	統合的な理解	総合的な発揮
	理科で学ぶことが日常生活や社会とつながっていること、科学的に探究するために前提となる条件や手続きがあることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、自然の事物・現象における規則性や関係性、特徴を見いだして表現することができる。
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮
	理科で学ぶことが社会や研究とつながっていること、科学的な探究には、課題を科学的に解決するための手法や進め方、守るべき倫理があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、自然の事物・現象における規則性や関係性、特徴を見いだして表現することができる。

※本表は現時点でのイメージ。「統合的な理解」「総合的な発揮」は区分ごとに定めるが、内容項目は分野・区分横断的なものも存在。

探究の過程における用語の統一について（案）

※実際の指導場面において、児童生徒の発達段階や探究の深度等に応じて例えば「課題」を「問い」や「問題」、「仮説」を「予想」などと表現することは何ら妨げられない。また、小学校の学習過程の難化を招くものではない。これらについては学校現場への丁寧な周知が必要。

※用語の統一が教育実践としての問題解決学習を否定するものではないことに留意。

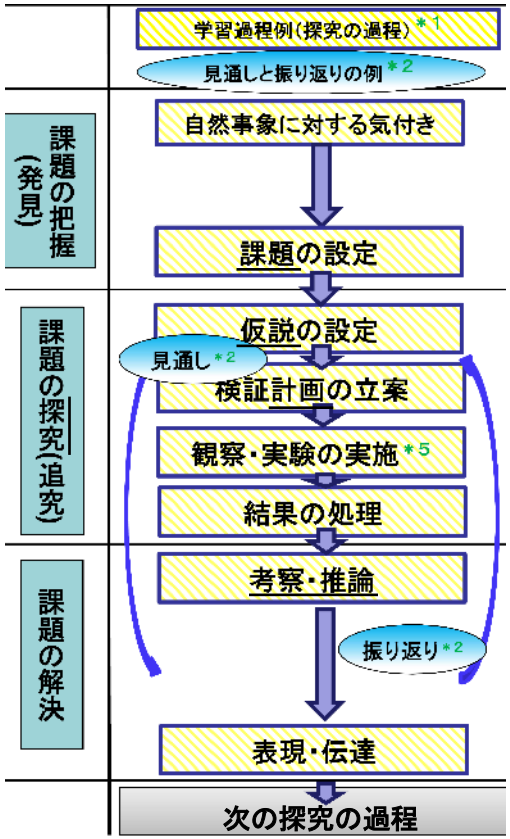
小学校の学習過程例（問題解決の過程）

小学校理科の観察，実験の手引き（H23）

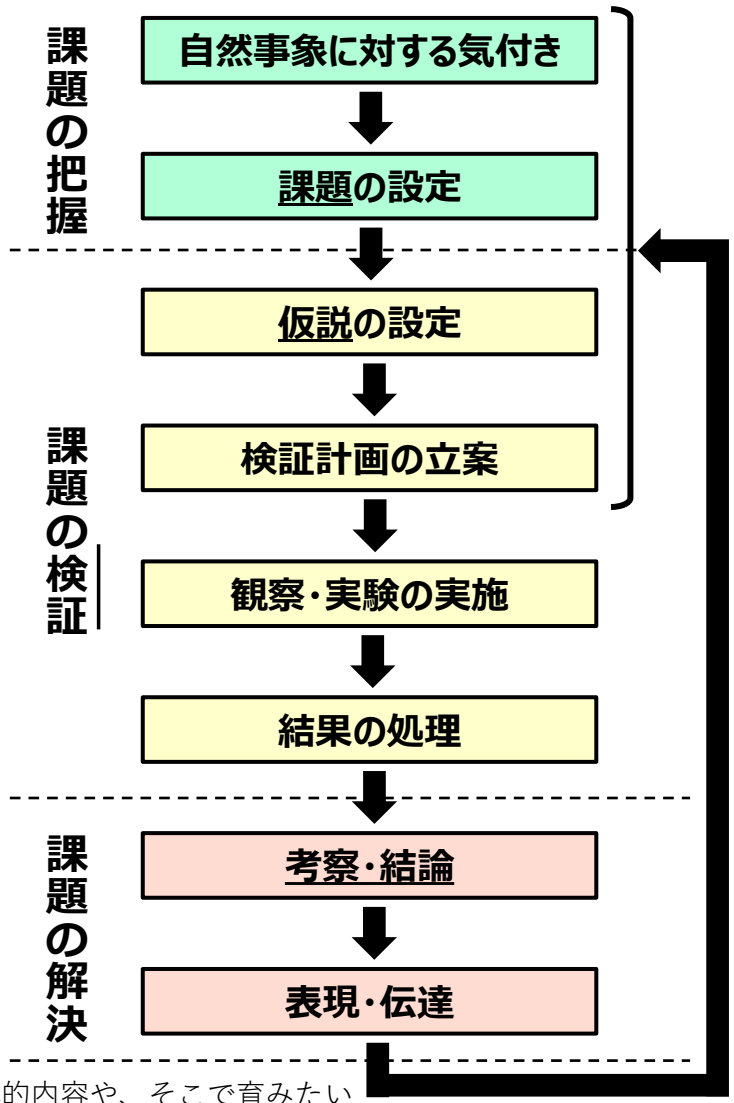
- 自然事象への気付き
- 問題の設定
- 予想や仮説の設定
- 検証計画の立案
- 観察、実験
- 結果の処理
- 考察
- 結論の導出

中学校・高校の学習過程例（探究の過程）

学習指導要領(H29/30告示)解説



科学的な探究の過程（例）



※下線は変更箇所

※それぞれの過程の具体的内容や、そこで育みたい力については、小・中・高の解説で詳説

構造化・表形式化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ（小学校・理科）



今日は、５年生の地学分野「流れる水の働きと土地の変化」の６時間目の授業だな。単元の指導と評価は構想したけど、「統合的な理解・総合的な発揮」を意識して主体的・対話的で深い学びを実現するには、６時間目の学習ではどのように授業づくりすればよいのかな？

単元：流れる水の働きと土地の変化（第５学年）

統合的な理解・総合的な発揮

区分	地球の内部と地表面の変動	
統合的な理解・総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。

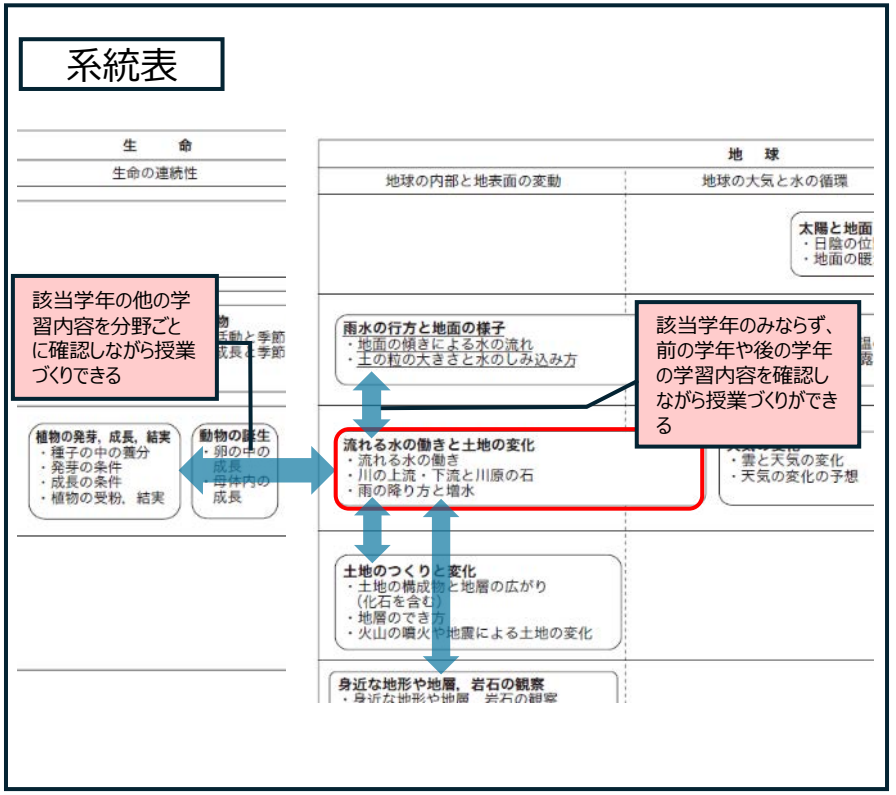
指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●流れる水の働き ・課題の設定 ・仮説の設定 ・検証計画の立案	知 思		※既習の「雨水の行方と地面の様子」について想起できるようにし、流れる水の働きについて学習していくことを確認する。
	＜省略＞			
6	●雨の降り方と増水 ・課題の設定 ・仮説の設定、検証計画の立案	思	○	※観点別学習評価は、 ・実験結果を適切に記録しているか。 を記録分析で評価する。 ・仮説を基に、検証計画を立案しているか を記述分析で評価する。
7	・観察、実験の実施 ・結果の処理 ・考察、結論の導出 ・探究の振り返り	知	○	
8	●学習の振り返り ・ ・探究の過程 ●評価課題	知 思	○ ○	※統合的な理解・総合的な発揮を踏まえた評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。 ※観点別学習評価は、 ・この単元で習得した知識について理解しているか ・前時までに学習したことを評価課題の解決に生かそうとしているか を記述分析で評価する



初めに、「統合的な理解」と「総合的な発揮」について考えるために、「系統表」から学習内容のつながりを確認しよう。

デジタル学習指導要領の「系統表」（イメージ）





「系統表」の「流れる水の働きと土地の変化」から、縦に学習内容を確認すると、知識及び技能の「統合的な理解」を意識した授業づくりができるな。
また、横に確認すると、思考力、判断力、表現力等の「総合的な発揮」を意識した授業づくりができるよ。



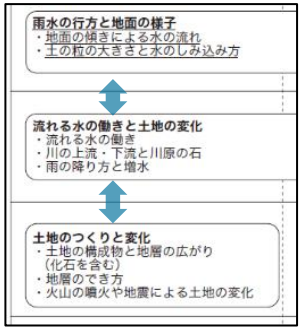
「統合的な理解・総合的な発揮」に照らすと、この単元の学習を通して、
「統合的な理解」：流水の働きによって、地表が変化することの理解
「総合的な発揮」：科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現すること
に到達できるようにする必要があるから、６時間目の学習活動は・・・



○自然の事物・現象との関わりと課題を見いだす場面

初めに、4年「雨水の行方と地面の様子」で、雨水の流れ方や地面の様子を学習しているので、雨水で地面の様子がどのように変わったのかを再度確認できるようにしよう。

その上で、学校の近くの川が増水したときの様子の写真から、水の量が増えたときの流れる水の働きについての課題を設定することができるようにすればよいね。



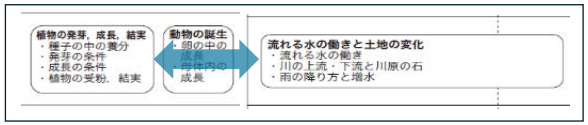
○仮説を設定する場面

「雨水の行方と地面の様子」を既習の内容として、関係付けて考えられるようにするとともに、生活経験として川の様子で気付いていることも意見として共有できるようにしよう。

○検証計画を立案する場面

2時間目の流れる水の働きについて調べたときの検証計画が活かせるな。

また、水の量を増やすので、条件制御については、既習の内容の「植物の発芽、成長、結実」の実験を想起できるようにしよう。



○次の時間に向けて

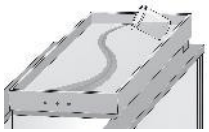
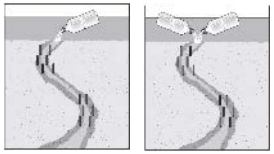
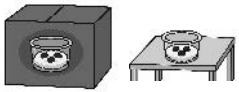
7時間目には、実験を実施するので、仮説から児童が結果を見通すことができるようにしよう。



このように、構造化・表形式化した学習指導要領を授業づくりに活かすことができるのだな。

本時【６時間目】の展開例

本時の目標　流れる水の働きについて、仮説を基に、検証計画を立案し、表現することができる。

時間	学習活動	備考
6	【自然の事物・現象との関わりの場面】 ○「普段の様子の川」と「水の量が増した川」の写真を２つ並べて掲示し、気付いたことを話し合う  普段の様子の川  水の量が増した川	4年「雨水の行方と地面の様子」から、雨の量が増えたときの運動場の様子についても想起できるようにする  雨の量が増えたときの運動場の様子
	【課題を見いだす場面】 ○気付いたことから課題を見いだし、表現する 課題　水の量が増えたときに、流れる水の働きはどのように変わるのだろうか	本単元1時間目の課題「流れる水にはどのような働きがあるのだろうか」を想起できるようにする。
	【仮説を設定する場面】 ○課題に対する仮説を設定し、表現する	本単元１時間目の仮説、3時間目の結論から、「浸食」「運搬」「堆積」といった流れる水の働きで仮説を設定できるようにする。 また、４年「雨水の行方と地面の様子」を既習の内容として確認する。
	【検証計画を立案する場面】 ○仮説を基に、検証計画を立案し、表現する  既習の実験の方法  本時の実験の方法	本単元２時間目の検証計画を活かすことができることや、条件を制御して実験を行った「植物の発芽、成長、結実」の実験を想起できるようにして、条件制御について確認する。
	【本時を振り返る場面】 ○検証計画を立案し、表現できたかどうかを振り返る	 発芽に日光が必要かどうかを確かめた実験の様子

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【小学校・理科】

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

第５学年相当　　単元名：流れる水の働きと土地の変化

（統合的な理解）　※直接の評価対象ではないことに留意
・流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する

（単元目標・評価規準）知識及び技能
①流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることを理している。
②川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。
③雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。
④流れる水について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。

（総合的な発揮）　※直接の評価対象ではないことに留意
・観察や実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
①流れる水の働きと土地の変化について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。
②流れる水の働きと土地の変化について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり	
9	●評価課題 ●学習の振り返り	流れる水の働きによって土地が変化することを理解している。①②③	本単元で学んだことを再整理し表現するとともに、評価課題に取り組んでいる。①②
8 7	●雨の降り方と増水 ・観察・実験の実施 ・結果の処理 ・考察・結論の導出	雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。③	増水による土地の変化の様子について、得られた結果を基に考察し表現している。②
6	●雨の降り方と増水 ・課題の設定 ・仮説の設定 ・検証計画の立案		増水による土地の変化の様子について、問題を見いだし、第5学年「植物の発芽、成長、結実」で条件を制御しながら解決の方法を発想したことを参考に、予想や仮説を基に解決の方法を発想し表現している。①
	●川の上流と下流 ・観察・実験の実施 ・結果の処理 ・考察・結論の導出	川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形には違いがあることを理解している。②	川の様子の違いについて、得られた結果を基に考察し表現している。②
5 4	●川の上流と下流 ・課題の設定 ・仮説の設定 ・検証計画の立案		川の様子の違いについて、問題を見いだし、流れる水の働きと関係付けて、川の上流と下流の石の大きさや形の違いについて予想や仮説を発想して表現している。①
3	●流れる水の働き ・観察・実験の実施 ・結果の処理 ・考察・結論の導出	流れる水には、土地を浸食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きあることを理解している。①	流れる水の働きについて、得られた結果を基に考察して表現している。②
2 1	●流れる水の働き ・課題の設定 ・仮説の設定 ・検証計画の立案		流れる水の働きについて問題を見いだし、第４学年「天気の様子」で生活経験を関係付けて予想や仮説を発想したことを参考に、根拠のある予想や仮説を発想している。①

流れる水の速さや量に着目し、流れる水の働きと土地の変化を調べる

※時間割は単元構想時に想定するが、実際には、単元目標の達成に向けて、観察、実験等を含む学習内容の進捗状況や生徒の理解等を踏まえて柔軟に再構成することが必要。

本単元に関連の強い既習内容：第４学年「雨水の行方と地面の様子」、第４学年「天気の様子」、第5学年「植物の発芽、成長、結実」

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）　【検討中参考イメージ】
自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
・自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている。
・探究の過程を通して、多様な他者と対話・協働しようとしている。
・主体的に粘り強く試行錯誤しながら探究の過程を進めようとしている。

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元構想の参考イメージ（中学校・理科）



次は3年生の生物分野「遺伝の規則性と遺伝子」か。教科書をなぞるだけでは、子供たちも学習内容を深く理解できないだろうし、資質・能力も身につきにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

目標

見方・考え方

（統合的な理解）

生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。

（総合的な発揮）

科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして 表現することができる。

知・技

思・判・表



なるほど、生徒が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。科学的な探究の活動を通じて、遺伝の規則性や生命の連続性を理解できるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き２ページを毎コマ積み重ねるだけでは「科学的な探究」の活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか．．．



「遺伝の仕組み」と「遺伝のモデル実験」の学習内容に重点を置き、それぞれ２時間を充てよう。規則性・生命の連続性に関しての学びの本質がつかみやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

科学的に探究する時間を確保したいし、「遺伝の仕組み」では、科学史としての「メンデルの交配実験」の扱いは軽くしよう。

特に、遺伝の仕組みの本質的な理解を促すために、４、５時に、「遺伝のモデル実験」を設定しよう。
第４時の実験では、「各自の実験結果の考察」を重点として、
第５時の実験では、「実験値と理論値を比較して考える新たな実験計画の立案」を重点として、実施しよう。

ここまでで「遺伝の仕組み」が理解できるので、最後に、遺伝を担うものを理解するために、「遺伝子の本体」について、１時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で７時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身に付けさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



最初に、この単元で身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる評価課題を考えて、それぞれの授業では．．．

知・技は、規則性・生命の連続性に関しての本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだな。今回は、実験記録の記述分析で見取ってみようか。

思・判・表は、科学的な探究の過程で身に付けた資質・能力を見取って、評価しよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

教師による単元構想のイメージ例

１．単元名：遺伝の規則性と遺伝子

２．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察、実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

学習指導要領の記述

３．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

統合的な理解	総合的な発揮
生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

４．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている

- 自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている
- 探究の過程を通して、多様な他者と対話・協働しようとしている
- 主体的に粘り強く試行錯誤しながら探究の過程を進めようとしている

５．単元の目標・評価規準

身に付け付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、・・・	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、・・・

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

６．評価課題

「２色のトウモロコシの種子の色の遺伝」について、その仕組みを説明しなさい。

７．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●単元のガイダンス ●既習事項や既有の知識のイメージマップでの整理	知		※ガイダンスでは、 ・学習の流れと学習方法 ・前後の学習内容とのつながり を指導する。 ※イメージマップでの整理は、7時間目の学習の振り返りのために行う。
2 3	●遺伝の仕組み ・メンデルの交配実験 ・有性生殖と顕性の法則 ・減数分裂と分離の法則	知		※遺伝の法則については、生命現象と関連付けて理解させる。
4 5	●遺伝のモデル実験 ・実験操作の意味 ・実験結果の考察	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・操作の意味を理解しているか ・実験結果と理論値を比較して結果の妥当性や改善方法を考察しているか を記述分析で評価する。
6	●遺伝子の本体 ・染色体、DNA、遺伝子の関係	知		
7	●学習の振り返り ・学習内容のイメージマップでの再整理 ●評価課題	思 知 思	 ○ ○	 ※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。



このように、学習指導要領を基にして構想することができるんだね。

※本資料は、教師が「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元構想を行う際の思考プロセスを明確にするために作成しているイメージであり、各教師に常に「指導と評価の計画」を資料として作成することを求める趣旨ではないことに留意。計画については生徒の実態に応じ単元の途中でも柔軟に見直しながら実施していくことが重要。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【中学校・理科】

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

第３学年相当　単元名：遺伝の規則性と遺伝子

（統合的な理解） ※直接の評価対象ではないことに留意
・生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。

（総合的な発揮） ※直接の評価対象ではないことに留意
・科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する記録などの基本的な技能を身に付けている。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
生命の連続性に着目し、観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、課題や仮説を設定したり、検証計画を立案したり、観察、実験の結果から特徴や規則性を考察して表現したりしている。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり	
7	●評価課題（単元終わり） ●学習の振り返り ・学習内容のイメージマップでの再整理	遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。	本単元で学んだ知識をイメージマップで再整理するとともに、評価課題に取り組む。
6	●遺伝子の本体 ・染色体、DNA、遺伝子の関係	「遺伝子の本体」について理解する。 ・染色体、DNA、遺伝子の関係を理解する。	染色体、DNA、遺伝子の関係を考察する。
5 4	●遺伝のモデル実験 ・実験操作の意味 ・実験結果の考察	「遺伝の仕組み」についてより深く理解する。 ・モデル実験の操作が示す意味を理解する。 ・モデル実験を通して、遺伝の法則を理解する。	「遺伝の仕組み」についてモデル実験を通して、結果から考察し表現する。 ・モデル実験の方法の妥当性や、試行回数と得られる結果の関係を考察する。
3 2	●遺伝の仕組み ・メンデルの交配実験 ・有性生殖と顕性の法則 ・減数分裂と分離の法則	「遺伝の仕組み」について理解する。 ・メンデルの交配実験の方法を知る。 ・有性生殖と関連付けて顕性の法則を理解する。 ・減数分裂と関連付けて分離の法則を理解する。	「遺伝の仕組み」について考察し表現する。 ・遺伝子を記号（A、aなど）で表し、遺伝の仕組みを表現する。 ・顕性の法則を基に、孫の代の結果（分離の法則）を推測する。
1	●既習事項や既有の知識のイメージマップでの整理 ●単元のガイダンス（単元始め）	前単元「生物の成長と殖え方」で学んだ内容（有性生殖と無性生殖の特徴を理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わること）について再確認する。 本単元「遺伝の規則性と遺伝子」でどのような内容を学ぶのかを理解する。	前単元の既習事項や「遺伝」についての既有の知識をイメージマップで整理する。

※時間割は単元構想時に想定するが、実際には、単元目標の達成に向けて、観察、実験等を含む学習内容の進捗状況や生徒の理解等を踏まえて柔軟に再構成することが必要。

本単元に関連の強い既習内容：（第３学年）生物の成長と殖え方

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿 」） 【検討中参考イメージ】
自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
・自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている。
・探究の過程を通して、多様な他者と対話・協働しようとしている。
・主体的に粘り強く試行錯誤しながら探究の過程を進めようとしている。 ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

構造化した学習指導要領を活かした授業づくりの参考イメージ（高等学校・科学と人間生活）



今年から「科学と人間生活」を担当することになったけど、どのような授業を展開したらいいのかな？教科書を開いてみると、第1章は「科学の発展」だけど、この単元はどのように授業展開をすればいいかな？
まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

科目の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との・・・	観察、実験などを行い・・	自然の事物・現象に・・

学びに向かう力の「見取る姿」

・自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている。
・探究の過程を通して、多様な他者と対話・協働しようとしている。
・主体的に粘り強く試行錯誤しながら探究の過程を進めようとしている。

内容（１）科学の発展

統合的な理解・総合的な発揮

	統合的な理解	総合的な発揮
統合的な理解・総合的な発揮	科学の発展が今日の人間生活にどのように貢献してきたかを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学と人間生活の関係を見いだして表現することができる。

個別の資質・能力

	知識及び技能（知・技）	思考力・判断力・表現力等（思・判・表）
個別の資質・能力	科学技術の発展が人間生活に貢献してきたことを理解する。	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現すること。

内容の取扱い

身近な科学技術の例を取り上げ、その変遷と人間生活の関わりを扱うこと。



なるほど、この単元では、「身近な科学技術の変遷と人間生活の関係を科学的に探究すること（個別の資質・能力の育成）」を通して、最後は「科学の発展が人間生活に貢献してきたことを見いだして理解すること（統合的な理解・総合的な発揮の育成）」につながることを目指すんだね。



では、個別の資質・能力を育成するために、どのように単元を構想したらいいかな？



まず、１時間目はこの科目の最初の授業だから、この科目に興味・関心をもってもらうために、そして、この科目を学ぶ意義を理解してもらうために、「科目ガイダンス」をしよう。そこで、中学校までの既習事項をデジタル学習指導要領で対比して確認しよう。

科学と人間生活

高次	統合的な理解	総合的な発揮
	科学の発展…	科学的に探究…

	知・技	思・判・表
個別	**・科学の発展**	観察、実験や資料に基づいて…

中学校理科

高次	統合的な理解	総合的な発揮
		科学的に探究…

	知・技	思・判・表
個別	**・自然環境の保全と科学技術の利用**	観察、実験や資料に基づいて…



中学校では、理科の学習の総まとめとして「自然環境の保全と科学技術の利用」について学んでいるんだね。



では、「科目ガイダンス」をどのように展開しようかな？
「教科書を教える授業」はしたくないなあ…

生徒が中学校の既習内容を想起しながら、興味や関心をもって取り組むことができる教材があるといいんだけどなあ・・・
例えば、生徒の視覚に訴えることができる動画教材はないかな？
デジタル学習指導要領で調べてみよう。

デジタル学習指導要領の上部タブの「関連サイト」で「NHK for School」を選択して、「科学と人間生活」というキーワードで調べたら、授業で使えそうな動画を見つけることができたよ。



【１時間目に活用できる動画教材例】





１時間目はこれらの動画を活用しよう。
ただし、動画は流しっぱなしにしないで、重要な部分は動画を止めて、生徒に問いかけたり、私が解説を付け加えたりしよう。
また、ペアワークやグループワークがしやすいように、ワークシートを作成しよう。

生徒がこの科目を学ぶ意義を理解し、今後の学習意欲を高めるためにも、１時間目は大事な授業になるな。

次に、２時間目以降の授業は、どのように展開すればいいかな？
個別の思・判・表には、「観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して・・・」とあるけど、どのような授業がいいのだろう？
学習指導要領解説の記述を再確認してみよう。

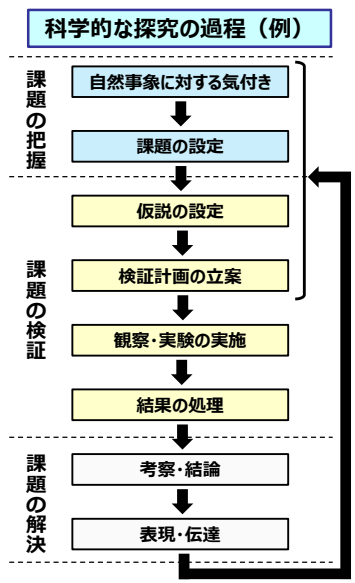
内容（１）科学の発展　の学習指導要領解説（一部抜粋）

思考力・判断力・表現力等を育成するに当たっては、・・・その際、話合い、レポートの作成、発表を適宜行わせることも大切である。（略）
ここで扱う事例としては、情報伝達、交通、防災、医療、エネルギーや資源の有効利用、衣食住環境などが考えられる。その際、・・（中略）・・科学技術が時代とともに進歩して人間生活を豊かで便利にしたことや人間生活に不可欠であることを理解させる。

そうだ。１時間目の科目ガイダンスの学習内容を参考にしながら、生徒一人一人が興味・関心のある科学技術を一つ取り上げて、その変遷（歴史）と人間生活の変化の関係を調べ、レポートにまとめて発表する学習活動（調べ学習）をしよう。

では、この調べ学習の具体的な内容や配当時間はどうしようかな？

特に調べ学習であっても、右に示した理科で重視する「科学的な探究の過程」を踏まえることは重要だな・・・





調べ学習において必要な探究の過程は、前ページの「理科の探究の過程（例）」を参考にすると、「課題の設定」、「情報の収集・整理」、「分析・考察」、「レポート作成・発表」の４つだね。

まずは生徒が調べ学習を実施する前に、私から調べ学習とレポート作成の留意点を説明しよう。２時間目はそのための時間に充てよう。



２時間目に指導しておくべき「調べ学習における留意点」にはどのようなことがあるかな？
学習指導要領にそのヒントはないかな？

【調べ学習における留意点（例）】

理科の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」

（３）各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。

学習指導要領解説

（中略）
なお、情報通信ネットワークを介して得られた情報は適切なものばかりでないことに留意し、情報の収集・検索を行う場合には、情報源や情報の信頼度について検討を加え、引用の際には引用部分を明確にするよう指導することが大切である。



確かに、生徒が「情報の収集・整理」や「分析・考察」する際には、ICT端末などを使って調べた情報の信頼度や引用についてはしっかり意識する必要があるので、このことをきちんと指導しよう。



今回の探究の過程のうち、「課題の設定」と「情報の収集・整理」と「分析・考察」には２時間くらいは必要だから、３、４時間目を充てよう。
また、「レポート作成・発表」も２時間くらいは必要だから、５，６時間目を充てよう。

結果的に、この単元を６時間で計画しよう。

【単元計画（例）】

時間	学習内容
1	科目ガイダンス
2	調べ学習とレポート作成の留意点の確認
3,4	課題の設定、情報の収集・整理、分析・考察
5,6	レポート作成・発表



もちろん、観点別学習状況の評価のことも考えないといけないな。
この単元では５，６時間目に実施するレポートと発表の内容を評価の材料として、「知・技」と「思・判・表」の観点で評価しよう。
また、「思・判・表」の観点で評価する際に、初発の思考に関連の深い「自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている」姿を主に見取ることにしよう。

単元の目標（評価規準）

知識及び技能（知・技）	思考力・判断力・表現力等（思・判・表）
科学技術の発展が人間生活に貢献してきたことを理解している。	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現している。

この単元で主に見取る【学びに向かう力の「見取る姿」】

・自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている。



このように、学習指導要領を活かして授業づくりすることがができるね。

この単元の学習を通して、生徒が少しでも統合的な理解・総合的な発揮を身に付けられるように、私も頑張ろう！

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【高等学校・理科】

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

科学と人間生活　単元名：科学技術の発展

（統合的な理解）　※直接の評価対象ではないことに留意
・科学の発展が今日の人間生活にどのように貢献してきたかを理解する。

（総合的な発揮）　※直接の評価対象ではないことに留意
・科学的に探究する学習活動を通して、科学と人間生活の関係を見いだして表現することができる

（単元目標・評価規準）知識及び技能
科学技術の発展が人間生活に貢献してきたことを理解している。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現している。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
6 5	●レポート作成・発表	「科学と人間生活」を学ぶ意義を理解する。 ⇔ 科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現する。
4 3	●課題の設定、情報の収集・整理、分析・考察	課題を解決するための手法を適切に選択し、探究の過程を遂行する。
2	●調べ学習とレポート作成の留意点の確認	理科の探究の過程を踏まえ、探究の過程全体を自ら遂行する方法について理解する。
1	●科目ガイダンス	科学技術の発展が、今日の人間生活に貢献していることを理解する。 ⇔ 事例を基に、科学技術の発展と人間生活との関係性を見いだす。

身近な事例を基に科学技術に対する興味・関心を高める。

※時間割は単元構想時に想定するが、実際には、単元目標の達成に向けて、探究活動を含む学習内容の進捗状況や生徒の理解等を踏まえて柔軟に再構成することが必要。

本単元の学習に関連が強い既習内容　（中学校）科学技術の発展

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）　【検討中参考イメージ】
・自然の事物・現象に興味・関心をもって、課題の解決に挑戦しようとしている。

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

理科の分野・領域の再編について

●系統性確保の観点から、**現行の２分野４領域を４分野に再編**

（現行）

分野	（中学校）第１分野		（中学校）第２分野	
領域	エネルギー	粒子	生命	地球
小学校	・風とゴムの力の働き　・光と音の性質 ・磁石の性質　・電気の通り道 ・電流の働き　・振り子の運動 ・電流がつくる磁力　・てこの規則性 ・電気の利用	・物と重さ　・空気と水の性質 ・金属，水，空気と温度 ・物の溶け方　・燃焼の仕組み ・水溶液の性質	・身の回りの生物 ・人の体のつくりと運動　・季節と生物 ・植物の発芽，成長，結実 ・動物の誕生　・人の体のつくりと働き ・植物の養分と水の通り道 ・生物と環境	・太陽と地面の様子 ・雨水の行方と地面の様子 ・天気の様子　・月と星 ・流れる水の働きと土地の変化 ・天気の変化　・土地のつくりと変化 ・月と太陽
中学校	・身近な物理現象 ・電流とその利用 ・運動とエネルギー ・科学技術と人間【分野横断】	・身の回りの物質 ・化学変化と原子・分子 ・化学変化とイオン ・科学技術と人間【分野横断】	・いろいろな生物とその共通点 ・生物の体のつくりと働き ・生命の連続性 ・科学技術と人間【分野横断】	・大地の成り立ちと変化 ・気象とその変化 ・地球と宇宙 ・科学技術と人間【分野横断】
高等学校	**《物理基礎》** ・物体の運動とエネルギー ・様々な物理現象とエネルギーの利用 **《物理》** ・様々な運動 ・波 ・電気と磁気 ・原子	**《化学基礎》** ・化学と人間生活 ・物質の構成 ・物質の変化とその利用 **《化学》** ・物質の状態と平衡 ・物質の変化と平衡 ・無機物質の性質 ・有機化合物の性質 ・化学が果たす役割	**《生物基礎》** ・生物の特徴 ・ヒトの体の調節 ・生物の多様性と生態系 **《生物》** ・生物の進化 ・生命現象と物質 ・遺伝情報の発現と発生 ・生物の環境応答 ・生態と環境	**《地学基礎》** ・地球のすがた ・変動する地球 **《地学》** ・地球の概観 ・地球の活動と歴史 ・地球の大気と海洋 ・宇宙の構造

（改訂案）

分野	物理分野	化学分野	生物分野	地学分野

高校「科学ガイダンス」に含まれる要素のイメージ

※**事例はイメージ**であり、生徒の興味関心等に応じ教科書や学校現場における創意工夫を期待。知識として**暗記することを想定しているものではない。**

1．科学とは何か、科学的とは何か

【ドラマなどの映像資料等の活用が考えられる】

➢ 科学は仮説を不断に検証する営みであること
（「不変の法則」を探究し続ける営みだが、その「事実」は変わりうること）

・科学の営みでは、発表された仮説や研究結果について、世界中の科学者が追加の検証を重ねて再現性を確認することで、より真理や真実に近づいていく。

・このため、ある時点での科学的知識（事実に対する認識や解釈）は新たな証拠によって更新されうるため、「絶対に正しい／間違っている」と単純に二分することは難しい。

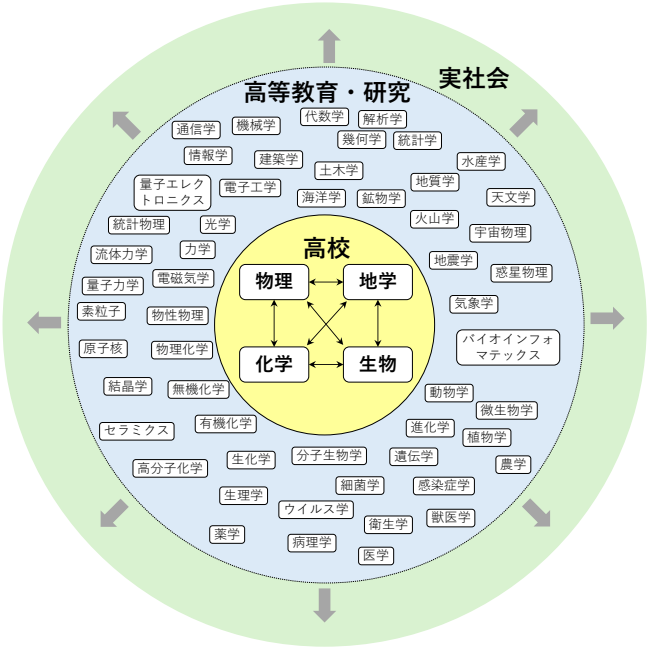
・例えば、一つの学説の確度は、専門家の議論段階から学術誌掲載、複数研究による支持、教科書記載へと至る過程で変わっていく。したがって、一論文の存在のみで正しさは判断できず、専門家集団の合意の度合いを見る必要がある。

※科学の可変性を学ぶことは「自分にもできる」という意識の涵養にもつながりうる

➢ 科学的な考え方
（例）科学と似非科学、デマ・フェイクニュース、誇大広告
← 客観性、再現可能性、論理性等の点から考える

2．理科の全体像、各分野間の関係

➢ 分野間の関係など
（例）アカデミア（高等教育・研究）における学問分野等



高校理科の科目間の関係やアカデミアでの高校理科の周辺学問とそれらの関係を紹介

【映像資料、教科書等の活用が考えられる】

3．研究倫理

※遵守すべき規範の暗記ではなく、背景等を学ぶことにより、具体的な探究の過程において意識できるようにする。

➢ 捏造、改ざん、盗用、不適切な研究行為など
（例）過去に起こった事件を基に、問題点や影響を考える

ある科学者がやってしまった、有機物による高温超伝導研究の研究成果の捏造

実験で得られたデータのうち、都合の良い物だけを選び、不都合なデータを恣意的に排除した不正行為

ある大学教授が単著論文で、教え子の修士論文を盗用

➢ 生命倫理の重要性
（例）生物多様性
生物の多様性の保全と持続可能な利用について考える
（例）動物実験の3R
生命の尊重と科学の発展について考える
（例）個人情報や人権への配慮
個人情報の扱いや人権侵害の有無について考える

【関係省庁や関係学協会等の資料等の活用が考えられる】

4．検証の方法

※概観を掴むに留め、具体的には各単元における科学的な探究の過程において指導する。

➢ 観察

対象を注意深く見て、その様子や変化等を記録すること

➢ 実験

目的をもって制御された条件下で、操作を行い、対象の様子や変化等を記録すること

➢ シミュレーション

観察、実験を実施することが困難な場合など、数理モデルを用いて計算することで、対象の様子や変化等を調べること

➢ 調査

実際の環境での生態や他の生物との関係など、実験室等で再現が難しいデータを取得すること
観察、実験を実施することが困難な場合など、既存の文献やデータ等を用いて調べること

個々の学習においては、適切な方法を選択し、具体的・詳細な検証方法を考え、実行する

5．研究･社会とのつながり

※研究の国際的な広がりについても意識できるような指導が望ましい

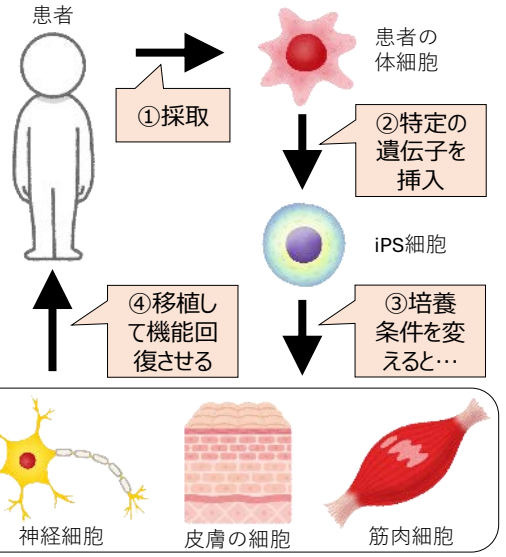
➢ 理科と研究とのつながり

（例）iPS細胞（人工多能性幹細胞）

生物基礎

遺伝情報の発現をDNAの塩基配列の翻訳と関連付けて学習

ヒトの生体内では、一度分化した細胞が未分化な状態に戻ることはない。しかし、iPS細胞はそれを可能にした細胞である。



2012年、山中伸弥氏は
ノーベル生理学・医学賞を受賞

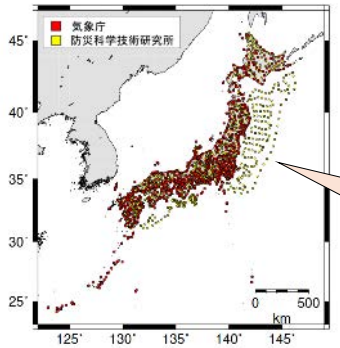
これを応用することで、再生医療や創薬研究、病態研究につながる！

➢ 理科と社会とのつながり

（例）地震波と緊急地震速報

地学基礎

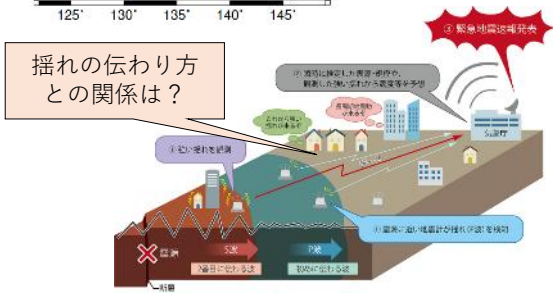
地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて学習



緊急地震速報に活用している観測点
（令和7年10月15日現在）

地震計の設置場所の意味は？

揺れの伝わり方との関係は？



（引用）気象庁　緊急地震速報のしくみ
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/eew/shikumi/shikumi.html

緊急地震速報が発出されると・・・

- スマホが鳴り出す
- 電車が停止する

等

【関係省庁や関係学協会等の資料、教科書等の活用が考えられる】

高等学校・理科の科目構成

＜選択必履修科目＞

科学と人間生活（4新単位）

科学と人間生活（8新単位）　新設

中学校までの学習を基礎とし、分野横断的かつ物理・化学・生物・地学の各分野について、自然や科学技術の発展と日常生活や社会との関係に着目することで、科学に対する興味・関心を高め、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成

物理基礎（4新単位）

化学基礎（4新単位）

生物基礎（4新単位）

地学基礎（4新単位）

中学校までの学習を基礎とし、日常生活や社会との関連を図りながら、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成

※選択必履修科目間には、履修の順序はない

＜選択科目＞

物理（8新単位）

化学（8新単位）

生物（8新単位）

地学（8新単位）

「○○基礎」と関連を図り、当該分野の事物・現象を更に深く取り扱い、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成

※「物理」「化学」「生物」「地学」の各選択科目については、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修

「科学と人間生活」の内容構成

【現行】

（1） 科学技術の発展 ← 分野横断
（2） 人間生活の中の科学
（ｱ） 光や熱の科学 ← 物理分野
㋐ 光の性質とその利用
㋑ 熱の性質とその利用
} いずれか１つを履修
（ｲ） 物質の科学 ← 化学分野
㋐ 材料とその再利用
㋑ 衣料と食品
} いずれか１つを履修
（ｳ） 生命の科学 ← 生物分野
㋐ ヒトの生命現象
㋑ 微生物とその利用
} いずれか１つを履修
（Ｉ） 宇宙や地球の科学 ← 地学分野
㋐ 太陽と地球
㋑ 自然景観と自然災害
} いずれか１つを履修
（3） これからの科学と人間生活 ← 分野横断

【改訂案】

（1） 科学技術の発展 ← 分野横断
（2） 人間生活の中の科学
内容を見直し
（ｱ） 物理分野
㋐ ・・・
㋑ ・・・
（ｲ） 化学分野
㋐ ・・・
㋑ ・・・
（ｳ） 生物分野
㋐ ・・・
㋑ ・・・
（Ｉ） 地学分野
㋐ ・・・
㋑ ・・・

(2)の（ｱ）～（Ｉ）の履修方法：
・**８新単位の場合**
㋐及び㋑の両方を履修
OR
・４新単位の場合
㋐又は㋑のいずれか１つを履修

（3） これからの科学と人間生活 ← 分野横断

必履修科目の組合せ

【現行】

・「科学と人間生活」と「○○基礎」の１科目（4単位）
・「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち、３科目（6単位）

【改訂案】

・**「科学と人間生活(８)」の１科目（８新単位） ← 新設**
・「科学と人間生活(４)」と「○○基礎」の１科目（８新単位）
・「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち、３科目（12新単位）

理科における学習内容の見直し・精選等の考え方

➢ 「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえた学習内容の見直し・精選等

- 今般の構造化に係る全体的な議論及び理科の教科の特性等を踏まえれば、以下の方針で学習内容の見直し・精選を図り、次期学習指導要領とその解説を作成することが必要。
  - ✓ 「統合的な理解」「総合的な発揮」の形成に必要不可欠な「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を中心に配列することとし、必ずしも不可欠とはいえない内容については精選する。
  - ✓ 理科という教科固有の特徴として、同じ事物・現象を発達段階に応じて繰り返し（スパイラル）で学習するが、学年間や学校種間で重複が大きい部分については整理する。
  - ✓ 小・中・高等学校を通貫した学習内容の系統性、一貫性、連続性の観点から内容の見直しを図る。

※ 見直し・精選等に当たっては、児童生徒の発達の段階を踏まえる必要がある。

【検討例】 小学校・第３学年の「風とゴムの力の働き」を「力の働き」に見直し
（考え方）物理分野の統合的な理解「力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。」に照らせば、必ずしも本単元で“風”と“ゴム”の２つを扱うことが不可欠とは言えないことから、学習内容の規定としては１つに見直し。（※ 指導に当たってもう一方を扱うことを妨げるものではない。）
なお、第３学年で「磁石の力」についても学ぶことから、これらを学ぶことにより「力」についての統合的な理解を図る。

➢ 教科書のあり方の検討を通じた学習内容の見直し・精選等

（前提として、学習指導要領及び解説において取り扱うべき内容をより明確にすることが必要。また、全体の分量を増やすことの無いよう留意が必要。）

【検討例】

- 観察、実験のやり方について、教師が適切に選択しやすい構成とする（観察、実験の安易な削減につながらないよう留意）
- 帰納的指導法と演繹的指導法を効果的に組み合わせやすい構成とする
- 同一の概念の獲得に当たり多数の個別事実・用語・現象例が並列的に掲載されている箇所については例示を精選する等

※小学校においては理科の指導経験が浅い／指導が苦手な教師を中心に、また、中・高等学校においては受験指導を意識することから、教師が教科書を網羅的に指導する傾向があるとの指摘がある。このため、教科書の個別の内容について、「統合的な理解・総合的な発揮」を育成する上で必ず取り扱うべき内容なのか、必要に応じて扱うべき内容なのかといった扱いの必須性の程度が分かるよう、教科書会社に教師用指導書上での工夫等を要請することも考えられる。（なお、学習指導や教科書の改善を実効性あるものにするためには、理科に限らず高等学校入試の改善を一層進めていく必要がある。）

目標の整理について

●教科「理数」

分野横断的な課題も想定されるため削除

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
理数	様々な事象に関わり，数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ，探究の過程を通して，課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。	多角的，複合的に事象を捉え，数学や理科などに関する課題を設定して探究し，課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。	様々な事象や課題に向き合い，粘り強く考え行動し，課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度，探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

「学びに向かう力、人間性等」に位置付け

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
理数	事象や社会の課題を数理的・科学的に探究する資質・能力について、探究の過程を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義を理解する。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	○知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 ○多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 ○事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

表現する力も明示

「探究の意義」に対する生徒の理解の状況も踏まえ、目標に明示

新しい「見方・考え方」について

（現行）

【目標の柱書】
　様々な事象に関わり，数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ，・・・

（数学的な見方・考え方）
事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的，体系的に考えること

（理科の見方・考え方）
自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

（改訂案）

事象や社会の課題、言説を、数理的・科学的な視点から捉え、論理的、統合的、批判的に考察すること。

※あくまで、根拠を確認し、根拠に基づいて評価し、多面的に検討するといった建設的 な目的での「批判的」であることを解説等で示す必要。

（参考）

【数学】
事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること
【理科】
自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察、実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

高等学校共通教科「理数科」の目標、見方・考え方（案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義を理解する。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	• 知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 • 多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 • 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
理数探究基礎	数理的・科学的な探究の意義や研究倫理について理解するとともに、探究の方法についての知識及び技能を身に付ける。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	• 知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 • 多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 • 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。
理数探究	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義や研究倫理への理解を深める。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	• 知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 • 多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 • 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

見方・考え方

- 事象や社会の課題、言説を、数理的・科学的な視点から捉え、論理的、統合的、批判的に考察すること

資質・能力の全体構造（案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	理数探究基礎	**統合的な理解** 探究には、守るべき倫理とともに課題を数理的・科学的に解決するための手法や進め方があり、それらを踏まえることで、課題の解決につながることを理解する。	**総合的な発揮** 事象について課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決を図り、その過程や結果を適切に表現する。
		内容項目例	
		• 探究の意義についての理解 • 探究の過程についての理解 • 研究倫理についての理解 • 観察、実験、調査等についての基本的な技能 • 事象を分析するための基本的な技能 • 探究した結果をまとめ、発表するための技能	• 課題を設定する力 • 数理的・科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 • 探究の過程や結果をまとめ、適切に表現する力
	理数探究	**統合的な理解** 探究は、自ら設定した課題について、研究倫理を踏まえながら数理的・科学的な手法を用い、他者と議論することで、新たな価値の創造につながることを理解する。	**総合的な発揮** 知的好奇心や問題意識に基づいて課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決を図り、その過程や成果を適切に表現して議論し、探究を深める。
		内容項目例	
		• 探究の意義についての理解 • 探究の過程についての理解 • 研究倫理についての理解 • 観察、実験、調査等についての技能 • 事象を分析するための技能 • 探究の成果などをまとめ、発表するための技能	• 課題を設定する力 • 数理的・科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 • 探究の過程を整理し、成果などを適切に表現する力

※内容項目例については現行学習指導要領をベースとしたもの。

科目「理数探究基礎」「理数探究」

（現行）

教科	柱書		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
理数探究基礎	様々な事象に関わり，数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ，探究の過程を通して，課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	探究するために必要な基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。	多角的，複合的に事象を捉え，課題を解決するための基本的な力を養う。	様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い，粘り強く考え行動し，課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を養う。
理数探究	様々な事象に関わり，数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ，探究の過程を通して，課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。	多角的，複合的に事象を捉え，数学や理科などに関する課題を設定して探究し，課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。	様々な事象や課題に主体的に向き合い，粘り強く考え行動し，課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度，探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

「等」：基本的な知識及び技能を身に付ける学習段階を想定

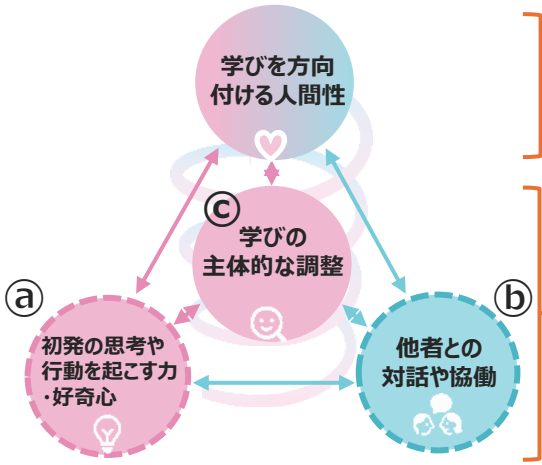
（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
理数探究基礎	事象や社会の課題を数理的・科学的に探究する資質・能力について、課題についての探究の過程等を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	数理的・科学的な探究の意義や研究倫理について理解するとともに、探究の方法についての知識及び技能を身に付ける。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	○知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 ○多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 ○事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。
理数探究	事象や社会の課題を数理的・科学的に探究する資質・能力について、主体的に設定した課題についての探究の過程を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義や研究倫理への理解を深める。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	○知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 ○多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 ○事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

※「探究の過程」「探究の方法」「数理的・科学的な手法」については、解説において丁寧に説明する必要。
※理数探究(基礎)では、探究の方法についての知識及び技能を身に付けるのみならず、数学科・理科における既習事項を活用して探究の過程を進めることにより、数学科・理科の資質・能力の深化や、学ぶ意欲の高まり等につながることについて、解説等において丁寧に説明する必要。

目標のうち「学びに向かう力、人間性等」について



【上部】当該教科等の学習で育まれる、人生や社会に向かう際の情意や感性に関わる部分(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)

以下②に該当

【下部】当該教科等の学習で育まれる、学びに向かう態度に関わる部分(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

以下①に該当

理数科で検討

① 共通教科「理数科」の学習で育みたい学びや生活に向かう態度



事象や社会の課題に知的好奇心や問題意識をもって向き合い、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度



探究の実施・改善や課題の解決、新たな価値の創造に向けて、先行研究を含め、多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度、科学や生命、人権等を尊重した研究における倫理的な態度

② 共通教科「理数科」の学習で育みたい情意・感性



事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、倫理観に従って新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意

①②を踏まえ

箇条書きで規定

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

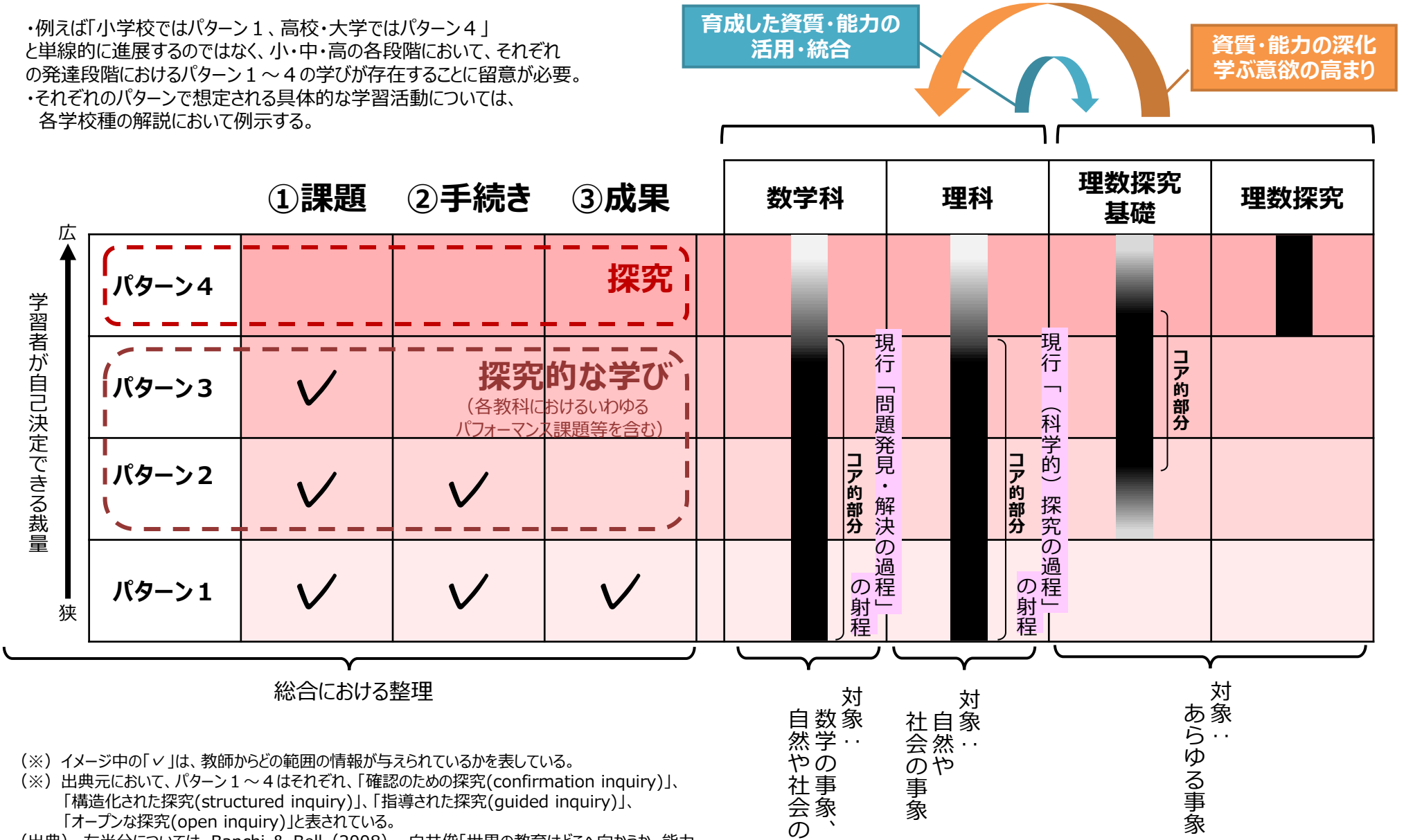
人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す

○知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。
○多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。
○事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

※「新たな価値の創造」については、その具体的に意味するところや今日的な意味の広がりについて、解説等で丁寧に示す必要。

高校の数学科・理科と共通教科「理数科」における探究的学びのイメージ

・例えば「小学校ではパターン１、高校・大学ではパターン４」と単線的に進展するのではなく、小・中・高の各段階において、それぞれの発達段階におけるパターン１～４の学びが存在することに留意が必要。
・それぞれのパターンで想定される具体的な学習活動については、各学校種の解説において例示する。



（※）イメージ中の「✓」は、教師からどの範囲の情報が与えられているかを表している。
（※）出典元において、パターン１～４はそれぞれ、「確認のための探究(confirmation inquiry)」、「構造化された探究(structured inquiry)」、「指導された探究(guided inquiry)」、「オープンな探究(open inquiry)」と表されている。
（出典） 左半分については、Banchi & Bell（2008）、白井俊「世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング」をもとに作成

（※）イメージ中のグラデーション部分は、教科の目標の達成に資する場合、学校・児童生徒の状況等に応じて取り組むことも考えられるが、全ての学校等での実施が想定されるものではないことを意味する。